

「授業に生かす生徒指導の在り方」 に関する調査研究 〈最終報告〉



平成25年3月

総合教育センター 指導相談担当



埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

○ 目 次

○ 目次	1
○ 概要	1
1 研究の目的	2
2 研究の内容	3
3 授業に生かす生徒指導とは	6
4 研究Ⅰ「教員対象のアンケート調査」について	10
5 研究Ⅱ「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の作成	46
6 研究Ⅲ「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の検証	49
7 研究の成果と今後の課題	75
8 参考・引用文献等	75
9 研究協力委員等	76

○ 概 要

学校における生徒指導上の諸問題の解決は、本県の喫緊の教育課題である。現在、学校では、その課題解決に向けて様々な取組が行われているが、その方策の一つとして、授業における生徒指導を充実させることが極めて重要である。授業における一人一人の児童生徒の意欲的な学習を促し、本来の各教科等のねらいの達成や進路の保障につながる授業を行うことが問題行動の未然防止につながると考える。

そこで、総合教育センターでは、授業において効果的に機能する生徒指導の在り方について、平成23年度から平成24年度までの2年間、研究を進めることとした。本年度は研究2年目として、具体的に、下記の事項について研究を行った。

- 1 平成23年度に作成した「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の内容について、修正及び改善を図った。
- 2 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の活用に係る検証方法として、児童生徒対象アンケート調査を研究協力校で実施した。
- 3 児童生徒アンケート結果の分析・考察を踏まえ、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」を完成した。

本報告書では、昨年度及び本年度の研究の内容や、成果と課題について報告する。

なお、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」については、総合教育センターのホームページ上に、別途掲載する。

1 研究の目的

(1) 研究主題設定の理由・背景及びその目的

学校における生徒指導上の諸問題は、極めて多岐にわたるものとなっている。基本的な生活習慣にかかわる日常の生徒指導上の問題はもとより、不登校や中途退学、いじめ、暴力行為などの諸問題等も、依然として深刻な状況にある。その原因の一つとして、日々の授業において、分かる喜びや学ぶ意義を実感できず、児童生徒が苦痛や劣等感を味わうことで、情緒が不安定になり、様々な問題行動の一因となっているとも考えられる。一方、学校生活の基本は授業である。したがって、創意工夫ある学習指導を展開し授業を充実させることこそが、学校教育における課題解決の基盤となる。

そこで、本研究では、一人一人の児童生徒の意欲的な学習を促し、本来の各教科等のねらいの達成や進路の保障につながる授業を行うことが問題行動の未然防止につながると考え、本研究主題を設定した。しかし、本研究は、各教科・科目等に関する専門的な指導上の工夫や技術について追究するものではない。あらゆる教科・科目に共通している、授業における積極的な生徒指導の在り方を見据えようとする研究である。すなわち、授業において効果的に機能する生徒指導の在り方について研究し、その研究成果を学校現場に還元することで、授業者である教員の資質を高めることを目的としている。また、そのことによって、児童生徒の生徒指導上の諸問題の解消を図るとともに、確かな学力の向上にもつなげようとするものである。

(2) 具体的な研究目標

学習指導において生徒指導の機能を生かすためには、児童生徒の基本的な学習態度の在り方等について指導を行うこと及び児童生徒が意欲的に学習に取り組めるよう創意工夫ある指導を行うことが重要である。本研究では、教員の取組状況、意識などを調査し、授業における生徒指導の在り方について、現在、学校が抱えている課題を明確にする。そして、その課題を解決するために、生徒指導の機能を生かした、「分かる授業」、「できる授業」を展開するためのポイントをまとめ、考察し、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」として提案していく。

研究2年目は、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」が、学校で活用されるものとなるよう、その効果について検証し、授業改善の手引きを完成させる。

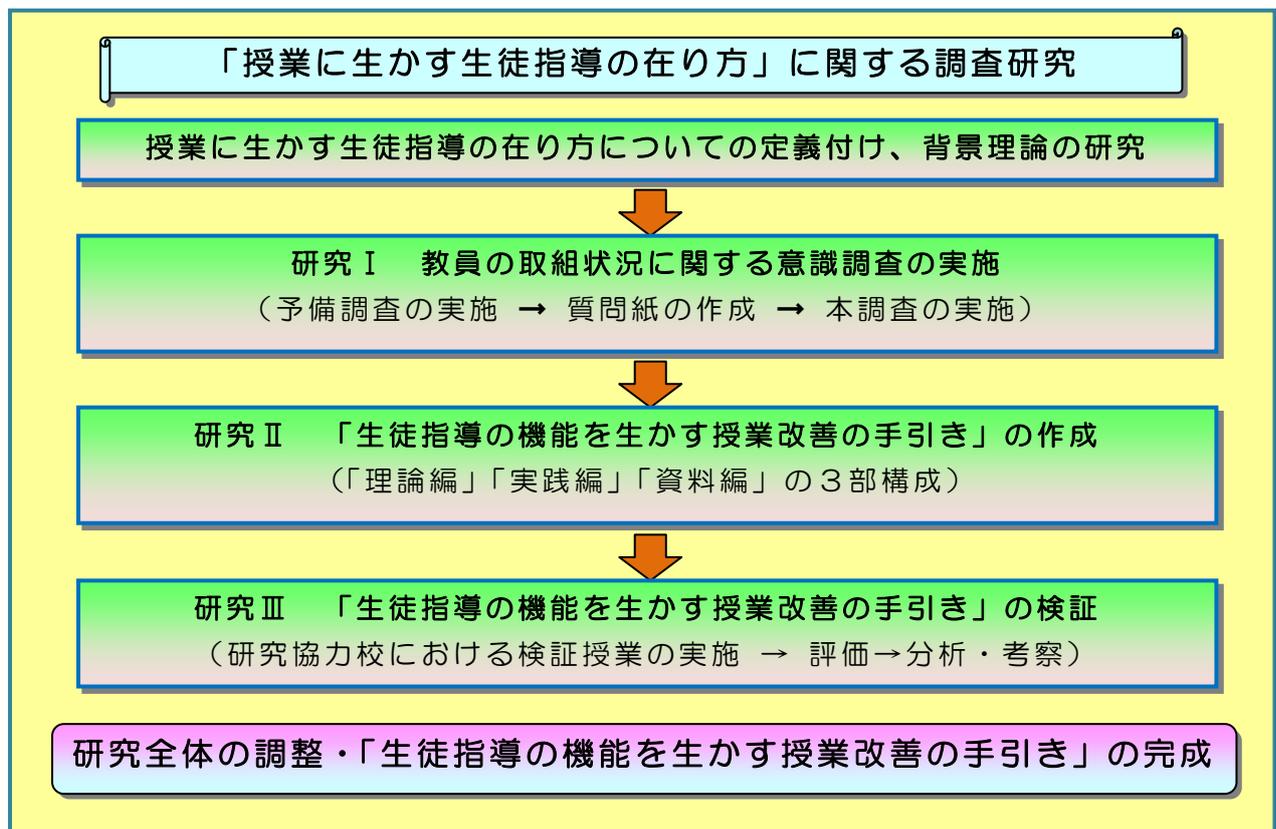


2 研究の内容

(1) 研究の方法

本研究は、下記の方法及び手順に沿って進めることとした。

- ア 授業に生かす生徒指導の在り方について、「生徒指導提要」（平成22年3月：文部科学省）を踏まえ、定義付けを行う。＜平成23年度＞
- イ 授業における生徒指導の在り方に関する教員の取組状況について意識調査を行う。【研究Ⅰ】＜平成23年度＞
- 教員の取組状況を調査する際のポイントを明確にするために、質問紙作成に資するための予備調査（自由記述式による調査）を実施する。
 - 予備調査の結果を踏まえ、授業における生徒指導の在り方に関する教員の取組状況に関する意識調査（4件法及び自由記述式による調査）を実施する。
 - 調査結果を考察し、課題を明確にする。
- ウ 意識調査の結果を踏まえ、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」を作成する。【研究Ⅱ】＜平成23年度＞
- エ 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」が、より活用されるものとなるよう、研究協力校における検証を実施し、改善に生かす。
- 【研究Ⅲ】＜平成24年度＞
- 学校での活用の効果について、児童生徒アンケートを実施し、成果と課題をまとめる。



(2) 研究の流れ

ア 平成23年度

	内 容
6月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回研究協力委員会 (1) 研究の概要及び今後の方向性について (2) 「授業に生かす生徒指導の在り方」の定義について (3) 教員の取組状況及び意識に関するアンケートについて (4) 研究の具体的な進め方及び分析・考察の在り方について (スーパーバイザーからの指導・助言)
<6～8月> …	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の取組状況及び意識に関するアンケートの作成に係る予備調査質問紙の作成・検討 → 研究協力校を対象に実施 ・予備調査回答結果のまとめ及び考察
8月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回研究協力委員会 (1) 教員の取組状況及び意識に関するアンケートの作成に係る予備調査結果の考察について (2) 予備調査結果を踏まえた本調査質問項目の作成について
<9～10月> …	各委員による本調査質問項目の作成作業
10月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3回研究協力委員会 (1) 教員の取組状況及び意識に関するアンケートでの質問項目の決定について (2) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の概要及び様式等について
<10～11月> …	各委員による本調査アンケートの実施
12月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第4回研究協力委員会 (1) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の概要及び様式等について (第3回委員会の検討内容の深化) (2) 中間報告書の作成について
<12～2月> …	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の作成 ・中間報告書の作成

イ 平成24年度

	内 容
5月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回研究協力委員会 (1) 研究の概要、平成23年度の研究状況及び平成24年度の研究の流れについて (2) 平成23年度実施「『授業に生かす生徒指導の在り方』に関するアンケート」結果の考察について (3) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の内容の検討について (※第1回から第4回まで継続協議)
<5～7月> …	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の修正・改善 ・「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の効果の検証方法の策定

7月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●第2回研究協力委員会 (1) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の効果の検証方法について→児童生徒対象アンケートの実施 (2) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の内容の検討について
<7～9月> …	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の修正・改善 ・研究協力校における児童生徒対象アンケート(第1回)の実施及びその結果に対する分析・考察
9月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●第3回研究協力委員会 (1) 児童生徒対象アンケート(第1回)の分析・考察について (2) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の内容の検討について (3) 研究の終結に向けてのスーパーバイザーからの指導・助言
<9月～11月> …	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の修正・改善 ・研究協力校における児童生徒対象アンケート(第2回)の実施及びその結果に対する分析・考察
12月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ●第4回研究協力委員会 (1) 児童生徒対象アンケート(第1回及び第2回)の分析・考察及び回答結果の変容状況等について (2) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の内容の検討について (2) 最終報告書の骨子について
<12～2月> …	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の完成 ・最終報告書の作成及び完成

(3) 研究を進める際の留意点

<p>ア 学校の現状を踏まえ、教員のニーズに十分応えることのできる研究となるよう留意する。</p> <p>イ 「児童生徒の総合的な『学力の向上』を支援する」という観点で、研究成果をまとめる。</p> <p>ウ 先行研究等を参考に研究を進め、工夫・改善を図りながら、小学校・中学校・高等学校の各校種の実情や特色を踏まえた研究とする。</p> <p>(先行研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「中学校における積極的な生徒指導の在り方に関する研究—日常の授業に生徒指導の機能を生かす手引きの作成をとおして—」(平成16年度 岩手県立総合教育センター) ● 「よりよい生徒指導に向けて」(平成23年3月改訂 山口県教育委員会) など <p>エ 研究の成果は、総合教育センターの各種研修会やホームページを通して、各学校等に情報提供する。</p>
--

3 授業に生かす生徒指導とは

(1) 生徒指導の意義

平成22年3月、文部科学省から、学校・教員向けの生徒指導の基本書である「生徒指導提要」が刊行された。これは、昭和56年に刊行された「生徒指導の手引（改訂版）」（昭和56年）から、約30年ぶりに全面改訂された手引書であり、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめられた内容となっている。「生徒指導提要」第1章第1節の1の冒頭には、生徒指導の意義が、下記のように述べられている。

生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指しています。生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つものと言えます。

各学校においては、生徒指導が、教育課程の内外において一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要です。

このように、生徒指導は、学校が教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義をもつ機能であるが、学習指導を展開する際にも、生徒指導を充実させることが極めて重要である。換言すれば、児童生徒の潜在的な学びの能力を引き出し、学力向上を図るためには、生徒指導の機能を十分生かすことが欠かせないのである。

(2) 学習指導における生徒指導

学習指導における生徒指導の側面について、「生徒指導提要」第1章第2節の2には、下記のように述べられている。

学習指導における生徒指導としては、次のような二つの側面が考えられます。一つは、各教科等における学習活動が成立するために、一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組めるよう、基本的な学習態度の在り方等についての指導を行うことです。もう一つは、各教科等の学習において、一人一人の児童生徒が、そのねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導を行うことです。

このように、学習指導における生徒指導には、「基本的な学習態度を児童生徒に身に付けさせる指導」と「児童生徒の意欲を引き出すような創意工夫ある指導」の2つの側面があるとしている。つまり、前者は、「児童生徒の学習場面への適応をいかに図る

か」という生徒指導の側面、後者は、「各教科等のねらいの達成や進路保障につなげるとともに、社会的な自己実現や自己指導能力の育成をいかに図るか」という生徒指導の側面である。

これまで、学習指導における生徒指導というと、始業時の挨拶指導や着席指導、私語や無駄話に対する指導など、学習規律を確立する指導に意識が向きがちであったと言える。しかし、これからの生徒指導は、後者の視点に立ち、一人一人の児童生徒にとって「分かる授業」を展開し、児童生徒が主体的かつ意欲的に授業に取り組めるよう創意工夫を図ることが一層必要になってくる。

本研究においても、学習指導における生徒指導の2つの側面である、「基本的な学習態度を児童生徒に身に付けさせる指導」と「児童生徒の意欲を引き出すような創意工夫ある指導」の在り方について研究し、これらが効果的に機能するためのポイントをまとめ、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」を作成する。

(3) 生徒指導の機能を生かすために留意する3つの視点

学習指導における生徒指導の2つの側面である「基本的な学習態度を児童生徒に身に付けさせる指導」と「児童生徒の意欲を引き出すような創意工夫ある指導」のうち、後者の指導を展開するためには、次の3つの視点に、特に留意することが必要である。

- ① 児童生徒に**自己存在感**を与えること
- ② **共感的な人間関係**を育成すること
- ③ **自己決定の場**を与え、自己の可能性の開発を援助すること

(「生徒指導提要」第1章第2節)

この3つの視点は、学習場面のみならず、全ての教育活動において生徒指導を充実させるために重要である。特に、学校の教育活動の大半を占める学習指導を充実させるためには、これらの機能を生かして授業の工夫を図ることが求められる。

例えば、児童生徒に自己存在感を与えるためには、一人一人のよさをほめたり、興味関心を取り上げたりする指導、共感的な人間関係を育成するためには、児童生徒が互いの考えを交流したり、互いのよさを学び合う機会を設けたりする指導、自己決定の場を与えるためには、児童生徒に課題や目標を設定させたり、自ら調べさせたりする指導など、様々な工夫が考えられる。

このような指導を実践することは、児童生徒の自己肯定感を高め、児童生徒相互、あるいは教員と児童生徒とのよりよい人間関係の構築につながり、ひいては、生徒指導の目指すところである個性の伸張及び社会的資質や行動力の向上に結び付くであろう。

(4) 学習指導を支える学級・ホームルーム経営

学習指導における生徒指導の機能を十分果たすためには、授業場面での指導を充実させることのみでは不十分である。一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組めるよう、また、意欲的に学習に取り組めるよう、学級・ホームルーム経営を通して望ましい学習集団をつくることが重要である。児童生徒が、学習に取り組む際

のルールを身に付け、また、共に認め、高め合う学習集団にするため、学級・ホームルーム内の規範意識や支持的風土を醸成することが一層必要となる。「生徒指導提要」第2章第1節の1には、下記のように述べられている。

毎日の教科指導において生徒指導の機能を発揮させることは、児童生徒一人一人が生き生きと学習に取り組み、学校や学級・ホームルームの中での居場所をつくることにほかなりません。このことには、児童生徒一人一人に自己存在感や自己有用感を味わわせるとともに、自尊感情を育て、自己実現を図るという重要な意義があります。また、教科において生徒指導を充実させることは、学級・ホームルームでの座席やグループの編成などを工夫することでもあり、学習集団における人間関係を調整・改善し、豊かな人間性を育成することにつながります。

このように、学習指導における生徒指導を機能させ、児童生徒の学力向上に結び付く授業を実践する基盤として、学級・ホームルーム経営能力は欠かせない要素なのである。

(5) 授業に生かす生徒指導の在り方

以上、授業において効果的に機能する生徒指導の在り方、その側面と重要性、また、授業力を支える学級・ホームルーム経営能力などについて述べてきた。上述の内容を踏まえ、本研究では、授業に生かす生徒指導の在り方を研究する際の観点を、以下のとおり、3点にまとめた。

- ① 一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の下で学習に取り組めるような基本的な学習態度を身に付けさせるための指導はどうあるべきか
- ② 各教科等の学習において、一人一人の児童生徒が、そのねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるような一人一人を生かした創意工夫を図るための指導はどうあるべきか
- ③ 一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の下で意欲的に学習に取り組む学習集団となるような授業を支える学級・ホームルーム経営における指導はどうあるべきか

上記の3点を踏まえ、教員の取組状況に関する意識を調査し、現在、学校が抱えている課題を明確にするとともに、その課題解決のための「授業に生かす生徒指導の在り方」のポイントをまとめ、その検証を行い、授業改善の手引きとして作成する。



4 研究 I 「教員対象のアンケート調査」について

○「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート

＜予備調査＞の結果及び考察

(1) アンケート調査の目的

授業に生かす生徒指導の在り方について、学校が抱える課題を明確にするための教員対象のアンケート調査用紙（質問紙）を作成するために、教員の実践例、ニーズ、困っていることなどを予備的に調査し、その結果を考察し、質問紙作成に資する。

(2) 調査の対象

埼玉県公立小学校・中学校・高等学校の教員 120名

(3) 調査の時期

平成23年7月

(4) 調査の内容

下記の質問項目に対して、自由記述により回答する（質問1は選択回答）。

質問1 （省略） ※回答者の属性（校種、担当学年等）に関する質問項目

質問2 児童生徒に、基本的な学習態度（実習・実技等での態度も含む）を身に付けさせるために、あなたが具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。

質問3 児童生徒の、学習（実習・実技等も含む）に対する意欲を引き出すために、あなたが具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。

質問4 質問1で「担任」と回答した先生にお聞きします。

あなたが学級経営（またはホームルーム経営）において生徒指導を行う上で、具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。

(5) 調査の結果及び考察

質問2～4の回答（具体的な取組）について、その内容を観点ごとに整理し、回答者の累積人数を校種ごとにまとめ、考察した。

観点	No	具体的に(重点を置いて) 取り組んでいること	質問2 (基本的な学習 態度)				質問3 (意欲を引き出す 工夫)				質問4 (学級・HR 経営 の取組)				質問2 ～4 の計	
			小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計		
基本的な学習 態度の指導に 関する項目	1	挨拶・号令	7	10	11	28	0	0	0	0	0	0	1	1	29	
	2	授業中の姿勢(座り方・立ち方など)	10	11	2	23	0	0	0	0	0	0	0	0	23	
	3	時間を守らせる指導(チャイム着席・遅刻 指導などを含む)	2	7	9	18	1	0	0	1	0	1	3	4	23	
	4	できるまで何度も(粘り強く、徹底して)繰り 返す指導	7	8	1	16	0	1	2	3	1	2	0	3	22	
	5	話を聞く際の姿勢・態度・心構え	5	11	1	17	0	0	0	0	0	0	1	1	18	
	6	教材・教具・学用品などの準備または机上 や身の回りの整理整頓	3	5	6	14	0	0	1	1	0	0	1	1	16	
	7	学習・実習・実技・作業などに関するわかり やすい(具体的な)指示	10	4	0	14	0	1	0	1	1	0	0	1	16	
	8	「ダメなものダメ」という毅然とした指導	3	0	4	7	0	0	1	1	3	3	0	6	14	
	9	服装・身だしなみの指導	0	2	7	9	0	0	0	0	1	1	2	4	13	
	10	提出物に関する指導	0	2	7	9	0	0	3	3	0	1	0	1	13	
	11	挙手・発表・発言の際のルールや態度	6	6	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12	
	12	教員が時間を守る姿勢を示す指導	0	8	3	11	0	0	0	0	0	1	0	1	12	
	13	返事	5	3	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	14	私語・ムダ話への注意・指導	0	3	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
	15	忘れ物に関する指導	0	5	2	7	0	0	0	0	1	0	0	1	8	
	16	丁寧な言葉づかいの指導(児童生徒に)	4	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
	17	年度当初の趣意説明(規律・ルールなど)	2	1	1	4	0	1	0	1	0	0	0	0	5	
	18	宿題・家庭学習の充実	0	1	2	3	0	1	1	2	0	0	0	0	5	
	19	丁寧な言葉づかいの実践(教員による)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	
意欲を引き出す 工夫に関する項目	20	ほめること	7	1	3	11	15	11	4	30	8	4	3	15	56	
		ほめる内容 (内数)	意欲・関心・態度・プロセスなどを	0	0	1	1	4	0	1	5	0	0	0	0	6
			成果・行動・できたこと・守れた こと・取組などを	5	1	2	8	6	5	2	13	6	2	2	10	31
			(具体的記述なし)	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	3
		ほめる方法 (内数)	言葉で・具体的に・わかりやすく	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	3
			みんなの前で	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	3	4
			手本・模範演技をさせて	2	0	0	2	1	2	1	4	0	0	0	0	6
			タイミングよく	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
			オーバーに・大きな声で	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
			誠実に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
児童生徒による発表・発言・話し合い・協同 作業・グループ活動などの充実(参加型授 業・対話型授業・課題解決型授業の展開な ども含む)	0		4	2	6	10	9	14	33	4	3	1	8	47		

観 点	No	具体的に(重点を置いて) 取り組んでいること	質問2 (基本的な学習 態度)				質問3 (意欲を引き出す 工夫)				質問4 (学級・HR 経営 の取組)				質問2 ～4 の計
			小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計	
意 欲 を 引 き 出 す 工 夫 に 関 す る 項 目	22	児童生徒にとって興味関心(食べ物・アイドル・ゲームなど)があるものや身近に感じられるものなどを授業に取り入れる工夫	2	0	1	3	1	12	11	24	0	0	0	0	27
	23	教員による評価(成績など)の工夫(ただし、「ほめる」「ごほうびをあげる」などは除く)	0	0	5	5	3	4	7	14	0	0	0	0	19
	24	視聴覚教材(ICTの活用なども含む)・具体物・教具などの活用	1	1	0	2	8	5	2	15	0	0	1	1	18
	25	指導(学習面、規律面など)の理由や根拠の説明(説得)、趣意説明の徹底、授業のねらいや指導目標の明確化	3	1	1	5	3	5	0	8	0	1	1	2	15
	26	教員による報償(具体的なごほうび・ポイント・スタンプ・シールなど)の工夫	0	0	0	0	6	4	3	13	1	0	0	1	14
	27	児童生徒の習熟度・到達度・能力などを踏まえた指導の充実(個別指導の充実なども含む)	0	0	0	0	2	5	5	12	0	0	0	0	12
	28	教材研究・教材作成・授業準備の工夫・充実	1	1	0	2	1	4	2	7	0	0	0	0	9
	29	児童生徒による自己評価の導入またはその工夫	0	1	0	1	0	5	1	6	2	0	0	2	9
	30	わかりやすい説明・発問・話し方の工夫	0	1	0	1	1	1	4	6	0	1	0	1	8
	31	児童生徒による相互評価の導入またはその工夫(競争意識・ライバル意識の育成なども含む)	1	0	0	1	0	3	3	6	0	0	0	0	7
	32	児童生徒に目標をもたせること(または目標を達成させて自己肯定感を高めること)、または計画などを立てさせること	0	1	0	1	2	0	3	5	0	1	0	1	7
33	板書の工夫	0	0	1	1	1	0	2	3	0	0	0	0	4	
学 級 ・ ホ ー ム ル ーム 経 営 に 関 す る 項 目	34	(教員による)児童生徒への声かけ・児童生徒とのコミュニケーションや関わりの充実	2	3	3	8	2	2	3	7	4	5	6	15	30
	35	面談(定期面談、チャンス面談含む)の充実・児童生徒の話の傾聴	0	0	3	3	1	2	1	4	4	4	10	18	25
	36	教室内(または実習・実技の場)の美化・整頓・環境整備(列の整頓、掲示物の工夫・活用、清掃指導などを含む)	1	1	4	6	2	3	0	5	0	5	7	12	23
	37	児童生徒理解(または保護者・家庭への理解も含む)を深めること(観察、アンケート・表記物や作品などを通して、ただし面談・面接は除く)	0	1	0	1	0	0	0	0	5	7	2	14	15
	38	学級・ホームルーム通信の発行・保護者への情報提供など	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	6	6
	39	校内教職員との連携(共通行動など)や報・連・相の徹底、または関係機関との連携	0	1	0	1	0	2	0	2	3	0	0	3	6
	40	児童生徒一人一人の役割や責任の明確化(「集団の一員として」という観点なども)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	4	5
	41	児童生徒への公平・平等な態度	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	3
	42	児童生徒と同じ目線になること	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2
43	自己決定の場面を与えること	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	

- ① 表中の数字は回答人数であるが、回答者以外の教員が、当該項目に関する取組を行っていないということではないことを踏まえる必要がある。
- ② 記載内容を観点ごとに分類する際は、質問2～4のうち回答者数が最も多かった観点内のカテゴリにおける取組としてまとめた。(例：表中項目No.1「挨拶・号令」は、質問2と4のそれぞれに回答があったが、回答者数の多い質問2の観点としてまとめた。)

<具体的な回答例>

質問2 児童生徒に、基本的な学習態度（実習・実技等での態度も含む）を身に付けさせるために、あなたが具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。

※（ ）内は回答者の所属する校種

- 挨拶をしっかり指導する。机上が、机を整える。姿勢、言葉づかい等、気が付いたときに注意する。（小学校）
- 背もたれに寄りかからず腰骨を立てる。姿勢よく目を見て話を聞く。指名されたときは、返事をしっかりしてから発言させる。（小学校）
- 年度当初に授業の決まりとその理由を説明し、その後、できていなければ例外なく注意する。（中学校）
- 授業のチャイムの前に教室に行く。教科書等の準備、忘れ物の確認を始業時に徹底する。服装や姿勢などを指導する。（中学校）
- 授業の始まりのあいさつをきちんとさせる。提出物を出さない生徒がいないように指導する（高等学校）
- 起立時の服装指導、ガム噛み禁止、携帯電話オフの確認を行う。（高等学校）

質問3 児童生徒の、学習（実習・実技等も含む）に対する意欲を引き出すために、あなたが具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。

※（ ）内は回答者の所属する校種

- がんばったとき、よくできたときは、ほめる。意欲が低下しているときは、話を聞き、どう直していったらよいか、どう取り組んでいったらよいかを助言する。その結果、がんばれたときや結果が表れたときは、認める。（小学校）
- 漢字、計算ドリルを何度も学習している児童にシールをあげる。頑張った児童をみんなの前で称賛したり、賞状を与えたりする。（小学校）
- 生徒同士で協力して取り組む活動や、相談する場面を設定する。（中学校）
- 競争形式を取り入れる。評価を具体的に示す。大きな声でほめる。相互評価させ、お互いの良い点を発表させる。（中学校）
- 視聴覚教材等を利用する。発問の仕方を授業の前によく考える。（高等学校）
- 小テストを実施したり、あるいは、小さな目標等を設定したりして、その達成感を得させる。授業の1時間ごとの目標を決定し、それを中心にして授業を展開する。（高等学校）

質問4 質問1で「担任」と回答した先生にお聞きします。

あなたが学級経営（またはホームルーム経営）において生徒指導を行う上で、具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。

※（ ）内は回答者の所属する校種

- 児童一人一人をよく観察し、良いところを認める。児童同士も良いところを認め合えるようにする。児童一人一人の当番、清掃などやるべきことはきちんと取り組ませる。（小学校）
- 休み時間もできるだけ教室にいて、さりげなく児童の普段の様子を見る。（小学校）
- 4月の学級開きの時から、1年間を通して生徒同士の関係を広げ深められる取組を続け、集団の一員としての責任感と協力性を育む。（中学校）
- 生徒理解のため、生活記録ノートの全員提出への働きかけを行う。掲示物、植物、本、清掃、整頓など教室環境の整備に取り組む。他の教員とのコミュニケーションに努める。（中学校）
- クラス全員の身だしなみがきちんとなしないと、朝や帰りのショートホームルームを終了させず、場の大切さを教える。（高等学校）
- 生徒の目線で話す。常に公平な態度をとる。できるだけ多くの生徒と会話をする。小さな仕事を頼み、感謝の気持ちを込めてお礼を言う。面談を何回か設定し、生徒の話をよく聞く。（高等学校）

<考察>

質問2 「児童生徒に、基本的な学習態度（実習・実技等での態度も含む）を身に付けさせるために、あなたが具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。」の回答結果に関する考察について

質問2は、生徒指導提要に示された「学習指導における生徒指導の2つの側面」のうちの一つである、「各教科等における学習活動が成立するために、一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組めるよう、基本的な学習態度の在り方等についての指導を行うこと」について、学校現場の教員が取り組んでいることを回答したものである。

回答の内容として共通していることは、「規律指導」に関する取組が重要であるということである。どの校種においても回答数が多かった（または複数回答があった）取組は、「挨拶・号令」、「授業中の姿勢」、「時間を守らせる指導」、「授業準備や机上の整理」などであった。

一方、校種ごとに回答の傾向が異なっていたことについては、例えば、小学校及び中学校教員から回答が多かった「授業中の姿勢」、「できるまで繰り返す指導」、「話を聞く際の姿勢・態度」、「分かりやすい(具体的な)指示」、「挙手・発表・発言の際のルールや態度」などは、高等学校教員から回答は少なかった。一方、「時間を守らせる指

導」、「教員が時間を守る姿勢を示す指導」などは、中学校及び高等学校教員から回答は多かったが、小学校教員から回答は少なかった。「服装・身だしなみの指導」、「提出物に関する指導」などは、高等学校教員から回答が多かった。この結果を踏まえて、本調査での質問紙を作成する際、ある校種での回答が少なかった観点について、「その校種での回答は少なかったが、その校種にとって重要な取組と思われるもの」と、「児童生徒の発達段階を考慮すると、その校種にとってあまりそぐわない（それゆえに回答が少なかった）取組と思われるもの」とを精査することが重要である。今回の予備調査で回答が少なかった観点であっても、教育の目標を達成するために取組が重要であると判断される内容ならば、その取組状況についての質問項目を作成し、教員の現状を把握することは必要であると考えられる。

質問3 「児童生徒の、学習（実習・実技等も含む）に対する意欲を引き出すために、あなたが具体的に取り組んでいることを（できるだけ多く）御記入ください。」の回答結果に関する考察について

質問3は、生徒指導提要に示された「学習指導における生徒指導の2つの側面」のうちの一つである、「各教科等の学習において、一人一人の児童生徒が、そのねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導を行うこと」について、教員が取り組んでいることを回答したものである。

回答の内容として共通していることは、「ほめること・賞賛・声かけ」、「児童生徒による主体的活動の活性化」、「分かりやすさ（「視覚的に」、「説明が」など）」に関する取組が重要であるということである。どの校種でも回答が多かった（または複数回答があった）取組は、「ほめること」、「児童生徒による発表・発言・話し合い・協同作業・グループ活動などの充実」などであった。児童生徒を授業の中でいかに肯定的に評価していくかという視点と、児童生徒の主体的な活動を促すため、いかに創意工夫した授業を展開するかという視点は、重要であると考えられる。

校種ごとの回答の傾向については、小学校教員は、「ほめること」の回答が中学校及び高等学校教員と比べて多い。また、「具体的な褒美・スタンプ・シール」、「具体物や教具の活用」など、目に見える形で児童に示すことへの取組も回答が多い。一方、「興味関心があるものや身近に感じられるものを取り入れること」、「習熟度・到達度・能力を踏まえた個別指導」、「児童自身または相互評価の導入」の回答は、他校種に比べて少ない。これは、小学校の指導内容が中学校や高等学校の指導内容と比べて具体的に身近なものであることや、取組の導入が心理的発達状況から難しいと思われることなどを踏まえての回答結果であると思われる。

中学校教員は、小学校教員と同様、「ほめること」の回答が多いが、小学校教員とは対照的に、「興味関心があるものや身近に感じられるものを取り入れること」、「習熟度・到達度・能力を踏まえた個別指導」、「生徒自身または相互評価の導入」などの回答が小学校教員と比べて多い。興味関心や能力などが、小学校の児童と比べて、中学校の生徒は多様になる状況を踏まえた回答であると思われる。

高等学校教員は、中学校と回答の傾向が似ているが、「ほめること」の回答が小学

校及び中学校教員と比べて少ない。一方、「分かりやすい説明・話し方の工夫」、「成績・評価の工夫」などの回答は他校種より多い。高等学校の学習内容は小学校や中学校の学習内容と比べて難解で抽象的であるため、わかりやすい授業の工夫は重要であることや、意欲を引き出すために成績・評価を工夫することが重要であると捉えている教員が多いことの表れであると思われる。

児童生徒の意欲を引き出す取組や工夫については、発達段階に応じた働きかけが重要である。したがって、児童生徒の発達特性を踏まえ、各校種における教員の取組状況などを把握するにふさわしい質問事項を作成する必要がある。

質問4 「(質問1—(3)で『担任を担当』と回答した教員に対して)あなたが学級・ホームルーム経営において生徒指導を行う上で、具体的に取り組んでいることを(できるだけ多く)御記入ください」の回答結果に関する考察について

質問4は、授業力を支える学級・ホームルーム経営能力に関する取組について回答したものである。

ここでの回答の多くは、質問2「基本的な学習態度を身に付けさせる取組」に関する回答や、質問3「意欲を引き出す工夫に関する取組」に関する回答と観点が似ている結果となっている。例えば、「時間を守らせる指導」、「『ダメなものはダメ』という毅然とした指導」、あるいは、「ほめること」、「声かけ・コミュニケーション」、「教室内等の環境美化」などの取組は、授業における生徒指導においても、学級・ホームルーム経営上においても、重要な要素であると全校種の教員が認識している結果になっていると思われる。また、全校種の教員において、共通の認識として捉えられている点は、「児童生徒理解の重要性」である。声かけや日ごろのコミュニケーションを充実させること、児童生徒との面談を充実させること、面談以外の方法によるアセスメントを通しての理解を深めること、などに関しては、校種を問わず、複数の回答が挙げられている。

校種ごとの回答の傾向については、小学校教員は、「ほめること」、「声かけ・コミュニケーション」、「面談」、「面談以外の方法によるアセスメント」などの取組に関する回答が多い。中学校及び高等学校教員は、小学校教員と同様に、「生徒理解」に関する内容の回答が多いが、「教室内等の環境美化」に取り組んでいるという回答も多い(小学校では「質問4」への回答は0人)。これは、中学校・高等学校が教科担任制であるため、担任による環境整備に関する具体的取組が小学校以上に必要であると捉えられている結果であると思われる。また、「生徒理解」に関しては、小学及び中学校教員は、「面談以外の方法によるアセスメント」の回答が多く、一方、高等学校教員は、「面談」の回答が多い。

学級・ホームルーム経営に関する実践を調査するための質問紙を作成する際は、質問2及び質問3の観点の取組と内容が重複する部分があるため、混乱しないよう質問紙の表記や形式に留意することが必要である。

○「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート

＜本調査＞の結果及び考察

(1) アンケート調査の目的

授業に生かす生徒指導の在り方について、予備調査の結果を踏まえた質問紙による調査を実施し、教員の実践状況、意識、学校が抱える課題を明確にする。

(2) 調査の対象

埼玉県公立小学校・中学校・高等学校の教員 174名

(3) 調査の時期

平成23年11月

(4) 調査の内容

それぞれの質問項目に対して、4件法（4…よくできている、3…まあまあできている、2…あまりできていない、1…ほとんどできていない）により回答する。ただし、質問12-（2）及び質問31～33は、自由記述により回答する。

なお、質問内容や表記は、校種により若干異なる項目もある。

質問1～11……「基本的な学習態度を身に付けさせる指導」に関する質問
【11項目】

質問12～21……「意欲を引き出す工夫」に関する質問 【11項目】

※12-（2）は、自由記述により回答する。

質問22～30……「授業を支える学級・ホームルーム経営」に関する質問
【9項目】

質問31……授業や学級・ホームルーム経営において、これまでの実践の中で成果や効果があった事例を、自由記述により回答する。

質問32……授業や学級・ホームルーム経営において、これからやりたいことやアイデアなどを、自由記述により回答する。

質問33……授業や学級・ホームルーム経営において、現在困っていることや悩んでいることを、自由記述により回答する。

(5) 調査の結果及び考察

4件法による質問項目に対する回答については、各校種（小学校・中学校・高等学校）の回答者数の割合を円グラフにまとめ、回答の傾向を考察した。

自由記述による質問項目に対する回答については、そのポイントを観点ごとに分類し、回答者の累積人数を校種ごとにまとめ、考察した。

「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート <小学校版>

【アンケート用紙記入について】

- ①担当学年(※該当学年を○で囲んでください) 1・2・3・4・5・6 その他()
 ②各質問について、先生方の実践状況に最も近いと思う数値を○で囲んでください。なお12-(2)、31~33については、具体的な取組を記入してください。
 ③回答の内容については、「現在の取組」だけでなく、「過去の取組」について、お答えいただいても構いません。また、現在は学級担任ではない方でも、これまでに担任の経験がある場合は、それをもとにお答えください。

質 問 事 項		よく できている	まあまあ できている	あまり できない	ほとんど できない	
		4	3	2	1	
基本的な学習態度を身に付けさせる指導について	学習にふさわしい環境づくり	1 児童に、授業と休み時間の切替えの指導をしている。(チャイム席、挨拶、号令など)	4	3	2	1
		2 授業の開始・終了時刻を守って指導している。	4	3	2	1
		3 教材・教具・学用品などの準備、机上や身の回りの整理整頓を指導している。	4	3	2	1
		4 TPOに合わせ、適切な言葉を用いて指導している。	4	3	2	1
	学習規律づくり	5 授業中の発言・発表・質問・返事の仕方、聞き方などについて、指導している。	4	3	2	1
		6 私語・無駄話への指導をしている。	4	3	2	1
		7 児童に適切な言葉づかいをする指導をしている。	4	3	2	1
		8 基本的な学習態度(座り方、立ち方、挙手の仕方など)が身に付くようになるまで、何度も繰り返して指導している。	4	3	2	1
	学習の習慣化づくり	9 学習・実習・実技・作業などに関する分かりやすい具体的な指導(発問・板書など)をしている。	4	3	2	1
		10 児童が忘れ物をしたり、提出物を出さなかったときの指導をしている。	4	3	2	1
		11 宿題・家庭学習などの充実を図る指導をしている。	4	3	2	1
意欲を引き出す工夫について	適切な指導、助言、評価	12 授業中に、児童をほめている。	4	3	2	1
		12-(2) 問12で4または3を回答した方にお聞きします。 どのようなこと(内容)を、どのように(方法)ほめていますか。具体的に記入してください。				
		13 児童のやる気を引き出す評価の工夫をしている。(スタンプ、ポイント、シールなど)	4	3	2	1
	分かる授業づくり	14 児童の習熟度、達成度、能力などを踏まえ、個に応じた指導をしている。	4	3	2	1
		15 児童に、本時のねらいや目標が明確な指導をしている。	4	3	2	1
		16 分かる授業を展開するために、十分な教材研究や授業準備などをしている。	4	3	2	1
		17 分かる授業を展開するために、身近な話題・情報や視聴覚教材などを用いた指導をしている。	4	3	2	1
	自ら学ぶ力の育成	18 分かる授業を展開するために、説明、発問、話し方などを工夫して指導している。	4	3	2	1
		19 児童相互による話し合い・協働・グループ作業などを取り入れた授業をしている。	4	3	2	1
		20 児童に、自分自身のめあてをもたせた授業をしている。	4	3	2	1
21 児童自身による自己評価、又は相互評価を、授業で指導している。		4	3	2	1	

※裏面にお進みください。

授業を支える学級経営について	児童理解と教育相談的な取組	22 児童とのコミュニケーションに努め、進んで児童一人一人と関わりをもっている。	4	3	2	1
		23 児童の意見や考えなどに傾聴している。	4	3	2	1
		24 児童と様々な場面で面談(チャンス相談、定期相談など)をしている。	4	3	2	1
		25 児童に自己存在感や責任感を与えるために、一人一人の役割や責任などを明確にしている。	4	3	2	1
	環境美化	26 教室内の美化、整理整頓、掲示物の整備など、学習にふさわしい環境整備をしている。	4	3	2	1
	一貫した指導と情報発信・共有	27 「ダメなものはダメ」という毅然とした態度で、児童に指導している。	4	3	2	1
		28 公平・公正な態度で、児童を指導している。	4	3	2	1
		29 保護者との連携(連絡帳、学級通信、電話連絡、家庭訪問など)をしている。	4	3	2	1
		30 他の教員との連携(報告、連絡、相談、確認など)をしている。	4	3	2	1

31 授業や学級経営において、これまでの実践の中で成果や効果があった事例などがありましたら記入してください。
(* 箇条書きでも結構です。)

32 授業や学級経営において、これからやってみたいことやアイデアなどがありましたら記入してください。
(* 箇条書きでも結構です。)

33 授業や学級経営において、現在、困っていることや悩んでいることがありましたら記入してください。

以上で質問は終わりです。御協力ありがとうございました。

「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート <中学校版>

【アンケート用紙記入について】

- ①担当学年(※該当学年を○で囲んでください) 1・2・3 その他()
 ②各質問について、先生方の実践状況に最も近いと思う数値を○で囲んでください。なお12-(2)、31~33については、具体的な取組を記入してください。
 ③回答の内容については、「現在の取組」だけでなく、「過去の取組」について、お答えいただいても構いません。また、現在は学級担任ではない方でも、これまでに担任の経験がある場合は、それをもとにお答えください。

質 問 事 項		よく できている	まあまあ できている	あまり できない	ほとんど できない	
		4	3	2	1	
基本的な学習態度を身に付けさせる指導について	学習にふさわしい環境づくり	1 授業の始めと終わりの挨拶や号令などの指導を行っている。	4	3	2	1
		2 授業の開始・終了時刻を守って指導している。	4	3	2	1
		3 教材・教具・学用品などの準備、机上や身の回りの整理整頓を指導している。	4	3	2	1
		4 TPOに合わせ、適切な言葉を用いて指導している。	4	3	2	1
	学習規律づくり	5 授業中の発言・発表・質問・返事の仕方、聞き方などについて、指導している。	4	3	2	1
		6 私語・無駄話への指導をしている。	4	3	2	1
		7 学習活動の適した服装や身だしなみ、姿勢、言葉づかいなどの指導をしている。	4	3	2	1
		8 基本的な学習態度(座り方、立ち方、挙手の仕方など)について指導している。	4	3	2	1
	学習の習慣化づくり	9 学習・実習・実技・作業などに関する分かりやすい具体的な指導(発問・板書など)をしている。	4	3	2	1
		10 生徒が忘れ物をしたり、提出物を出さなかったときの指導をしている。	4	3	2	1
		11 宿題・家庭学習などの充実を図る指導をしている。	4	3	2	1
意欲を引き出す工夫について	適切な指導、助言、評価	12 授業中に、生徒をほめている。	4	3	2	1
		12-(2) 問12で4または3を回答した方にお聞きします。 どのようなこと(内容)を、どのように(方法)ほめていますか。具体的に記入してください。				
		13 生徒のやる気を引き出す評価の工夫をしている。 (スタンプ、ポイント、シールなど)	4	3	2	1
		14 生徒の習熟度、達成度、能力などを踏まえ、個に応じた指導をしている。	4	3	2	1
	分かる授業づくり	15 生徒に、本時のねらいや目標を明確にした指導をしている。	4	3	2	1
		16 分かる授業を展開するために、十分な教材研究や授業準備などを行っている。	4	3	2	1
		17 分かる授業を展開するために、身近な話題・情報や視聴覚教材などを用いた指導をしている。	4	3	2	1
		18 分かる授業を展開するために、説明、発問、話し方などを工夫して指導している。	4	3	2	1
	自ら学ぶ力の育成	19 生徒相互による話し合い・協働・グループ作業などを取り入れた授業をしている。	4	3	2	1
		20 生徒に、自分自身の目標をもたせた授業をしている。	4	3	2	1
		21 生徒自身による自己評価、又は相互評価を、授業で指導している。	4	3	2	1

※裏面にお進みください。

授業を支える学級経営について	児童理解と教育相談的な取組	22 生徒とのコミュニケーションに努め、進んで生徒一人一人と関わりをもっている。	4	3	2	1
		23 生徒の意見や考えなどに傾聴している。	4	3	2	1
		24 生徒と様々な場面で面談(チャンス相談、定期相談など)をしている。	4	3	2	1
		25 生徒に自己存在感や責任感を与えるために、一人一人の役割や責任などを明確にしている。	4	3	2	1
	環境美化	26 教室内の美化、整理整頓、掲示物の整備など、学習にふさわしい環境整備をしている。	4	3	2	1
	一貫した指導と情報発信・共有	27 「ダメなものはダメ」という毅然とした態度で、生徒に指導している。	4	3	2	1
		28 公平・公正な態度で、生徒を指導している。	4	3	2	1
		29 保護者との連携(学級通信、電話連絡、家庭訪問など)をしている。	4	3	2	1
		30 他の教員との連携(報告、連絡、相談、確認など)をしている。	4	3	2	1

31 授業や学級経営において、これまでの実践の中で成果や効果があった事例などがありましたら記入してください。
(* 箇条書きでも結構です。)

32 授業や学級経営において、これからやってみたいことやアイデアなどがありましたら記入してください。
(* 箇条書きでも結構です。)

33 授業や学級経営において、現在、困っていることや悩んでいることがありましたら記入してください。

以上で質問は終わりです。御協力ありがとうございました。

「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート <高等学校版>

【アンケート用紙記入について】

- ①担当学年(※該当学年を○で囲んでください) 1・2・3・4 その他()
 ②各質問について、先生方の実践状況に最も近いと思う数値を○で囲んでください。なお12-(2)、31~33については、具体的な取組を記入してください。
 ③回答の内容については、「現在の取組」だけでなく、「過去の取組」について、お答えいただいても構いません。また、現在は学級担任ではない方でも、これまでに担任の経験がある場合は、それをもとにお答えください。

質 問 事 項		よく できている	まあまあ できている	あまり できない	ほとんど できない	
		4	3	2	1	
基本的な学習態度を身に付けさせる指導について	学習にふさわしい環境づくり	1 授業の始めと終わりの挨拶や号令などの指導を行っている。	4	3	2	1
		2 授業の開始・終了時刻を守って指導している。	4	3	2	1
		3 教材・教具・学用品などの準備、机上や身の回りの整理整頓を指導している。	4	3	2	1
		4 TPOに合わせ、適切な言葉を用いて指導している。	4	3	2	1
	学習規律づくり	5 授業中のルールやマナー(携帯電話や立ち歩きなど)について、指導をしている。	4	3	2	1
		6 私語・無駄話への指導をしている。	4	3	2	1
		7 学習活動の適した服装や身だしなみ、姿勢、言葉づかいなどの指導をしている。	4	3	2	1
		8 基本的な学習態度(座り方、立ち方、挙手の仕方など)について指導している。	4	3	2	1
	学習の習慣化づくり	9 学習・実習・実技・作業などに関する分かりやすい具体的な指導(発問・板書など)をしている。	4	3	2	1
		10 生徒が忘れ物をしたり、提出物を出さなかったときの指導をしている。	4	3	2	1
		11 宿題・家庭学習などの充実を図る指導をしている。	4	3	2	1
意欲を引き出す工夫について	適切な指導、助言、評価	12 授業中に、生徒をほめている。	4	3	2	1
		12-(2) 問12で4または3を回答した方にお聞きします。 どのようなこと(内容)を、どのように(方法)ほめていますか。具体的に記入してください。				
		13 生徒のやる気を引き出す評価の工夫をしている。 (スタンプ、ポイント、シールなど)	4	3	2	1
	分かる授業づくり	14 生徒の習熟度、達成度、能力などを踏まえ、個に応じた指導をしている。	4	3	2	1
		15 生徒に、本時のねらいや目標を明確にした指導をしている。	4	3	2	1
		16 分かる授業を展開するために、十分な教材研究や授業準備などを行っている。	4	3	2	1
		17 分かる授業を展開するために、身近な話題・情報や視聴覚教材などを用いた指導をしている。	4	3	2	1
自ら学ぶ力の育成	18 分かる授業を展開するために、説明、発問、話し方などを工夫して指導している。	4	3	2	1	
	19 生徒相互による話し合い・協働・グループ作業などを取り入れた授業をしている。	4	3	2	1	
	20 生徒に、進路意識の醸成や自己の目標をもたせる指導をしている。	4	3	2	1	
	21 生徒自身による自己評価、又は相互評価を、授業で指導している。	4	3	2	1	

※裏面にお進みください。

授業を支える学級経営について	児童理解と教育相談的な取組	22 生徒とのコミュニケーションに努め、進んで生徒一人一人と関わりをもっている。	4	3	2	1
		23 生徒の意見や考えなどに傾聴している。	4	3	2	1
		24 生徒と様々な場面で面談(チャンス相談、定期相談など)をしている。	4	3	2	1
		25 生徒に自己存在感や責任感を与えるために、一人一人の役割や責任などを明確にしている。	4	3	2	1
	環境美化	26 教室内の美化、整理整頓、掲示物の整備など、学習にふさわしい環境整備をしている。	4	3	2	1
	一貫した指導と情報発信・共有	27 「ダメなものはダメ」という毅然とした態度で、生徒に指導している。	4	3	2	1
		28 公平・公正な態度で、生徒を指導している。	4	3	2	1
		29 保護者との連携(ホームルーム通信、電話連絡、家庭訪問など)をしている。	4	3	2	1
		30 他の教員との連携(報告、連絡、相談、確認など)をしている。	4	3	2	1

31 授業やホームルーム経営において、これまでの実践の中で成果や効果があった事例などがありましたら記入してください。
(* 箇条書きでも結構です。)

32 授業やホームルーム経営において、これからやってみたいことやアイデアなどがありましたら記入してください。
(* 箇条書きでも結構です。)

33 授業やホームルーム経営において、現在、困っていることや悩んでいることがありましたら記入してください。

以上で質問は終わりです。御協力ありがとうございました。

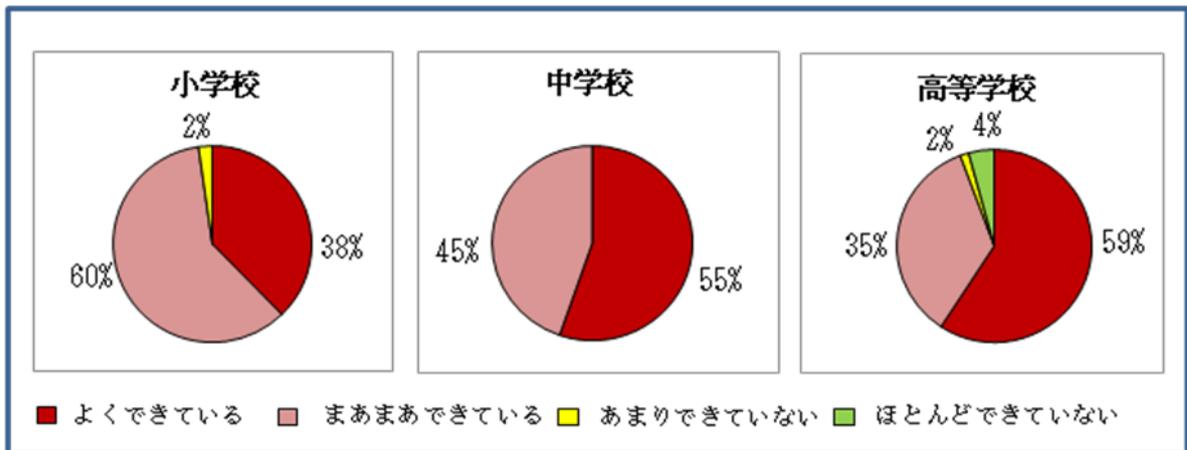
「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート 集計結果

平成23年11月実施 小学校 45人 中学校 57人
高等学校 72人 合計 174人

No.	質問事項	回答(4件法)	小学校		中学校		高等学校	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	授業の始めと終わりの挨拶や号令などの指導を行っている。 (小学校では、「授業と休み時間の切替えの指導をしている」)	よくできている	17	37.8%	31	55.4%	42	59.2%
		まあまあできている	27	60.0%	25	44.6%	25	35.2%
		あまりできていない	1	2.2%	0	0.0%	1	1.4%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%
2	授業開始・終了時刻を守って指導している。	よくできている	16	35.6%	39	68.4%	56	77.8%
		まあまあできている	28	62.2%	18	31.6%	16	22.2%
		あまりできていない	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	教材・教具・学用品などの準備、机上や身の回りの整理整頓を指導している。	よくできている	10	22.2%	23	40.4%	29	40.3%
		まあまあできている	32	71.1%	26	45.6%	35	48.6%
		あまりできていない	3	6.7%	8	14.0%	7	9.7%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
4	TPOに合わせ、適切な言葉を用いて指導している。	よくできている	13	28.9%	24	42.1%	42	58.3%
		まあまあできている	28	62.2%	27	47.4%	28	38.9%
		あまりできていない	4	8.9%	6	10.5%	2	2.8%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	授業中の発言・発表・質問・返事の仕方、聞き方などについて、指導している。 (高等学校では、「授業中のルールやマナー(携帯電話や立ち歩きなど)」について、指導をしている。)	よくできている	13	29.5%	18	31.6%	50	69.4%
		まあまあできている	29	65.9%	32	56.1%	21	29.2%
		あまりできていない	2	4.5%	7	12.3%	1	1.4%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	私語・無駄話への指導をしている。	よくできている	20	44.4%	37	64.9%	45	62.5%
		まあまあできている	23	51.1%	20	35.1%	27	37.5%
		あまりできていない	2	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	児童に適切な言葉づかいをする指導をしている。 (中学校・高等学校では、「学習活動に適した服装や身だしなみ、姿勢、言葉づかいなどの指導をしている。」)	よくできている	11	24.4%	29	50.9%	35	48.6%
		まあまあできている	29	64.4%	24	42.1%	33	45.8%
		あまりできていない	5	11.1%	4	7.0%	4	5.6%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	基本的な学習態度(座り方、立ち方、挙手の仕方など)について指導している。 (小学校では、「基本的な学習態度(座り方、立ち方、挙手の仕方など)が身に付くようになるまで、何度も繰り返して指導している。」)	よくできている	12	26.7%	20	35.1%	24	33.3%
		まあまあできている	29	64.4%	32	56.1%	38	52.8%
		あまりできていない	4	8.9%	5	8.8%	9	12.5%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
9	学習・実習・実技・作業などに関する分かりやすい具体的な指導(発問・板書など)をしている。	よくできている	6	13.6%	20	35.1%	40	55.6%
		まあまあできている	32	72.7%	32	56.1%	30	41.7%
		あまりできていない	6	13.6%	5	8.8%	2	2.8%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	児童生徒が忘れ物をしたり、提出物を出さなかったときの指導をしている。	よくできている	16	35.6%	22	38.6%	39	54.2%
		まあまあできている	26	57.8%	29	50.9%	30	41.7%
		あまりできていない	3	6.7%	5	8.8%	3	4.2%
		ほとんどできていない	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%
11	宿題・家庭学習などの充実を図る指導をしている。	よくできている	12	28.6%	13	22.8%	17	23.9%
		まあまあできている	22	52.4%	27	47.4%	32	45.1%
		あまりできていない	7	16.7%	16	28.1%	20	28.2%
		ほとんどできていない	1	2.4%	1	1.8%	2	2.8%
12	授業中に、児童生徒をほめている。	よくできている	13	28.9%	22	38.6%	29	41.4%
		まあまあできている	27	60.0%	33	57.9%	34	48.6%
		あまりできていない	4	8.9%	2	3.5%	6	8.6%
		ほとんどできていない	1	2.2%	0	0.0%	1	1.4%
13	児童生徒のやる気を引き出す評価の工夫をしている。(スタンプ、ポイント、シールなど)	よくできている	14	31.8%	13	22.8%	15	20.8%
		まあまあできている	27	61.4%	31	54.4%	26	36.1%
		あまりできていない	1	2.3%	12	21.1%	24	33.3%
		ほとんどできていない	2	4.5%	1	1.8%	7	9.7%
14	児童生徒の習熟度、達成度、能力などを踏まえ、個に応じた指導をしている。	よくできている	7	15.6%	6	10.7%	18	25.0%
		まあまあできている	30	66.7%	33	58.9%	46	63.9%
		あまりできていない	7	15.6%	17	30.4%	7	9.7%
		ほとんどできていない	1	2.2%	0	0.0%	1	1.4%
15	児童生徒に、本時のねらいや目標が明確な指導をしている。	よくできている	8	17.8%	19	33.3%	32	44.4%
		まあまあできている	28	62.2%	32	56.1%	36	50.0%
		あまりできていない	9	20.0%	6	10.5%	3	4.2%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%

No.	質問事項	回答(4件法)	小学校		中学校		高等学校	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
16	分かる授業を展開するために、十分な教材研究や授業準備などを行っている。	よくできている	4	8.9%	13	22.8%	44	61.1%
		まあまあできている	28	62.2%	34	59.6%	24	33.3%
		あまりできていない	13	28.9%	10	17.5%	3	4.2%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
17	分かる授業を展開するために、身近な話題・情報や視聴覚教材などを用いた指導をしている。	よくできている	5	11.1%	18	31.6%	34	47.2%
		まあまあできている	25	55.6%	27	47.4%	31	43.1%
		あまりできていない	12	26.7%	12	21.1%	6	8.3%
		ほとんどできていない	3	6.7%	0	0.0%	1	1.4%
18	分かる授業を展開するために、説明、発問、話し方などを工夫して指導している。	よくできている	7	15.9%	13	22.8%	36	50.0%
		まあまあできている	31	70.5%	38	66.7%	34	47.2%
		あまりできていない	6	13.6%	6	10.5%	2	2.8%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
19	児童生徒相互による話し合い・協働・グループ作業などを取り入れた授業をしている。	よくできている	7	15.6%	19	33.3%	18	25.0%
		まあまあできている	31	68.9%	22	38.6%	23	31.9%
		あまりできていない	7	15.6%	15	26.3%	25	34.7%
		ほとんどできていない	0	0.0%	1	1.8%	6	8.3%
20	児童生徒に、自分自身のめあて(中学校では「目標」)をもたせた授業をしている。(高等学校では、「生徒に、進路意識の醸成や自己の目標をもたせる指導をしている。」)	よくできている	2	4.4%	6	10.5%	21	29.2%
		まあまあできている	30	66.7%	30	52.6%	35	48.6%
		あまりできていない	12	26.7%	20	35.1%	14	19.4%
		ほとんどできていない	1	2.2%	1	1.8%	2	2.8%
21	児童生徒自身による自己評価、又は児童生徒相互評価を、授業で指導している。	よくできている	4	8.9%	12	21.4%	15	20.8%
		まあまあできている	26	57.8%	24	42.9%	31	43.1%
		あまりできていない	14	31.1%	18	32.1%	21	29.2%
		ほとんどできていない	1	2.2%	2	3.6%	5	6.9%
22	児童生徒とのコミュニケーションに努め、進んで児童生徒一人一人と関わりをもっている。	よくできている	12	26.7%	26	46.4%	34	47.9%
		まあまあできている	31	68.9%	27	48.2%	28	39.4%
		あまりできていない	2	4.4%	3	5.4%	9	12.7%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
23	児童生徒の意見や考えなどを傾聴している。	よくできている	10	22.2%	21	37.5%	32	45.1%
		まあまあできている	32	71.1%	31	55.4%	29	40.8%
		あまりできていない	3	6.7%	4	7.1%	10	14.1%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
24	児童生徒と様々な場面で面談(チャンス相談、定期相談など)をしている。	よくできている	6	13.6%	10	17.9%	28	39.4%
		まあまあできている	27	61.4%	33	58.9%	30	42.3%
		あまりできていない	10	22.7%	12	21.4%	10	14.1%
		ほとんどできていない	1	2.3%	1	1.8%	3	4.2%
25	児童生徒に自己存在感や責任感を与えるために、一人一人の役割や責任などを明確にしている。	よくできている	8	18.2%	17	31.5%	23	32.4%
		まあまあできている	32	72.7%	31	57.4%	34	47.9%
		あまりできていない	4	9.1%	6	11.1%	12	16.9%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%
26	教室内の美化、整理整頓、掲示物の整備など、学習にふさわしい環境整備をしている。	よくできている	12	26.7%	17	30.4%	33	46.5%
		まあまあできている	25	55.6%	30	53.6%	35	49.3%
		あまりできていない	8	17.8%	9	16.1%	3	4.2%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
27	「ダメなものダメ」という毅然とした態度で、児童生徒に指導している。	よくできている	22	48.9%	33	58.9%	38	53.5%
		まあまあできている	23	51.1%	20	35.7%	31	43.7%
		あまりできていない	0	0.0%	3	5.4%	2	2.8%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
28	公平・公正な態度で、児童生徒を指導している。	よくできている	19	42.2%	32	57.1%	44	62.0%
		まあまあできている	26	57.8%	24	42.9%	26	36.6%
		あまりできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
29	保護者との連携(連絡帳、学級・ホームルーム通信、電話連絡、家庭訪問など)をしている。(中学校及び高等学校では、「連絡帳」の記述はなし。)	よくできている	15	34.9%	21	38.2%	24	34.3%
		まあまあできている	25	58.1%	25	45.5%	35	50.0%
		あまりできていない	3	7.0%	9	16.4%	8	11.4%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	3	4.3%
30	他の教員との連携(報告、連絡、相談、確認など)をしている。	よくできている	16	35.6%	22	39.3%	35	49.3%
		まあまあできている	27	60.0%	29	51.8%	35	49.3%
		あまりできていない	2	4.4%	5	8.9%	1	1.4%
		ほとんどできていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

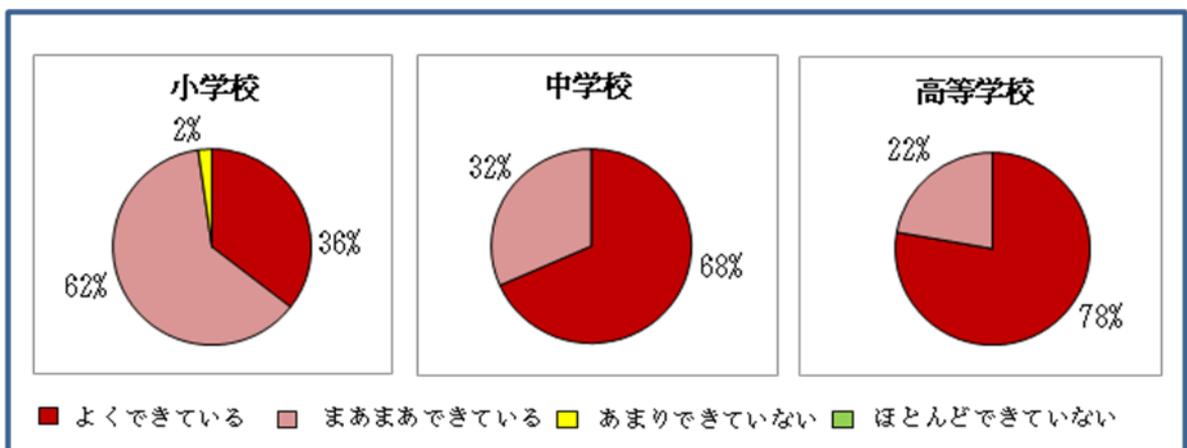
質問 1 授業の始めと終わりの挨拶や号令などの指導を行っている。
 (小学校では、「授業と休み時間の切替えの指導をしている」)



質問 1 回答結果の考察

全校種で、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員が、およそ95%以上であったが、小学校では「よくできている」と回答した教員が38%と、他校種に比べ低かった。質問1のみならず、すべての質問項目に関して、児童生徒の状況や管理職のリーダーシップなどが回答の傾向を左右する要素になると考える。また、校種ごとの回答の傾向の差は、小中連携や中高連携の課題であるとも言える。小学校から中学校、そして高等学校へと続く生徒指導の継続性の大切さが、回答結果からうかがえる。

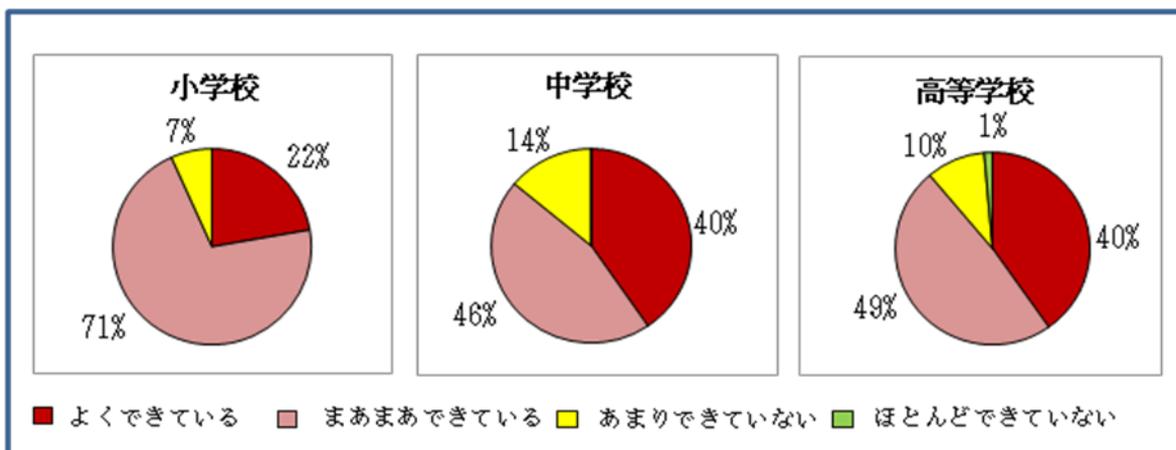
質問 2 授業開始・終了時刻を守って指導している。



質問 2 回答結果の考察

質問1と同様、全校種を通して、ほとんどの教員が「よくできている」、「まあまあできている」と回答した。しかし、小学校では「よくできている」と回答した教員が、中学校及び高等学校の教員の約半分の割合であった。授業開始・終了時刻を厳守しようという意識は、中学校及び高等学校の教員の方が高いと言える。一方、小学校の教員は、児童の状況や理解度に応じて、授業時間の始終を臨機応変に変えて、対応しているのではないかと考えられる。

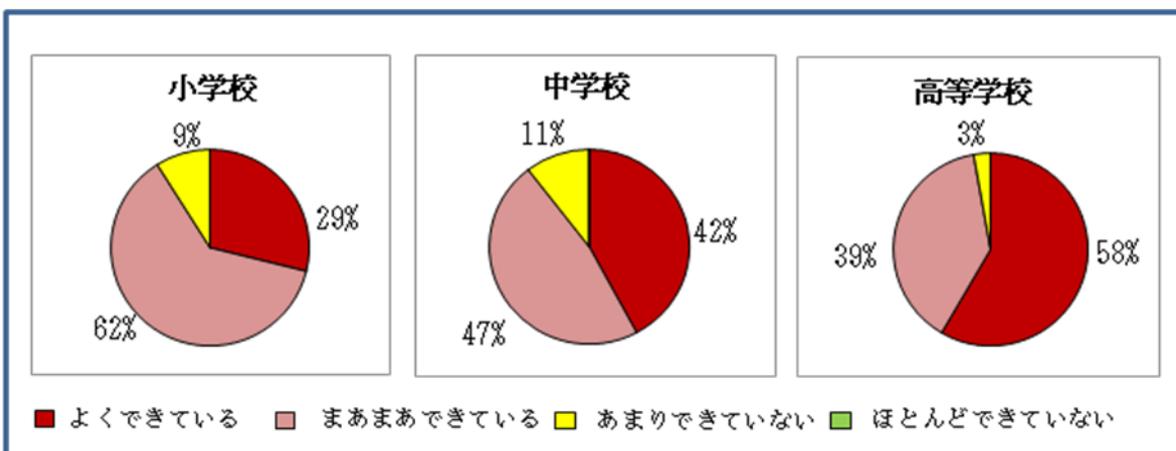
質問3 教材・教具・学用品などの準備、机上や身の回りの整理整頓を指導している。



質問3 回答結果の考察

全校種で、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員が85%以上であった。「よくできている」と回答した教員は小学校が22%であるのに対し、中学校及び高等学校は40%であった。一方「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した教員は、小学校が7%であるのに対し、中学校は14%、高等学校は11%であった。このことから、中学校及び高等学校では、授業準備や整理整頓の指導に対する教科担当教員個々の意識の差が大きいのではないと思われる。校内での統一的な指導を展開するために、教員間の共通理解及び組織的な共通実践により、学習規律を確立する必要がある。

質問4 TPOに合わせ、適切な言葉を用いて指導している。

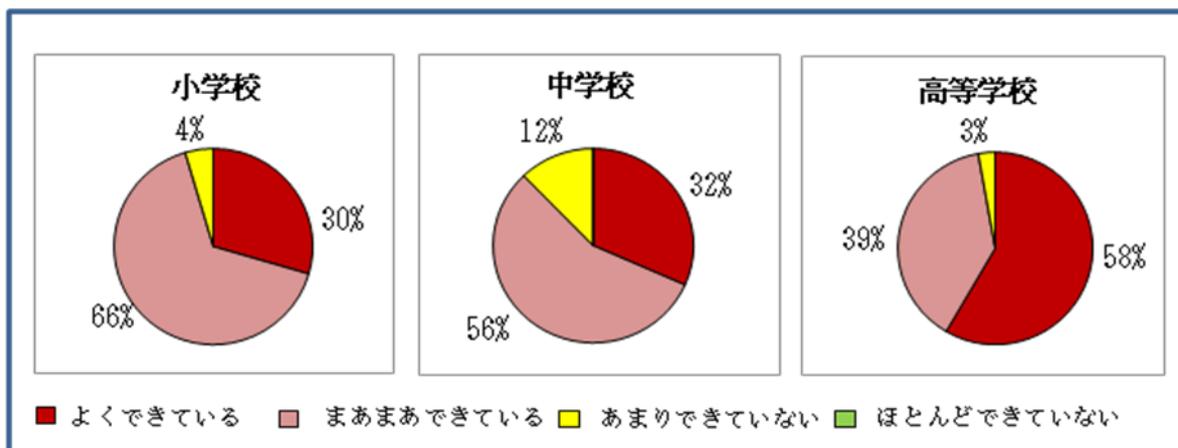


質問4 回答結果の考察

適切な言葉を用いて指導しているという取組の割合が、小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校で高い傾向となった。特に、「よくできている」と回答した教員は、小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校で、十数ポイントずつ高くなっている。また、「あまりできていない」と回答した教員の割合も、小学校及び中学校と比べて、高等学校の数値が低い。

小学校の教員の「よくできている」と回答した割合が低いのは、特に、低学年の児童を対象とした場合、TPOに合わせることで、児童にとって親しみやすい表現を用いることの方が、より学びやすい雰囲気につながるだろうと配慮している可能性があるとも考えられる。また、平易で理解できる表現の在り方に苦心している状況もあると思われる。一方、中学校や高等学校では、規律維持のために、注意すべき場面では毅然とした態度で言葉を発する場合も多いと考えられる。

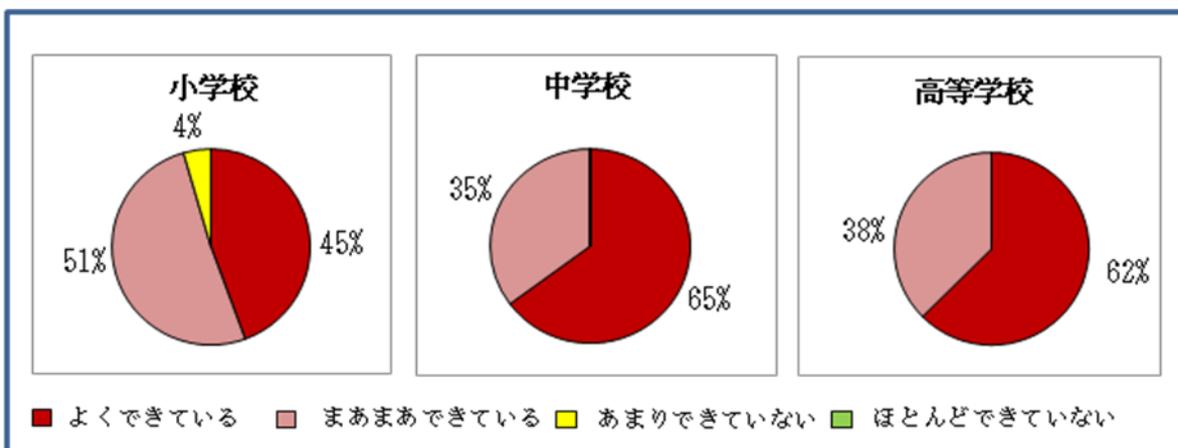
質問5 授業中の発言・発表・質問・返事の仕方、聞き方などについて、指導している。
 (高等学校では、「授業中のルールやマナー(携帯電話や立ち歩きなど)について、指導をしている。」)



質問5 回答結果の検証・分析

質問5は「授業規律や作法・マナーに関する質問」であるが、小学校及び中学校と、高等学校での質問内容が異なるので、校種ごとの回答の傾向の単純な比較はできないと考える。
 小学校及び中学校教員の回答の傾向は似ているが、中学校では「あまりできていない」と回答した教員の割合が小学校教員と比べて高い。これは、思春期を迎えた中学生に対する指導の困難さの実態を踏まえた結果であると思われる。
 授業規律の指導の重要性については、校種を問わず共通認識されており、実践状況もその意識を反映しているものと考えられる。

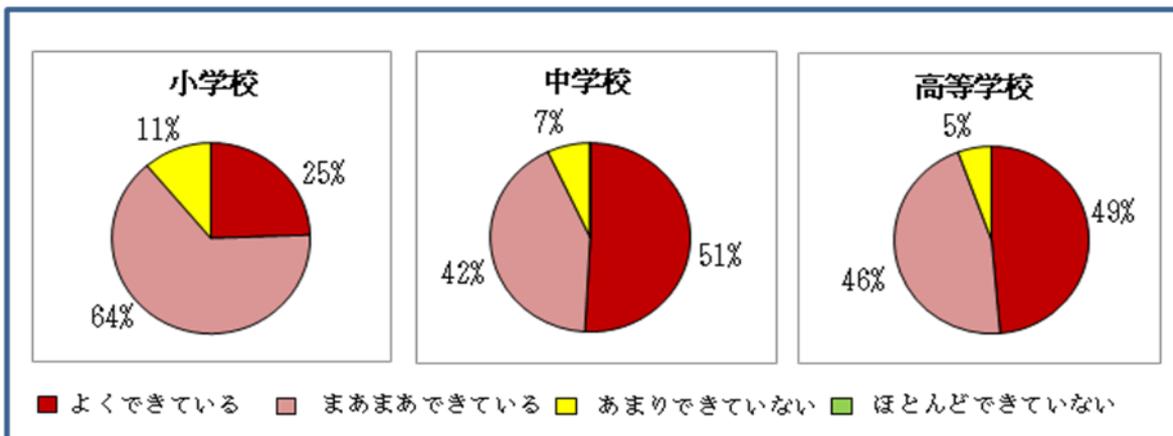
質問6 私語・無駄話への指導をしている。



質問6 回答結果の考察

基本的な学習態度の在り方についての指導のうち、私語や無駄話に対する指導の重要性については、全校種を通して共有されており、実践状況も良好であることが調査結果からうかがえる。
 小学校の教員の回答が、中学校及び高等学校の教員ほど肯定的でないのは、低学年児童のもつ特性や、いわゆる「小1プロブレム」などの要素から、指導が難しい面が回答結果にあらわれているものと考えられる。

質問7 学習活動に適した服装や身だしなみ、姿勢、言葉づかいなどの指導をしている。
 (小学校では「児童に適切な言葉づかいをする指導をしている。」)



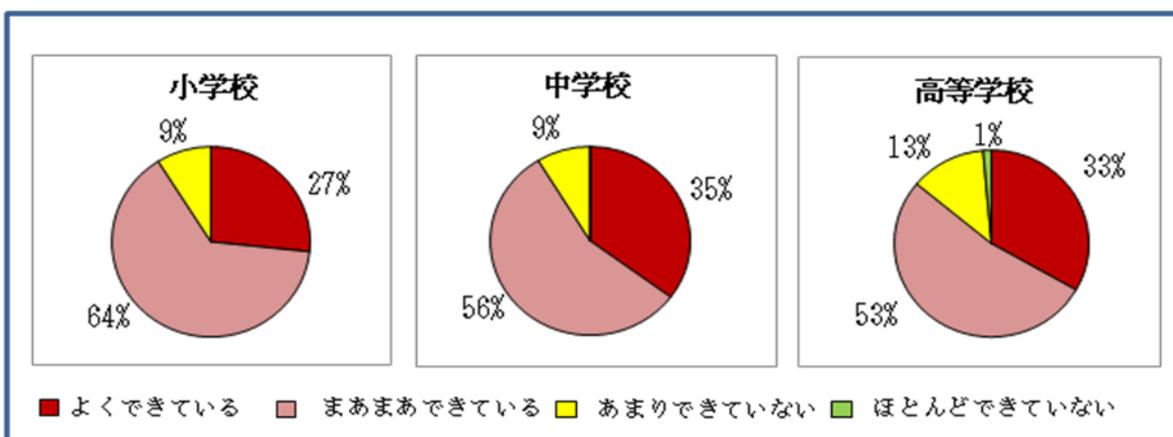
質問7 回答結果の考察

質問7は、小学校と、中学校及び高等学校とで、質問の内容を変えている。

小学校では、「児童に適切な言葉づかいをするよう指導できている」に対して、約90%の教員が「よくできている」、「まあまあできている」と回答しており、適切な言語環境の場をつくる取組に努力している様子が見える。一方、約1割が「あまりできていない」と回答したが、児童の発達の段階から、例えば、クラスの児童が全体的に大人しい場合、「授業中は、多少言葉づかいが悪くても、どんどん発言してほしい」ということを目標にする教員がいることも考えられる。

中学校及び高等学校では、授業規律の一環として「服装・頭髪」を整えさせることが重要であるため、上記の質問とした。中学校、高等学校ともに、回答の傾向はほぼ同じである。質問6の結果に比べ、「よくできている」と回答した割合が両校種とも低いが、服装や言葉づかいの指導については、生徒の家庭での生活背景などもかかわっており、学校だけの指導では改善が難しい状況の反映であると考えられる。

質問8 基本的な学習態度（座り方、立ち方、挙手の仕方など）について指導している。
 (小学校では、「基本的な学習態度（座り方、立ち方、挙手の仕方など）が身に付くようになるまで、何度も繰り返して指導している。」)

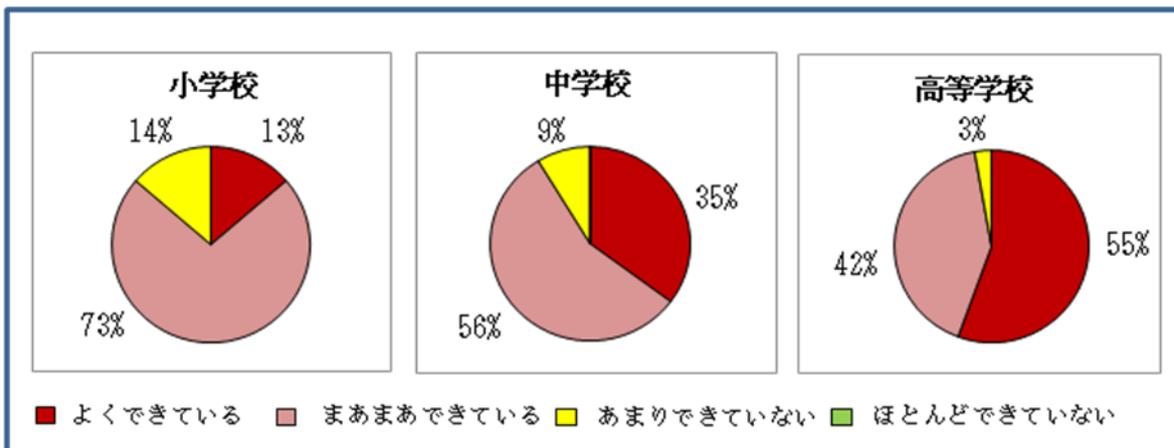


質問8 回答結果の考察

小学校では、「よくできている」と回答した教員の割合が他校種と比べて低いが、これは、小学校においては、「身に付くようになるまで何度も繰り返して…」という視点が重要であるため、この点を表記に加えたことによるところもあると思われる。

高等学校では「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した教員の割合が、14%と他校種と比べて高いが、「すでに小学校や中学校で獲得してきた達成課題である」と教員の間でとらえられ、日ごろの学習指導の中で、このような視点が重視されにくい状況があると考えられる。

質問9 学習・実習・実技・作業などに関する分かりやすい具体的な指導（発問・板書など）をしている。

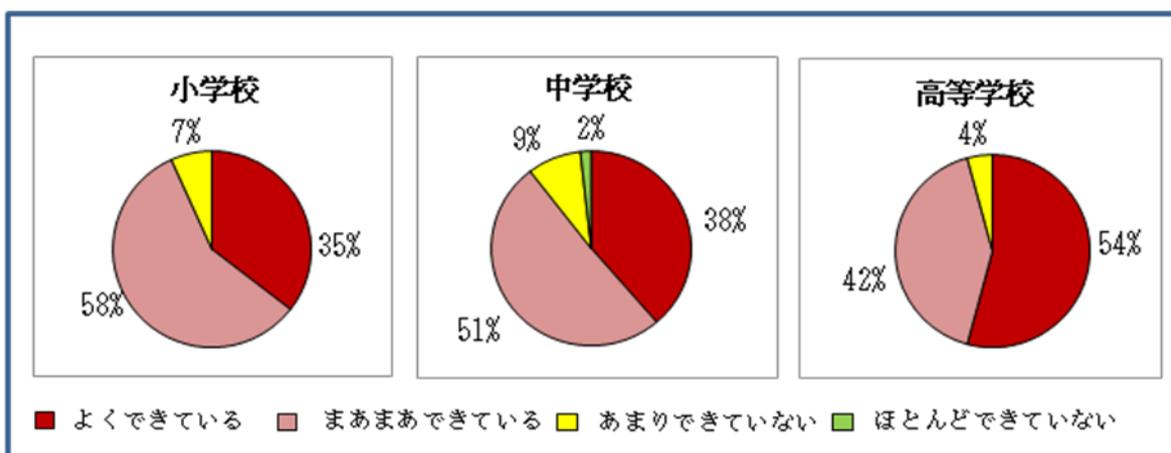


質問9 回答結果の考察

小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校で、自己の取組に対する評価が高くなっており、特に、高等学校では97%の教員が「よくできている」、「まあまあできている」と回答した。「分かりやすい授業」を展開することは、高等学校の教員にとって、より重要な取組であるにとらえられていることの反映であると考えられる。

高等学校の教員に比べ、小学校及び中学校の教員の自己評価が低いのは、児童生徒の学力の個人差がより大きいことが要因であると思われる。さらに、小学校の教員は、「よくできている」と回答した割合が低いが、これは、一人の教員が全教科を指導するので、全ての教科に関しての指導法を深く研究することが困難であることも要因として考えられる。また、自己の指導の在り方に関して「こうあるべき」という理想が高いと、日ごろ、きちんと指導できているにもかかわらず、自己評価が低くなる場合もあると思われる。

質問10 児童生徒が忘れ物をしたり、提出物を出さなかったりしたときの指導をしている。

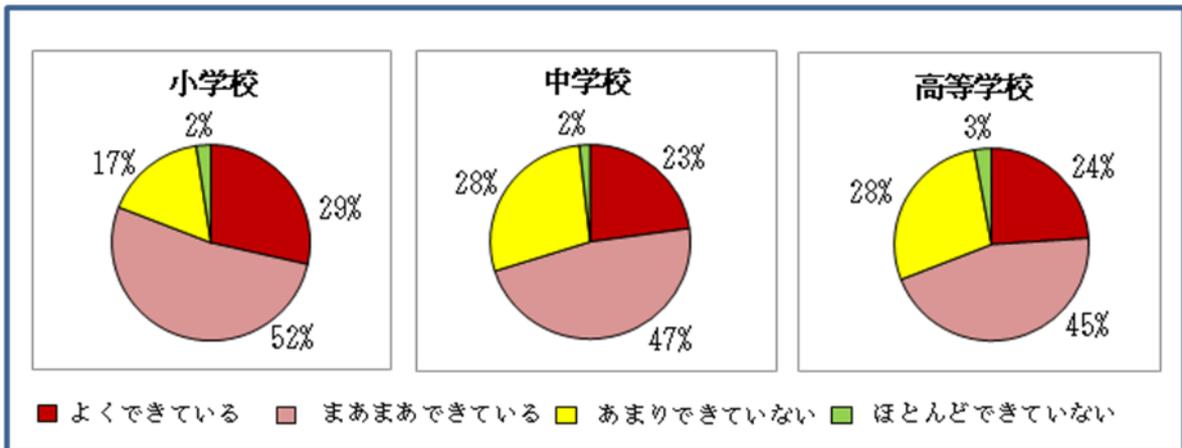


質問10 回答結果の考察

忘れ物や提出物に関する指導については、全校種で、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した割合が高く、その重要性が共有されているものと思われる。

小学校及び中学校の教員の回答の状況は似ているが、中学校の方が、指導に困難を感じる教員の割合が、やや多い結果となっている。高等学校では、「よくできている」と回答した教員の割合が他校種よりも高いが、これは、忘れ物や提出物の指導の不徹底が、生徒の単位認定・単位修得に大きく影響するため、高い意識をもって指導に取り組んでいる結果であると思われる。

質問 1 1 宿題・家庭学習などの充実を図る指導をしている。

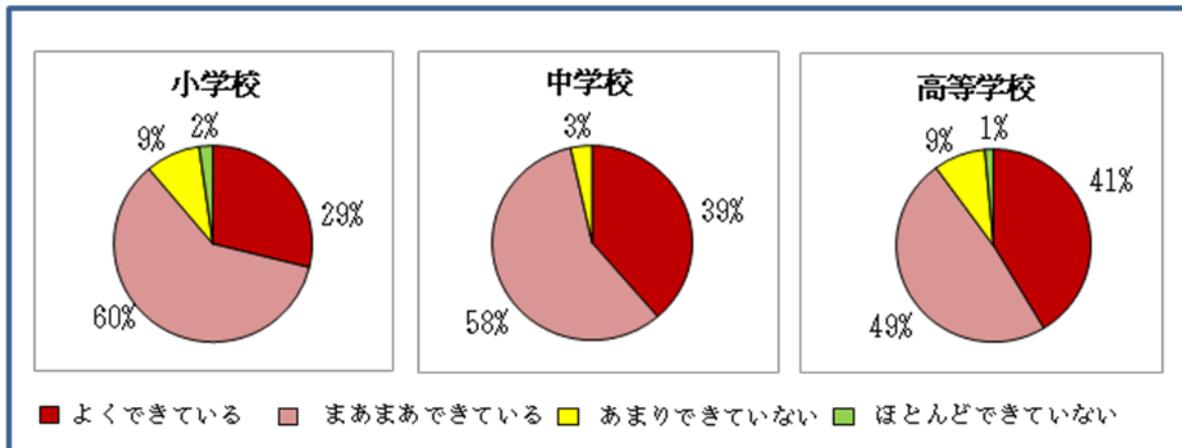


質問 1 1 回答結果の考察

小学校の教員は、80%以上が「よくできている」、「まあまあできている」と回答したのに対し、中学校及び高等学校教員は、同様の回答をした割合が約70%であった。中学校や高等学校の授業は教科担任制によるものであるため、宿題や家庭学習に関する指導の状況が、教科・科目によって異なっていることが要因であると思われる。

家庭学習の習慣を定着させることは全局的な課題であるので、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」の割合が少なくなるよう、各学校での組織的な取組が必要であると考えられる。

質問 1 2 授業中に、児童生徒をほめている。



質問 1 2 回答結果の考察

授業場面で児童生徒をほめることについては、調査結果から良好であると言える。特に中学校では、97%の教員が「よくできている」、「まあまあできている」と回答しており、他校種と比べて高い。これは、思春期初期から中期における心理的特性（心の不安定性）を踏まえての取組結果であると考えられる。

一方、小学校と高等学校では、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した教員の割合が共に10%を超えている。前思春期である小学校の児童や、思春期後期である高等学校の生徒は、概して、中学校の生徒と比べると心理的に安定している傾向があるが、さらにほめる工夫を図ることが重要であろう。

なお、どのようなこと（内容）を、どのように（方法）ほめるか、12-(2)での自由記述による回答のポイントを観点ごとに分類し、回答者の人数を校種ごとにまとめた表及び回答例を次頁に示した。授業を通して児童生徒をほめる場合は、教員側の意識次第で作り出せるものであり、また、ほめ方にも様々な工夫があることが、回答結果からうかがえる。

質問 1 2 - (2) 質問 1 2 で 4 または 3 を回答した方にお聞きします。

どのようなこと（内容）を、どのように（方法）ほめていますか。具体的に記入してください。

回答の観点		小	中	高	計
ほめているか どのようなこと（内容）を	できたこと、できていること、すぐれていること、達成したこと、正解したこと、成果が出たこと、意見を言えたり発言できたりしたことなどをほめる	19	36	34	89
	意欲、姿勢、努力、頑張りなどをほめる(できてなくても)	9	10	9	28
	独創性、ユニークな解答・考え方・意見(正解でなくても)などをほめる	0	4	6	10
	何げないつづき、言ったことなどを取り上げてほめる	1	1	1	3
	どこかよいところを探して、どんな答えであってもほめる	0	0	2	2
	苦手なことや、現在できていないことを取り上げて促すようにしてほめる	1	0	0	1
ほめているか どのように方法を	何がよかったか、どんなところがよかったかを児童生徒に具体的に伝えてほめる	10	8	11	29
	全体の前で、他の児童生徒に分かるように、対象児童生徒の名前をあげてほめる	4	8	9	21
	面談や机間巡視などの場で、個人的にほめる	5	5	3	13
	その場ですぐにほめる	4	7	0	11
	児童生徒同士でお互いにたたえあわせて、全員で拍手をしてほめる	1	4	0	5
	シール、スタンプなどの具体物で、ポイントなどを与えてほめる	3	1	1	5
	他の児童生徒の前で模範にさせたり、手本になってもらったりしてほめる	1	0	2	3
	オーバーに、おおげさにほめる	0	1	0	1
	心から、本気でほめる	0	1	0	1

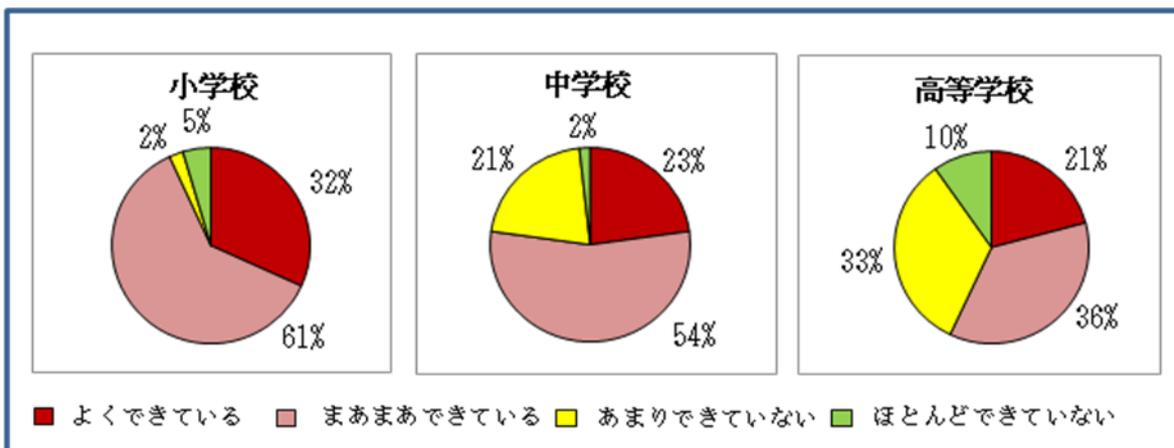
※ 表中の数字は回答人数であるが、回答者以外の教員が、当該項目に関する取組を行っていないということではないことを踏まえる必要がある。

<具体的な回答例>

※ () 内は回答者の所属する校種

- そのとき何がよかったかを具体的にほめ、全体へ広がるよう指導している。(小学校)
- 好ましい活動、行動をすぐに取り上げる。意図的に意識付けするようにしている。児童ができたと思っているときは、出来映えにとらわれず、共感的なほめ方をする。(小学校)
- 返事、発表の仕方が優れている場合や、解答内容に工夫がある場合などに対して、口頭でほめたり、生徒同士でたたえ合わせたり、ポイントを与えたりしている。(中学校)
- できているところ、やろうとすることに対して、机間指導で声をかける。(中学校)
- 提出物などの仕上げが丁寧だった場合など。(高等学校)
- 質問への解答が、方向が違ったものであっても「よくその視点に気付いた」とほめる。(高等学校)

質問 1 3 児童生徒のやる気を引き出す評価の工夫をしている。(スタンプ、ポイント、シールなど)

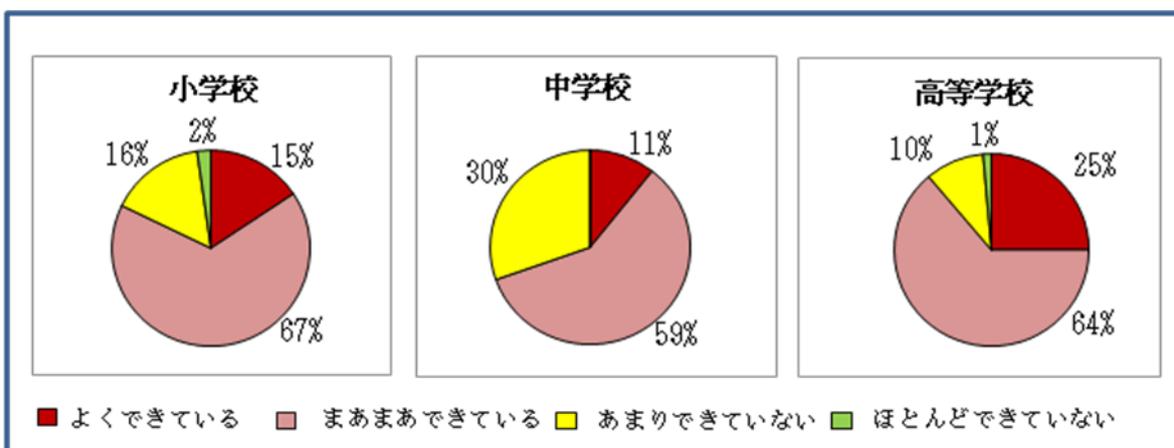


質問 1 3 回答結果の考察

高等学校よりも中学校、中学校よりも小学校で、「よくできている」、「まあまあできている」と回答する教員の割合が高くなっている。やる気を引き出す工夫として、スタンプ、ポイント、シールなどは年齢が低いほど有効であると捉えられていると思われる。

高等学校では、約半数弱の割合の教員が、「あまりできていない」、「できていない」と回答していた。しかし、質問 1 2 - (2) では、高等学校教員も、シールやスタンプなどの具体物などを活用しているという回答例もあり、意欲を引き出す工夫として、高校生の発達の段階に応じた具体物を使用したほめる取組を試みる価値はあるのではないかと考える。

質問 1 4 児童生徒の習熟度、達成度、能力などを踏まえ、個に応じた指導をしている。

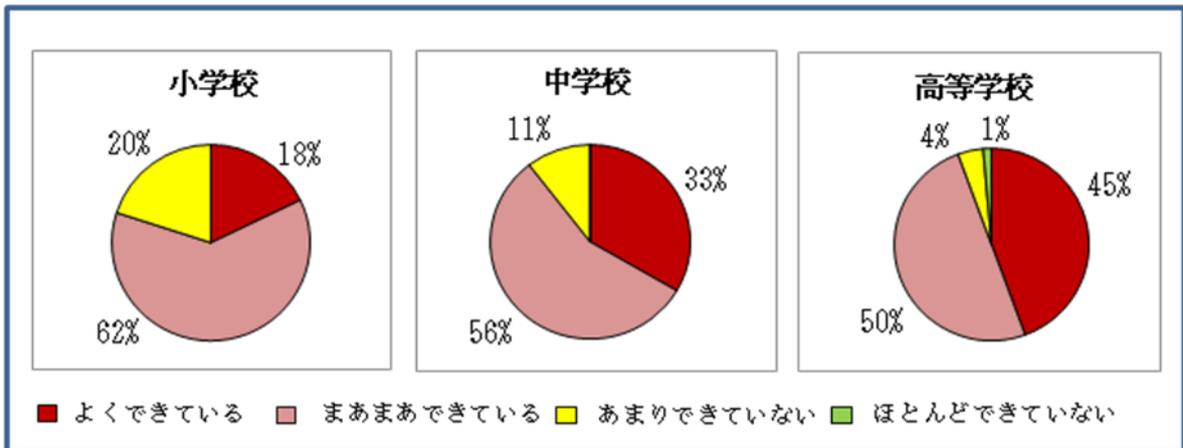


質問 1 4 回答結果の考察

校種ごとの回答の傾向が異なった結果となって表れた。小学校では、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員が約 80%であったが、「よくできている」と回答した教員は約 16%とそれほど高い割合ではなかった。中学校では、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員が約 70%で全校種の中で一番低く、また、「あまりできていない」と回答した教員の割合が約 30%で他校種と比べて高い数値になっている。高等学校は、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員が約 90%で、全校種の中で一番高い。

中学校では、生徒の学力差が小学校と比べて大きく、個に応じた指導の重要性を感じつつも、実践に苦勞しているという状況が表れていると思われる。また、少人数授業を実施できている教科とできていない教科の教員の意識の差も大きいのではないかと考えられる。一方、高等学校では、進路希望や興味関心に応じて科目を選択できる場合もあり、個に応じた指導が展開できていると捉えている教員の割合も多いと思われる。

質問 1 5 児童生徒に、本時のねらいや目標が明確な指導をしている。

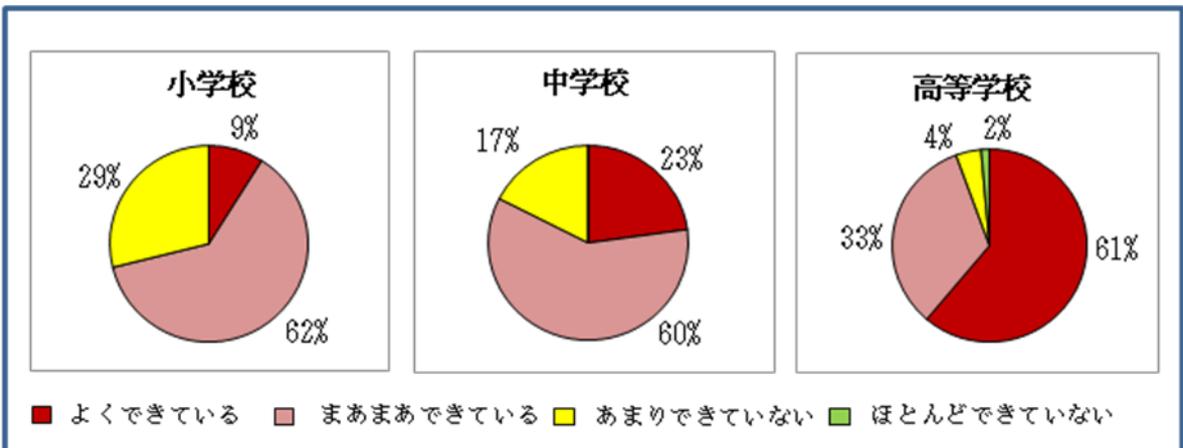


質問 1 5 回答結果の考察

小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校で、「よくできている」、「まあまあできている」と回答する教員の割合が高くなり、逆に、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答する割合は減少している。

特に、小学校と高等学校では回答の傾向に大きな差が見られる。小学校では、低学年になるにつれて、本時のねらいや目標を児童に分かりやすく示すことが難しく、一層の工夫が必要であるとして、自己評価が低くなっている教員が多いのではないかとと思われる。

質問 1 6 分かる授業を展開するために、十分な教材研究や授業準備などを行っている。

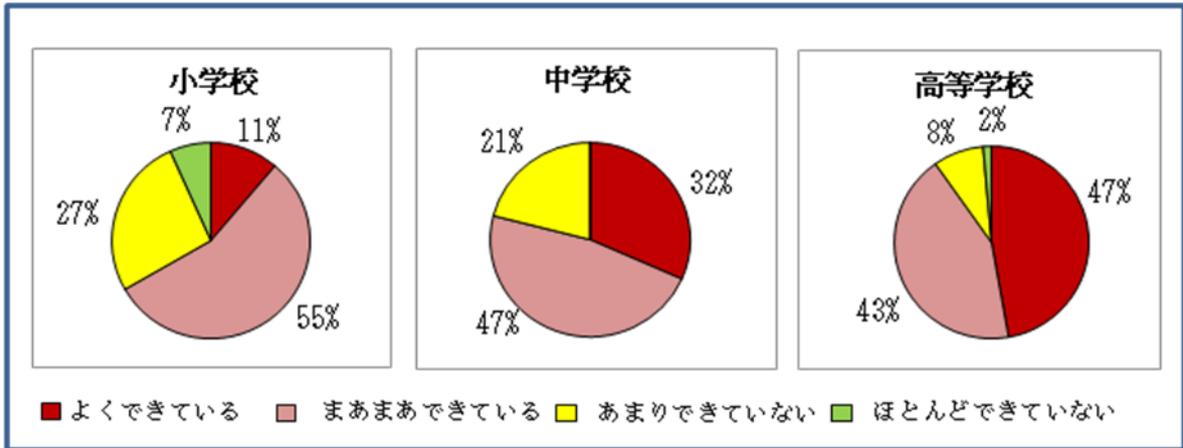


質問 1 6 回答結果の考察

校種ごとの回答の傾向の差がもっとも大きかった質問項目の1つである。「よくできている」と回答した教員の割合は、小学校9%、中学校23%、高等学校61%であった。一方、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した割合は、小学校29%、中学校17%、高等学校6%であった。これは、教科指導の内容に関して、小学校から中学校、中学校から高等学校へとなるにつれて、より高く専門的な知識や技術が必要であり、そのための準備に時間をかける必要があることが一番の大きな要因であろう。

教材研究や授業準備などは、指導内容についてのみ事前に深く研究するのではなく、教示の際の分かりやすさや効果的な展開法などについても追求すべきことである。一方、学校現場は多忙であり、教材研究や授業準備の時間を捻出することがなかなか難しい状況もある。この点については、校種を問わず大きな課題であるが、教員間の連携や組織的な取組がより必要になってくると考える。

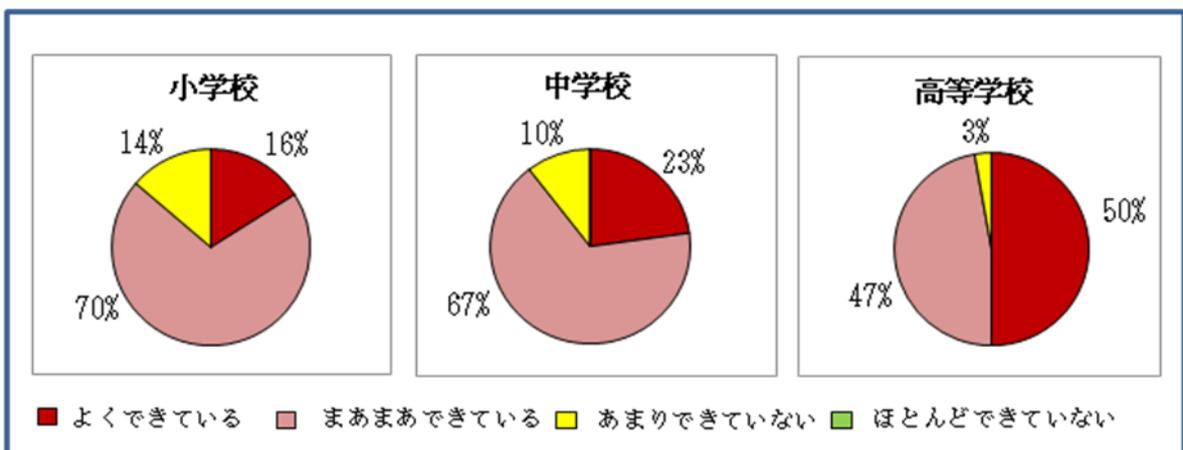
質問 17 分かる授業を展開するために、身近な話題・情報や視聴覚教材などを用いた指導をしている。



質問 17 回答結果の考察

小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校で、自己の取組を肯定的に評価する割合が高くなっており、特に、小学校の教員と高等学校の教員との回答の傾向の差は大きい。授業の中で身近な話題や情報を示したり、視聴覚教材などを用いたりするためには、事前の十分な準備も必要であるため、質問 16 の回答結果と似た傾向となっている。また、学習内容が難しくなればなるほど、その内容も、身近で具体的なものから抽象的なものになる傾向もある。したがって、抽象的な内容を指導する際に、身近な話題や情報を示したり、視聴覚にうったえたりする授業を展開することは、特に高等学校では、重要な視点として捉えられているものと思われる。

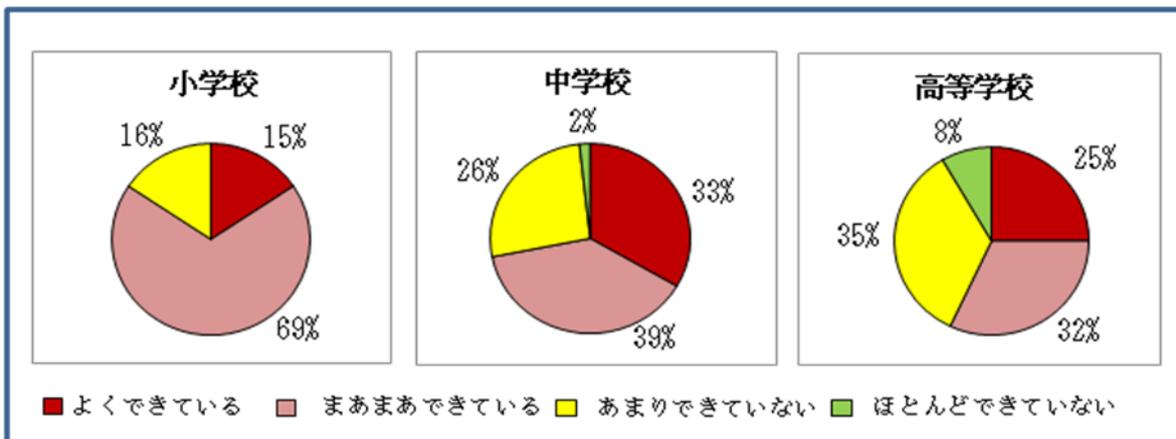
質問 18 分かる授業を展開するために、説明、発問、話し方などを工夫して指導している。



質問 18 回答結果の考察

小学校よりも中学校、中学校よりも高等学校で、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合が増えている。質問 16、質問 17 と同様に、小学校及び中学校の教員と、高等学校の教員との回答状況が異なっている。このような結果になった原因や理由は、質問 16、質問 17 での考察と同様であると考えられる。

質問 19 児童生徒相互による話し合い・協働・グループ作業などを取り入れた授業をしている。

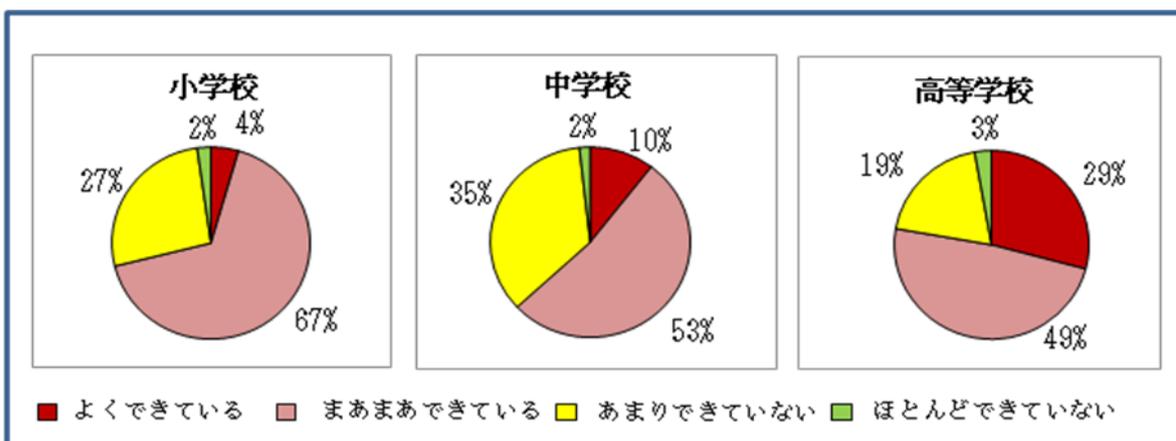


質問 19 回答結果の考察

「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合は、小学校 84%、中学校 72%、高等学校 57%であり、高等学校よりも中学校の教員の方が、中学校よりも小学校の教員の方が、話し合い・協働・グループ作業などを取り入れた授業の実践状況が全体的に高いと言える。しかし、「よくできている」と回答した教員の割合は、小学校が 15%であるのに対し、中学校 33%、高等学校 25%であった。

小学校では、学級担任制が基本であるため、多くの教員が、授業の形態として児童相互の活動を取り入れているのに対し、中学校や高等学校では、教科・科目の特性により、生徒相互の活動を取り入れている教員とそうでない教員とははっきりと分かれているものと思われる。特に、中学校では、生徒の習熟度の差が高等学校と比べて大きいと思われるため、グループ学習を導入したいと考えても、実践が難しい場合もあるのではないかと考える。

質問 20 児童生徒に、自分自身のめあて（中学校では「目標」）をもたせた授業をしている。（高等学校では、「生徒に、進路意識の醸成や自己の目標をもたせる指導をしている。」）

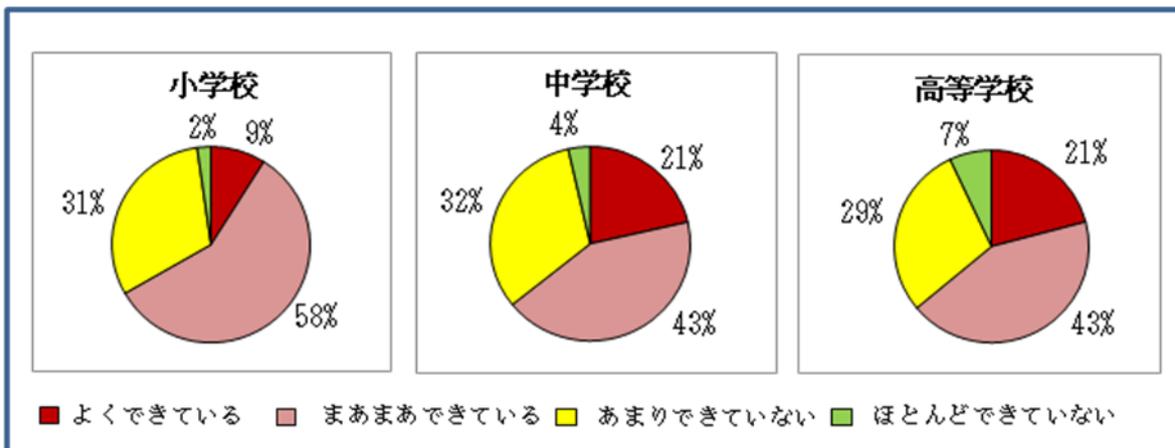


質問 20 回答結果の考察

「よくできている」と回答した教員の割合は、小学校 4%、中学校 10%、高等学校 29%と大きな差がある。これは、小学校及び中学校の質問表記が、高等学校の質問表記と比べて抽象的な表現であり、そのとらえ方に教員間の差があったことが要因だと思われる。高等学校の質問には「進路意識の醸成」という表記があり、そのような視点で、自己の取組状況を良好であると肯定的に評価した教員が多かったのではないかと考える。

小学校や中学校は、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した教員の割合が高く、特に中学校では 4割弱の割合となっている。授業を通して中学生に目標をもたせることの難しさが浮き彫りになった結果であると考えられる。

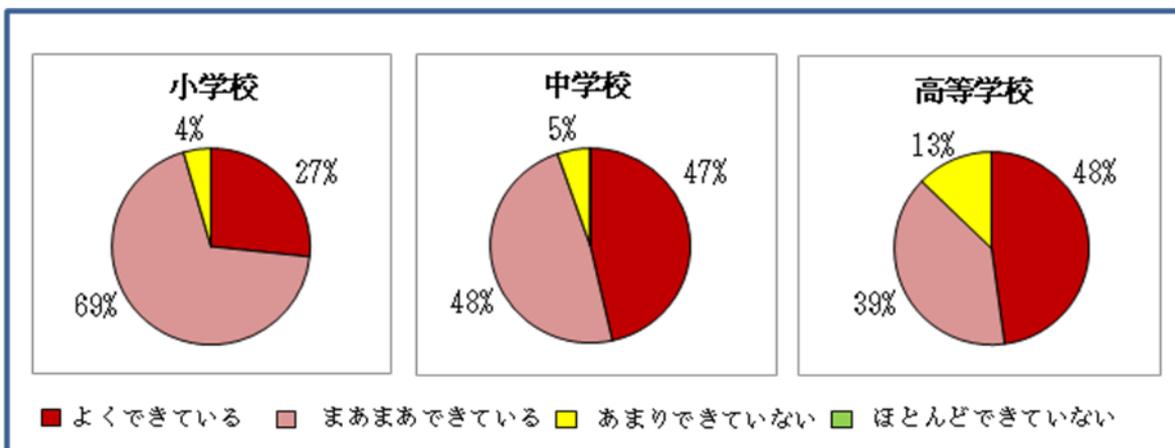
質問 2 1 児童生徒自身による自己評価、又は児童生徒相互評価を、授業で指導している。



質問 2 1 回答結果の考察

「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合は、どの校種も6割から7割で大きな差はない。しかし、「よくできている」と回答した教員の割合は、中学校及び高等学校ではそれぞれ21%であったのに対し、小学校では9%であった。これは、特に小学校低学年では、適切な自己評価、または児童相互評価を実施することが、発達段階のから考えると困難である状況が大きな要因であると思われる。小学校の授業では、授業中の発言や解答などを児童が相互に評価するような場面は多々見られるので、実際は、質問21の視点を踏まえて授業を実践しつつも、自己の取組を不十分と感じている教員もいるのではないかと考える。

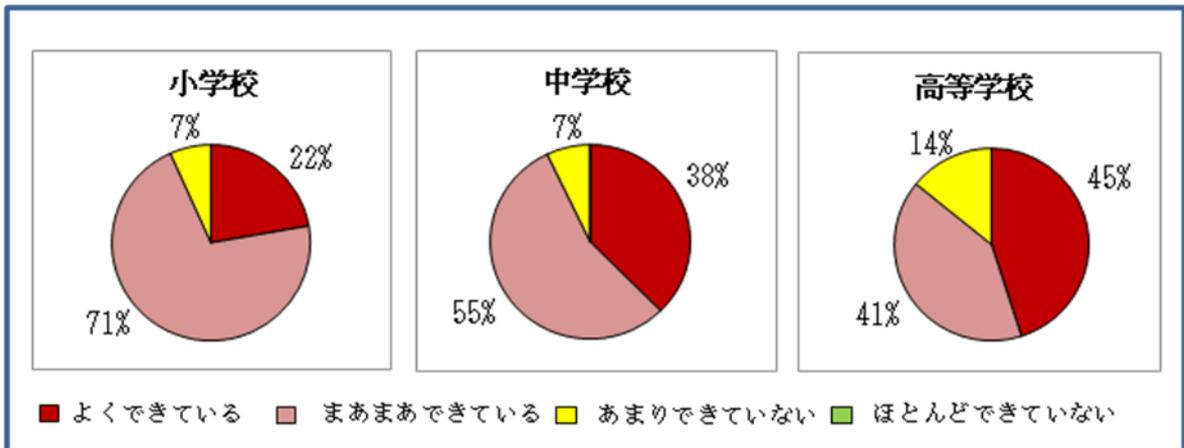
質問 2 2 児童生徒とのコミュニケーションに努め、進んで児童生徒一人一人と関わりをもっている。



質問 2 2 回答結果の考察

小学校及び中学校では、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合が、ともに約95%で極めて高かったが、高等学校では87%であった。一方、「よくできている」と回答した教員の割合は、中学校と高等学校がともに約47%であったのに対し、小学校は27%であった。小学校や中学校では、生徒とのコミュニケーションや関わりをもつことに対して、概ね、教員の意識が高く、また、積極的であると思われる。一方、高等学校では、教員個々の意識の差が大きいという要因、また、自立心が確立してくる発達段階であるため、教員と生徒がお互いに適切な距離で接することができる人間関係となっている要因などが挙げられると思われる。

質問 2 3 児童生徒の意見や考えなどを傾聴している。

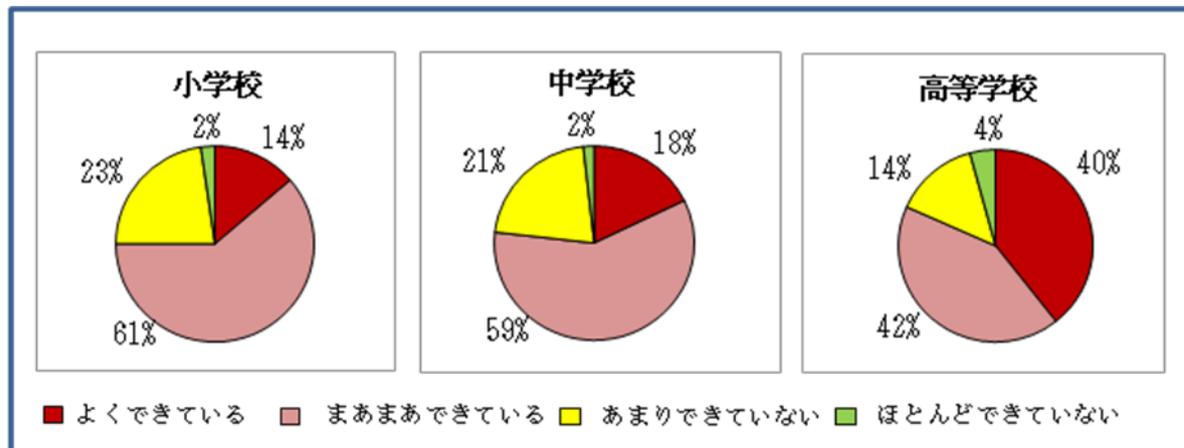


質問 2 3 回答結果の考察

児童生徒の意見や考えを傾聴する姿勢の基盤には、児童生徒との積極的なコミュニケーションや関わりが必要であるため、この質問の回答結果や傾向は、質問 2 2 の回答結果と非常に似ている。

質問 2 2 の回答結果との相違は、「よくできている」と回答した教員の割合が、どの校種においても、質問 2 2 での回答の割合より低いことである。児童生徒の話をよく聴けているかどうかを問われれば、日ごろの自己の取組を振り返ったときに、まだ課題があると感じている教員の割合が多いことの表れであると考えられる。

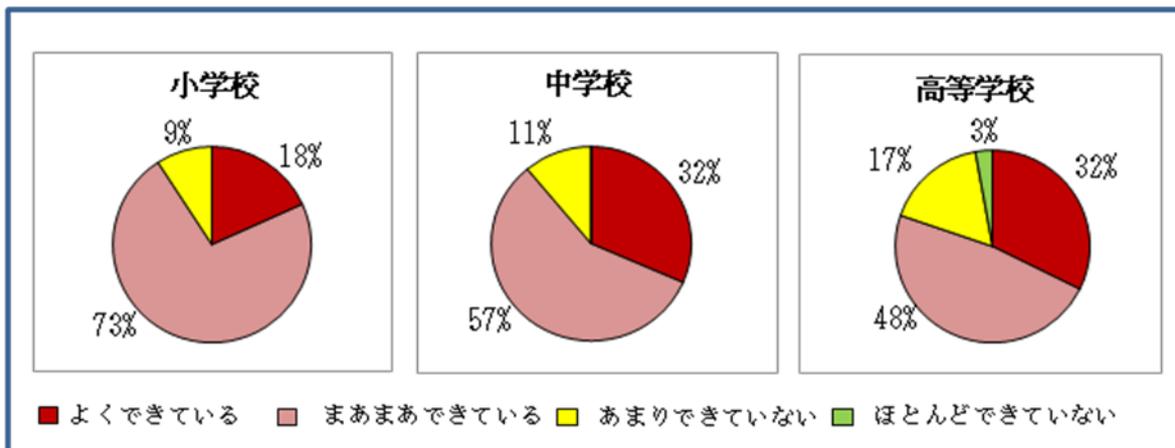
質問 2 4 児童生徒と様々な場面で面談（チャンス相談、定期相談など）をしている。



質問 2 4 回答結果の考察

どの校種においても、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合が約 8 割であり、校種ごとの大きな差はないが、高等学校では、「よくできている」と回答した教員の割合が 40%と、小学校の 14%、中学校の 18%と比べてかなり高い数値である。高等学校では、特に、卒業後の進路先が多様であるため、ホームルーム担任として日ごろのきめ細かな面談の必要性を教員が重視し、その結果が担任としての実践に表れているものであると考える。

質問 2 5 児童生徒に自己存在感や責任感を与えるために、一人一人の役割や責任などを明確にしている。

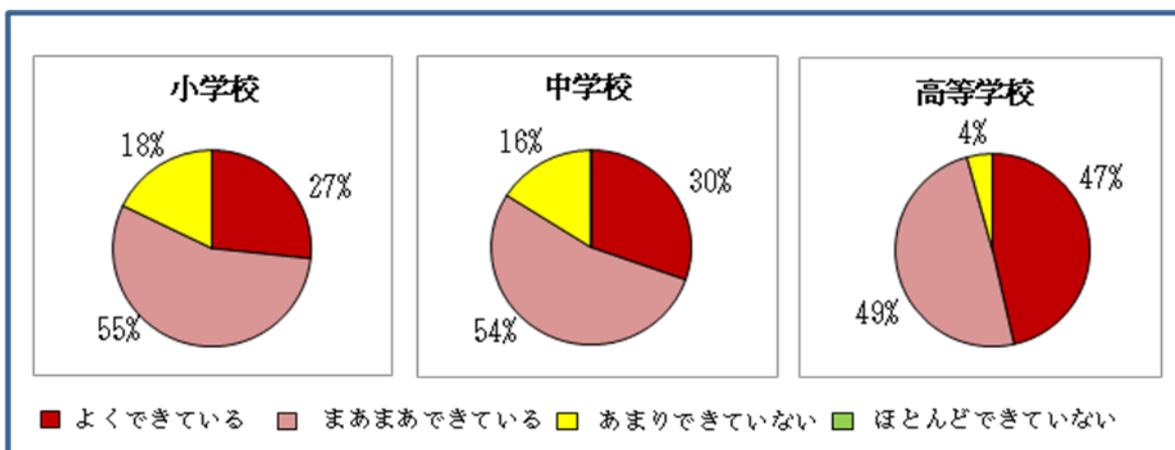


質問 2 5 回答結果の考察

小学校及び中学校では、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合が約 9 割であり、特に中学校では、「よくできている」と回答した教員が 32% で、小学校の 18% と比べて高い数値になっている。

一方、高等学校では、「よくできている」と回答した教員が中学校と同じ割合の約 32% である反面、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した教員の割合も約 20% であり、他校種と比べて約 2 倍の数値である。高等学校においては、生徒の自己存在感や責任感を醸成する取組に関して、ホームルーム担任による指導の差が大きいのではないかと考える。担任による指導の差を解消するために、より組織的な取組を実践することが課題であろう。

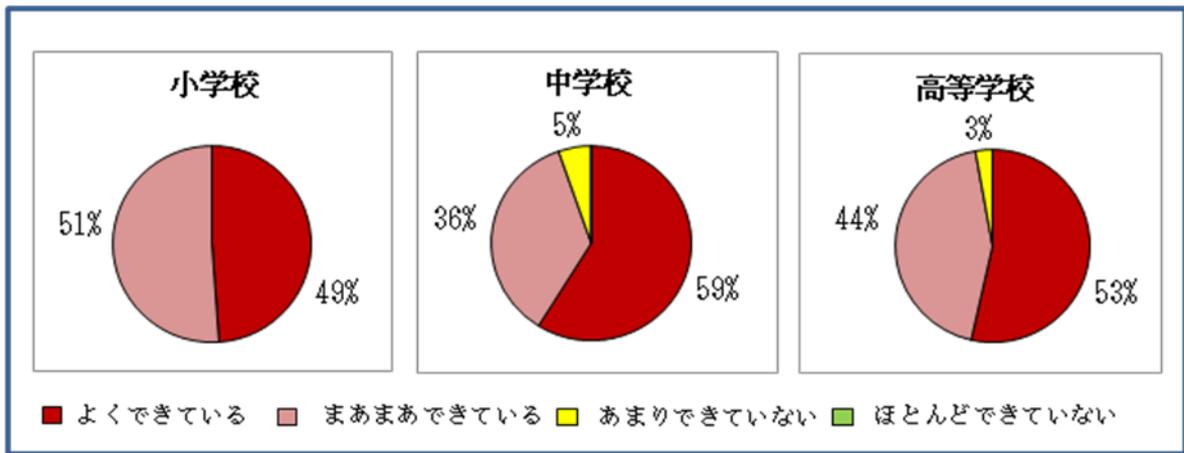
質問 2 6 教室内の美化、整理整頓、掲示物の整備など、学習にふさわしい環境整備をしている。



質問 2 6 回答結果の考察

小学校及び中学校の教員の回答の傾向はほぼ同じであり、「よくできている」と回答した教員の割合が両校種とも約 30%、「まあまあできている」と回答した教員の割合が約 55% であった。一方、高等学校は「よくできている」と回答した教員が約 47% で、小学校や中学校と比べて高い。また、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と回答した教員の割合は、高等学校が 4% であったのに対し、小学校 18%、中学校 16% で大きな差が見られる。学習にふさわしい環境を整備することは、校種を問わず重要である。自己の取組について不十分だと感じる教員の割合が小学校や中学校で多かったことは、校種ごとの教員の意識や受け止め方の違いが表れていると考えられる。

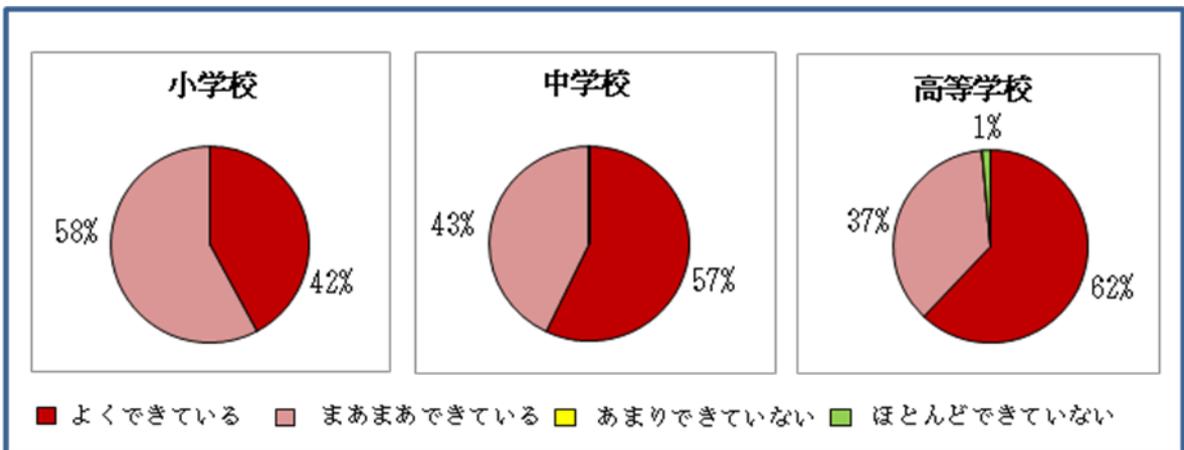
質問 27 「ダメなものはダメ」という毅然とした態度で、児童生徒に指導している。



質問 27 回答結果の考察

すべての校種において、ほとんどの教員が、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した。「ダメなものはダメ」という毅然とした姿勢の重要性については、概ね、教員の共通理解が図られていると思われる。

質問 28 公平・公正な態度で、児童生徒を指導している。

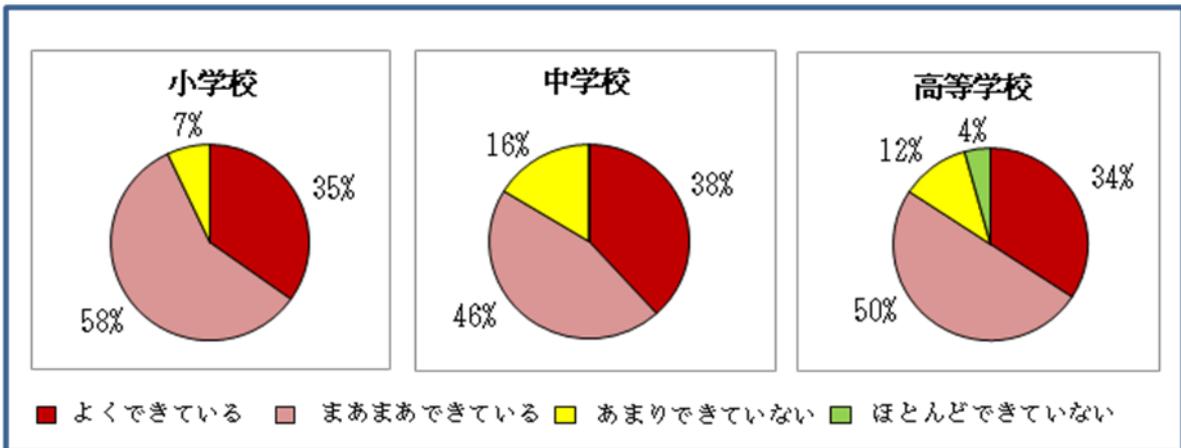


質問 28 回答結果の考察

質問 27 の回答結果と同様、ほぼ全員の教員が、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した。特に、中学校及び高等学校では、「よくできている」と回答した教員の割合が、小学校と比べて高かった。これは、学級・ホームルーム担任という立場であっても、教科担任として他クラスや他学年の生徒の指導に当たる必要性から、「自分のクラスであってもそうでなくても公平・公正に」という視点をもちやすい状況があると思われる。

また、「まあまあできている」と回答した教員の中には、「公平・公正な指導」と「個に応じた指導」とのバランスの在り方に悩んでいる教員もいるのではないかと考えられる。この2つの点は、相対するものではなく、どちらも学級・ホームルーム経営において重要である。

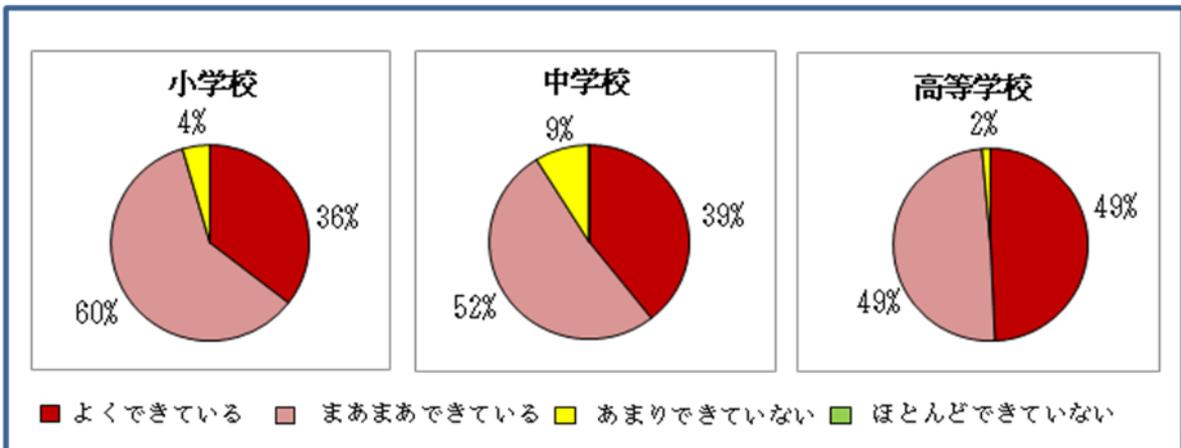
質問 29 保護者との連携（連絡帳、学級・ホームルーム通信、電話連絡、家庭訪問など）をしている。（中学校及び高等学校では、「連絡帳」の記述はなし。）



質問 29 回答結果の考察

どの校種においても回答の傾向は似ていたが、特に小学校では、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した教員の割合が約 93%、中学校及び高等学校の教員の割合は両校種とも約 84%であり、小学校が約 10ポイント高かった。これは、小学校教員に対する質問では「連絡帳」という表記が入っていたことも一因であると思われる。日ごろ「連絡帳」を通しての保護者との連携が行われていることが、小学校教員の数値の高さに表れていると考えられる。

質問 30 他の教員との連携（報告、連絡、相談、確認など）をしている。



質問 30 回答結果の考察

どの校種においても、9割以上の教員が、「よくできている」、「まあまあできている」と回答していた。特に、高等学校では、「よくできている」と回答した教員の割合が、他校種と比べて高かった。一方、中学校では、「あまりできていない」と回答した教員の割合は9%であり、他校種と比べて高かった。しかし、概ね、他の教員との連携は「できている」と評価している教員が多いと言える。

今後の課題は、各学校の実情を踏まえた「よりよい連携」を構築し、授業改善及びよりよい学級・ホームルーム経営の展開に生かすことであると考えられる。

質問 3 1 授業や学級・ホームルーム経営において、これまでの実践の中で成果や効果があった事例などがありましたら記入してください。

回答の観点	小	中	高	計
児童生徒との関わりやコミュニケーションの充実(面談や生活記録ノート等提出物などへの記入を含む)	3	4	7	14
児童生徒相互の協働、助け合い、声掛けなどの活性化(班活動や係活動なども含む)	3	5	5	13
学級通信の工夫などによる保護者への情報提供・連携	4	5	4	13
課題、手順、計画、目標、ルールなどの明確な提示や指示(または、そのことについての確認なども含む)	7	4	1	12
児童生徒の意欲・関心・興味をもたせる授業の展開や工夫	1	5	4	10
時間を守らせる、気持ちの切替えをさせる、集中させる指導の徹底	6	1	2	9
児童生徒自身による自己評価や相互評価の導入またはその工夫(競争意識・ライバル意識の育成なども含む)	1	6	2	9
掲示物の工夫(絵や図などでわかりやすく示す工夫など)や教室内の環境美化	2	2	3	7
児童生徒の自主的活動、自治活動の活性化(または児童生徒の自己表現の充実)	0	5	2	7
規律指導の徹底	1	5	0	6
ある児童生徒の手本や模範などの全体への提示、児童生徒相互の良い点などを認めさせる指導	3	3	0	6
継続的な粘り強い指導、コツコツと地道な指導、反復的な指導の充実	3	2	0	5
宿題、家庭学習、予習などの充実(事後のチェックなども含む)	3	1	0	4
授業準備、教材研究、授業計画などの精励	1	3	0	4
SST やグループエンカウンターなどの実施	1	1	1	3
児童生徒の個々の様子・状況等の念入りな記録(個人カードなど)	0	1	2	3
班編制やクラスの座席などの工夫	1	1	0	2

※ 表中の数字は回答人数であるが、回答者以外の教員が、当該項目に関する取組を行っていないということではないことを踏まえる必要がある。

<具体的な回答例>

※ () 内は回答者の所属する校種

- 帰りの支度は音楽をかけて、曲が終わるまでに終わらせた。漢字テスト終了時に、タイマーのアラームを鳴らし、自分たちで集められるようにした。(小学校)
- 1 日の中では全員に十分な声掛けをできないので、ノートへの一言や学級通信の中で頑張りを取り上げるなどしてプラスの評価をした。(小学校)
- 話を聞く態度の徹底や、学級通信等を利用しての保護者との連携による家庭学習の定着を図ったことなどにより、クラス平均点が向上した。(中学校)
- 生徒の作品を互いに見合う時間をつくると、生徒同士の意欲が高まる。(中学校)
- 始業時間前に教室に行き、机をきれいに並べ、ロッカーの上を点検し、黒板等のチェックを欠かさずにやると教室がきれいに保たれる。(高等学校)
- 単元ごとに個人カードを作成し、生徒の振り返りや気付きを促すとともに、生徒の感じ方や感想に触れ、授業改善につなげることができた。(高等学校)

質問32 授業や学級・ホームルーム経営において、これからやってみたいことやアイデアなどがありましたら記入してください。

回答の観点	小	中	高	計
児童生徒の話合い活動、グループ活動、自主的活動の充実	5	7	1	13
多様な学習形態の導入・工夫、ICTを駆使した授業の展開	1	6	3	10
レクリエーション、共同の遊び体験、体験活動の充実	3	1	3	7
児童生徒が相互に認め合う場、思いやりを示す場、よりよい人間関係づくりができる場の設定	4	0	1	5
他の教職員との連携、組織的(全校、学年全体での)教育活動の充実	1	1	0	2
授業規律の徹底	2	0	0	2
リーダーの育成	1	1	0	2
環境美化	0	0	2	2

<具体的な回答例>

※()内は回答者の所属する校種

- 1年生は自分のことに精一杯で、周りがあまり見えていないので、互いの良いところを見つけ、ほめ合う場の設定を増やしたい。(小学校)
- 「Aさんと同じで…です」、「Bさんとちょっと似ているのですが…だと思います」、「Cさんの意見とは違って…だと思います」などのように、聞き方、話し方の指導で、前に発表した児童の発言内容等を生かした発表を指導していきたい。(小学校)
- 学級活動やグループ(3人程度)での話合いや教え合い活動を積極的に取り入れて、形だけでなく実のあるものにしたい。(中学校)
- 学級活動、学校及び学年行事、道徳、各教科とのクロスカリキュラムをつくりあげ、多層的な授業を展開させたい。(中学校)
- 自分たちでホームルームをつくるという意識をもたせるよう、各班長によるホームルーム内指導部をつくり、朝のショートホームルームの司会・連絡をやらせたい。(高等学校)
- 授業班を5～6班つくる。各班にはその教科で理解度の高い生徒を必ず配置し、その班内で教え合わせたり、班ごとに競い合わせたりしたい。(高等学校)



質問 3 3 授業や学級・ホームルーム経営において、現在、困っていることや悩んでいることがありましたら記入してください。

回答の観点	小	中	高	計
意欲がない児童生徒、反抗的な児童生徒、集中力がない児童生徒、協調性がない児童生徒への指導	8	3	6	17
学力低下、学力や意欲の個人差が大きいこと、個に応じた指導の充実など	6	6	1	13
保護者との連携(子の教育に無関心な保護者など)	3	2	1	6
軽度発達障害など、特別な支援を要する児童生徒への対応	5	1	0	6
忙しさ、ゆとりのなさ、教材研究の時間の不足など	1	3	0	4
指導規律の不徹底(教員による指導の差など含む)	0	2	2	4
指導内容の般化、定着化	2	0	1	3
忘れ物や提出物の指導	2	1	0	3
児童生徒のコミュニケーション能力の向上	1	0	2	3
(教員の)授業力向上	0	2	0	2
リーダーの育成	0	1	0	1

<具体的な回答例>

※ () 内は回答者の所属する校種

- 授業中に歩み、おしゃべりをして、友だちとケンカになり(カッとなると手や足が出て、クールダウンするまで時間がかかる)、授業を妨害する児童がいるので、授業が中断して成り立たなくなってしまうので困っている。(小学校)
- 作業を伴う学習では、集中力を欠く児童がいる。注意に時間を取りたくないが、悪循環になるときがある。音楽・家庭科では教科書を忘れる児童が他教科と比べて多い。忘れ物チェックをしてもなかなか減らない。(小学校)
- 習熟度が低く、また、理解度が周りとは差があり、一斉指導では認めたりほめたりすることができず、個別指導では時間に限りが出てきてしまう。このまま学年が上がると、より苦勞することが予想され、心苦しく思う。(中学校)
- 全く興味をもたない生徒に興味をもたせ、少しでも学習意欲をもって取り組んでもらおうと、導入でおもしろいものを見せたり、身近なものを取り上げたりしているがなかなかうまくいかない。(中学校)
- 一般化する力。一般論としての話を自分のこととして受け取ったり、自分のことを一般的な事柄の中でとらえたりする力の不足した生徒が多いと感じる。(高等学校)
- 集中させて授業を受けさせているつもりだが、「ぼーっ」としたり居眠りをしたりする生徒が多く、授業内容が定着しない。家庭学習の習慣化を図るために小テストをやるが、ほとんど勉強しないで受けており、あまり意味がない。(高等学校)

「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケート〈本調査〉 回答結果 ～全体のまとめと考察～

今回のアンケートでは、授業において効果的に機能する生徒指導の在り方に関して、学校現場の教員の取組状況を調査するために、「基本的な学習態度を身に付けさせる指導」、「意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導」、「授業を支える学級・ホームルーム経営における指導」の3つを柱に質問紙を作成し、実施した。また、小学校、中学校、高等学校の校種ごとの特性や、児童生徒の発達の段階の違いを踏まえ、質問紙の一部を校種ごとに変えて調査を行った。

個々の質問項目で記述されている内容は、どれも、授業を展開する際や学級・ホームルーム経営に取り組む際に、児童生徒の実態を踏まえつつ、十分実践されるべき内容のものであると考える。その中には、多くの教員が「よくできている」、「まあまあできている」と自己の取組状況について肯定的な回答をした項目もあれば、「あまりできていない」、「ほとんどできていない」と自己の取組状況を不十分と捉えた回答の割合が比較的高い項目もあった。自己の取組状況を不十分と捉える回答の割合が高かった項目で述べられている内容については、今後、授業改善を図る上で、重点的かつ組織的に取り組むべきポイントであると考えられる。

注目すべき点は、「基本的な学習態度を身に付けさせる指導」に関する項目（質問1～11）で自己の取組状況を不十分と回答した教員の割合の平均が約8.0%、「授業を支える学級・ホームルーム経営における指導」に関する項目（質問22～30）で自己の取組状況を不十分と回答した教員の割合の平均が約9.7%であったのに対し、「意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導」に関する項目（質問12～21、ただし12-（2）を除く）で自己の取組状況を不十分と回答した教員の割合の平均が約20.4%であったことである。つまり、全体的な傾向として、学習規律の確立に関する指導や、学級・ホームルーム経営に関する指導については、教員の意識も高く実践状況も比較的良好であるのに対して、児童生徒の意欲を引き出す工夫については、まだ課題があると言えるのではないだろうか。前章で、学習指導における生徒指導は、「児童生徒が主体的かつ意欲的に授業に取り組めるよう創意工夫を図ること」がこれまで以上に一層必要になってくることを述べたが、アンケート調査の結果からも、この指摘の妥当性が裏付けられたものと考えられる。

今回の調査結果については、校種ごとの回答結果を表及びグラフで示した。これは、各校種における回答割合の相違や、自由記述による回答内容などを表面的にとらえ、自己の属する校種の実践状況が他校種と比べて十分か不十分かを比較することを目的としたものではない。小学校から中学校、さらには高等学校へと続く学習指導の中で、生徒指導の機能を生かす実践の在り方について、校種の枠を超えて考察することが重要であると考えられる。自己の所属する校種やそれ以外の校種の現状と課題について知り、それを客観的に捉え、小中連携や中高連携を見据えての、一貫した生徒指導はどう在るべきかを考える材料として、本アンケート調査の結果を示したことを、最後に付け加えたい。

5 研究Ⅱ「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の作成

本研究では、授業に生かす生徒指導の在り方についての定義付け及び教員対象アンケート調査の結果を踏まえ、授業で生徒指導の機能を生かすためのポイントや、学級・ホームルーム経営における指導の在り方などをまとめた「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」を作成した。

なお、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」については、総合教育センターのホームページ上に、別途掲載する。

(1) 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の基本的な考え方

- ア 各教科等の指導法や指導技術について解説するのではなく、どの教科・科目においても共通する「生徒指導の機能を生かした授業改善の在り方と具体的な方策」を提示できるように工夫する。
- イ 読み手の対象については、初任者など経験の少ない教員を中心とするが、経験を積んだ教員が改めて指導を見直す際に活用できるようにするなど、全ての教員を対象とする。
- ウ 小学校、中学校、高等学校における授業のやり方の違いや、対象となる児童生徒の発達の段階の違いに留意しながら内容を整備するとともに、どの校種でも共通に活用できる内容となるように工夫する。
- エ 「ただ読むだけ」の手引きでなく、自己の授業について「振り返り」ができるよう、チェック機能も含んだ手引きとする。

(2) 内容構成について

- ア 内容構成については、①「理論編（教員対象アンケート調査結果の概要及び考察も含む）」、②「実践編」、③「手引きの活用に関する検証・分析（児童生徒対象アンケート調査結果の概要及び考察も含む）、授業改善チェックシート」とする。
- イ ①「理論編」では、生徒指導提要に示されている「生徒指導の意義と原理」についてのポイントをまとめる。特に、「学習指導における生徒指導（の2つの側面）」の重要性について解説する。また、授業力を支える学級・ホームルーム経営における指導の意義についても記載する。さらに、研究1年目（平成23年度）に実施した教員対象アンケート調査結果の概要及び考察についても示し、手引きが、学校の実態を踏まえた内容であることを補完できるようにする。
- ウ ②「実践編」は、手引きの中核として位置付ける。学習指導における生徒指導の2つの側面及び学級・ホームルーム経営に関して、どの校種でも共通して実践することができる「生徒指導の機能を生かす授業改善の在り方と具体的方策」を提示するとともに、校種や発達段階の特性を踏まえ、実践の在り方や方策などを示す。
- エ ③「手引きの活用に関する検証・分析、授業改善チェックシート」では、研究2年目（平成24年度）に実施した児童生徒対象アンケート調査結果の概要及び考察についても示し、手引きの記載内容の学校における実践が有効であることを補完できるようにする。また、教員対象アンケートで質問項目を基にした授業改善チェックシートを示し、読み手である教員が自己の授業実践を振り返ることができるようにする。

「生徒指導の機能を生かす 授業改善の手引き」



※「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」（平成25年度）
は、下記によりご参照ください。

http://www.center.spec.ed.jp/d/h24/363_jugyo_kaizen_tebiki.pdf

第1章「理論編」

1 授業に生かす生徒指導とは

- (1) 生徒指導の意義
- (2) 学習指導における生徒指導
- (3) 生徒指導の機能を生かすための3つの留意点
- (4) 学習指導を支える学級・ホームルーム経営
- (5) 授業に生かす生徒指導の在り方

2 「授業に生かす生徒指導の在り方」に関する教員対象アンケート調査結果の概要及び考察

第2章「実践編」

1 基本的な学習態度を身に付けさせるために

- (1) 学習にふさわしい環境づくり
- (2) 学習規律づくり
- (3) 学習の習慣化づくり
- (4) 小学校・中学校・高等学校の校種ごとの留意点

2 一人一人の児童生徒の意欲を引き出すために

- (1) 適切な指導、助言、評価の在り方
- (2) 分かる授業づくり
- (3) 自ら学ぶ力の育成
- (4) 小学校・中学校・高等学校の校種ごとの留意点

3 授業を支える学級・ホームルーム経営のために

- (1) 児童生徒理解と教育相談的な取組
- (2) 環境美化
- (3) 一貫した指導と情報発信・共有
- (4) 小学校・中学校・高等学校の校種ごとの留意点

第3章「資料編」

1 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の活用に関する検証・分析 ～児童生徒対象アンケート結果から～

2 「授業改善チェックシート」

6 研究Ⅲ「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の検証

本研究では、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」が学校現場で活用されるものとなるよう、その効果について検証するため、下記の要領で児童生徒を対象としたアンケート調査を実施した。

- 「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」に記載されている観点や指導法などについて、教員（研究協力委員及び研究協力校教員）が自校の課題を踏まえてそれぞれ必要だと思われる項目について、一定期間重点的に取り組む。その取組の前後における児童生徒の心的変容の度合いを、同じ質問項目によるアンケートを2回実施することにより調査する。
- 質問内容は、昨年度（平成23年度）教員対象に実施した「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケートの質問項目を踏まえ、児童生徒の基本的な学習態度の在り方や、教員による意欲を引き出す工夫・取組等に対する評価について問うものとする。
- 質問項目は全部で20問程度とする。

(1) 児童生徒対象アンケートの作成

昨年度（平成23年度）教員対象に実施した「授業に生かす生徒指導の在り方」に関するアンケートの質問項目を踏まえ、児童生徒の基本的な学習態度の在り方や、教員による意欲を引き出す工夫・取組に対する評価について、20項目のアンケートを作成した。

児童生徒の基本的な学習態度の在り方については、「自己の学習態度や規律が身に付いているかどうか」という観点（「生徒指導提要」に記載されている学習指導における生徒指導の二側面のうちの前者）で、教員による意欲を引き出す工夫・取組については、「教員の指導や関わりによって、どれだけ児童生徒の意欲が引き出されているか」という観点（二側面のうちの後者）で、質問項目を作成した。

質問項目を作成する際は、教員対象アンケートの各質問項目について、あらためて下記のように分類し直した。（ただし、自由記述による質問項目は除く）

- ①「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する項目
教員対象アンケートの質問 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 26, 27, 28
- ②「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する項目
教員対象アンケートの質問 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25
- ③どちらにも関連しない項目
教員対象アンケートの質問 29, 30

また、上記質問の中には、観点が似ている項目もあるため、それらはまとめることにした。

- 観点が似ているため、まとめた項目
質問1と2、質問4と7、質問16と17、質問15と20（小のみ）、質問22と24

①と②をカテゴリーとして、各校種での教員対象アンケートにおいて回答評価の平均値が低い順に10項目を選び（まとめた項目は1つの項目として）質問項目とした。

< 小学校の質問項目 >

◆ 回答評価の平均値が低い順の結果（※ ゴシックが質問項目に選んだ10項目）

・「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する項目

9, 11, 26, 7, 3, 8, 4（7を含む）, **5, 10, 2, 1**（2を含む）, **6, 28, 27**

・「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する項目

17, 20, 21, 16（17を含む）, **24（22を含む）, 14, 15**（20を含む）, **19, 18, 25, 12, 23, 13, 22**

< 中学校の質問項目 >

◆ 回答評価の平均値が低い順の結果（※ ゴシックが質問項目に選んだ10項目）

・「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する項目

11, 26, 5, 3, 8, 9, 10, 4, 7（4を含む）, **27, 1（2を含む）, 28, 6, 2**

・「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する項目

20, 14, 21, 24（22を含む）, 13, 19, 16, 17（16を含む）, **18, 25, 15, 23, 12, 22**

< 高等学校の質問項目 >

◆ 回答評価の平均値が低い順の結果（※ ゴシックが質問項目に選んだ10項目）

・「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する項目

11, 8, 3, 26, 7, 1（2を含む）, 10, 27, 9, 4（7を含む）, **6, 5, 28, 2**

・「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する項目

13, 19, 21, 20, 25, 14, 24（22を含む）, 12, 23, 22, 17（16を含む）, 15, 18, 16

このようにして、小・中・高の校種別に作成した各質問項目に対して、4件法（4…そう思う、3…まあまあそう思う、2…あまりそう思わない、1…そう思わない）で回答するようにした。

また、自由記述欄については、1回目アンケートでは「授業や学級（ホームルーム）に対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいこと」などを、2回目アンケートでは「授業や学級（ホームルーム）に対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったこと」及び「良くなった理由や頑張れた理由」などを回答できるようにした。（ただし、小学校では小学校4年生から6年生を対象とし、「良くなった理由や頑張れた理由」などについては問わない）

なお、1回目アンケート結果と2回目アンケート結果については、回答集団全体の変容度合いだけでなく、個人の変容度合いについても調査を行った。

授業についてのアンケート〈小学校版〉

県立総合教育センターでは、授業についての研究に取り組んでいます。そこで、みなさんの日ごろの授業の様子についてアンケート調査を行いたいと思いますので、下の質問に教えてください。

あなたが回答した内容は、学校の成績などに関係することはありませんので、安心して、正直に教えてください。

- I それぞれの質問について、もっともあてはまると思う数字を、1つだけ○でかこんでください。
 (4…そう思う 3…まあまあそう思う 2…あまりそう思わない 1…そう思わない)

〈授業や学級での自分の様子について〉

児童生徒の基本的な学習態度の在り方に関する質問

質 問	そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
	4	3	2	1
1 授業の始めと終わりの時間を守って行動している。	4	3	2	1
2 教科書や学用品などのじゅんびやつくえの上の整理ができています。	4	3	2	1
3 授業中の言葉づかいはきちんとできている。	4	3	2	1
4 自分から質問や発表をすることができる。	4	3	2	1
5 勝手におしゃべりなどをしていない。	4	3	2	1
6 すわり方や手の上げ方などがきちんとできている。	4	3	2	1
7 授業中に先生から指示されたことがきちんとできている。	4	3	2	1
8 わすれものをしていない。	4	3	2	1
9 宿題はきちんとやっている。	4	3	2	1
10 教室内をよごさないようにしたり、整理せいとんしたりしている。	4	3	2	1

〈授業や学級の様子について〉

教員による意欲を引き出す工夫・取組に関する質問

質 問	そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
	4	3	2	1
11 よいところやがんばったことなどがほめられる。	4	3	2	1
12 分からないところなどが教えてもらえる。	4	3	2	1
13 授業のめあてがわかりやすい。	4	3	2	1
14 きょうみ深い話をしてくれたり、絵や図を見せてくれたりするので、授業がわかりやすい。	4	3	2	1
15 説明や話し方などがわかりやすい。	4	3	2	1
16 友だちといっしょに作業したり、グループで活動したりする授業である。	4	3	2	1
17 自分や友だちのよいところなどを、授業の中でふりかえっている。	4	3	2	1
18 先生とたくさん話をしている。	4	3	2	1
19 先生に自分の意見や考えなどをよく聞いてもらっている。	4	3	2	1
20 自分のやくわりやせきになをはたしている。	4	3	2	1

- II 授業や学級で、これからがんばりたいと思うことを書いてください。

- II 授業や学級で、自分がよくなったと思うことを書いてください。

第1回(9月)アンケートでの質問

第2回(10月)アンケートでの質問

- III あなたの学年・組・番号(整理番号)を書いてください。

年
 組
 番

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

授業の在り方に関するアンケート〈中学校版〉

県立総合教育センターでは、落ち着いた雰囲気のもとで、意欲的に学習に取り組めるような授業の在り方についての研究に取り組んでいます。そこで、研究を進めるに当たり、みなさんの日ごろの授業の状況についてアンケート調査を行いたいと思いますので、下記の質問事項に回答してください。

あなたが回答した内容が、学校の成績や評価に関係することは一切ありません。また、研究の目的以外に使用されることもありません。安心して、正直に回答してください。

- I それぞれの質問について、最もあてはまると思う数字を、1つだけ○で囲んでください。
 (4…そう思う 3…まあまあそう思う 2…あまりそう思わない 1…そう思わない)

〈授業や学級での自分自身の状況について〉

児童生徒の基本的な学習態度の在り方に関する質問

質 問 事 項	そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
	4	3	2	1
1 授業の開始時刻を守って行動している。	4	3	2	1
2 教科書・筆記用具・教材などの準備や机の上の整理ができています。	4	3	2	1
3 授業中の服装、身だしなみ、言葉づかいなどが適切にできています。	4	3	2	1
4 先生や他の生徒への質問や、自ら発表することなどができています。	4	3	2	1
5 基本的な学習態度（座り方、挙手の仕方など）が身に付いている。	4	3	2	1
6 実習、実技、作業などの際には、自ら行動できている。	4	3	2	1
7 提出物などは期限を守って提出している。	4	3	2	1
8 宿題や家庭学習に取り組んでいる。	4	3	2	1
9 教室内の美化や整理整頓に取り組んでいる。	4	3	2	1
10 授業や学習のルールを守る態度や姿勢が身に付いている。	4	3	2	1

〈授業や学級での状況について〉

教員による意欲を引き出す工夫・取組に関する質問

質 問 事 項	そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
	4	3	2	1
11 スタンプ、ポイント、シールなどでやる気が引き出されている。	4	3	2	1
12 自分の学力や習熟度に応じた個別指導を受けている。	4	3	2	1
13 本時のねらいや目標などが明確でわかりやすい。	4	3	2	1
14 身近な話題や視聴覚教材などが用いられて授業がわかりやすい。	4	3	2	1
15 説明、発問、話し方などがわかりやすい。	4	3	2	1
16 話合いや協働・グループ作業などが取り入れられた授業である。	4	3	2	1
17 授業や学級活動での自分自身の目標がもてる。	4	3	2	1
18 自己評価や相互評価などが取り入れられた授業である。	4	3	2	1
19 先生とコミュニケーションやかかわりをもっている。	4	3	2	1
20 自分の役割や責任を果たしている。	4	3	2	1

- II 授業や学級に対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいことなどを記入してください。

第1回(9月)アンケートでの質問

- II 授業や学級に対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったことなどを記入してください。(II-(2)良くなった理由や頑張れた理由はなんだと思いますか。記入してください。)

第2回(10月)アンケートでの質問

- III あなたの所属学年・組・出席番号(整理番号)を記入してください。

年
 組
 番

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

授業の在り方に関するアンケート<高等学校版>

県立総合教育センターでは、落ち着いた雰囲気のもとで、意欲的に学習に取り組めるような授業の在り方についての研究に取り組んでいます。そこで、研究を進めるに当たり、みなさんの日ごろの授業の状況についてアンケート調査を行いたいと思いますので、下記の質問事項に回答してください。

あなたが回答した内容が、学校の成績や評価に関係することは一切ありません。また、研究の目的以外に使用されることもありません。安心して、正直に回答してください。

I それぞれの質問について、最もあてはまると思う数字を、1つだけ○で囲んでください。

(4…そう思う 3…まあまあそう思う 2…あまりそう思わない 1…そう思わない)

<授業やホームルームでの自分自身の状況について>

児童生徒の基本的な学習態度の在り方に関する質問

質 問 事 項	そう思う 4	まあまあ そう思う 3	あまりそう 思わない 2	そう思わない 1
1 授業の開始時刻を守って行動している。	4	3	2	1
2 教科書・筆記用具・教材などの準備や机の上の整理ができています。	4	3	2	1
3 授業中の服装、身だしなみ、言葉づかいなどが適切にできています。	4	3	2	1
4 私語や無駄話などをしないで授業に取り組んでいる。	4	3	2	1
5 基本的な学習態度（座り方、挙手の仕方など）が身に付いている。	4	3	2	1
6 実習、実技、作業などの際には、自ら行動できている。	4	3	2	1
7 提出物などは期限を守って提出している。	4	3	2	1
8 宿題や家庭学習に取り組んでいる。	4	3	2	1
9 教室内の美化や整理整頓に取り組んでいる。	4	3	2	1
10 授業や学習のルールを守る態度や姿勢が身に付いている。	4	3	2	1

<授業やホームルームでの状況について>

教員による意欲を引き出す工夫・取組に関する質問

質 問 事 項	そう思う 4	まあまあ そう思う 3	あまりそう 思わない 2	そう思わない 1
11 自分のよいところや頑張ったことなどがほめられる。	4	3	2	1
12 スタンプ、ポイント、シールなどでやる気が引き出されている。	4	3	2	1
13 自分の学力や習熟度に応じた個別指導を受けている。	4	3	2	1
14 身近な話題や視聴覚教材などが用いられて授業がわかりやすい。	4	3	2	1
15 話合いや協働・グループ作業などが取り入れられた授業である。	4	3	2	1
16 授業やホームルームを通して、進路意識や目標などがもてる。	4	3	2	1
17 自己評価や相互評価などが取り入れられた授業である。	4	3	2	1
18 先生とコミュニケーションやかかわりをもっている。	4	3	2	1
19 先生に自分の意見や考えをよく聞いてもらっている。	4	3	2	1
20 自分の役割や責任を果たしている。	4	3	2	1

II 授業やホームルームに対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいことなどを記入してください。

第1回(9月)アンケートでの質問

II 授業やホームルームに対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったことなどを記入してください。(II-(2)良くなった理由や頑張れた理由はなんだと思いますか。記入してください。)

第2回(10月)アンケートでの質問

III あなたの所属学年・組・出席番号(整理番号)を記入してください。

年
 組
 番

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

(2) 児童生徒対象アンケートの実施

ア 調査の対象

埼玉県公立小学校児童	548名	埼玉県公立中学校生徒	731名
埼玉県立高等学校生徒	588名	計	<u>1,867名</u>

イ 調査の時期

- 第1回アンケート 平成24年 9月初旬
- 第2回アンケート 平成24年 10月下旬

ウ 調査の方法

「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」に記載されている具体的な指導法や取組について、教員（研究協力委員及び研究協力校教員）が一定期間重点的に取り組み、自校の課題を踏まえてそれぞれ必要だと思われる項目について、その取組の前後における児童生徒の心的状況を、アンケートにより調査した。

なお、第1回アンケートと第2回アンケートは、同一の児童生徒を対象に実施した。また、小学校については、発達段階を踏まえ、4年生以上の児童を対象にアンケート調査を実施した。

(3) 児童生徒対象アンケートの検証方法

第1回アンケートでの回答状況と、第2回アンケートでの回答状況との間にどのような変容が見られるか検証した。

4件法による質問項目に対する回答については、「4…そう思う」を4点、「3…まあまあそう思う」を3点、「2…あまりそう思わない」を2点、「1…そう思わない」を1点として集計し、第1回アンケートの回答平均値と第2回アンケートの回答平均値との間に有意差があるかどうかを、t検定により測定した（t検定とは、独立した、または対の2つの正規母集団の平均値間に差があるかどうかを検定する方法）。また、第1回アンケートの回答分布状況と、第2回アンケートの回答分布状況との間に有意差があるかどうかを、 χ^2 二乗検定により測定した（ χ^2 二乗検定とは、理論上の期待度数と観測度数との間に差があるかどうかを検定する方法）。

自由記述による質問項目に対する回答については、児童生徒の記述内容から、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の記載内容に関する教員の取組が有効かどうかを考察した。

さらに、検証内容を補完するために、児童生徒対象のアンケートの回答結果と各教員が自校の課題を踏まえて重点的に取り組んだ内容との間に関連があるかどうかを研究協力校の所属する教員を対象とした聞き取り調査等の追跡調査も実施した。



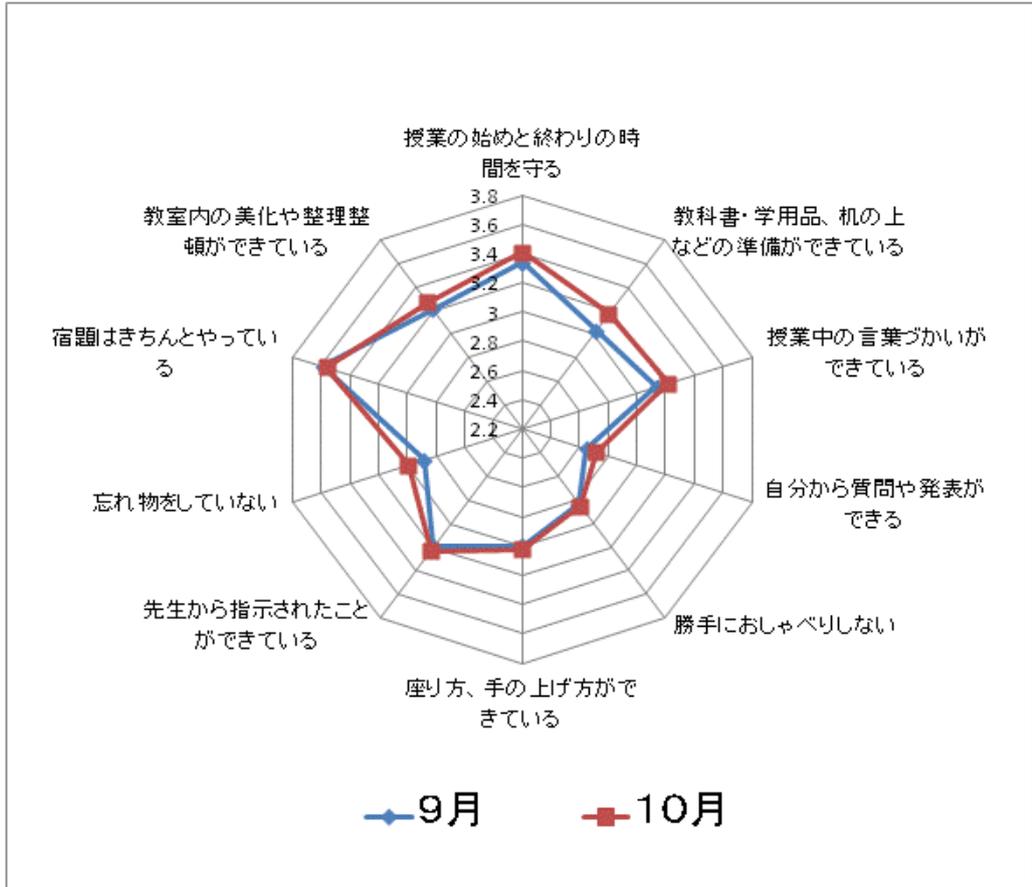
(4) 児童生徒対象アンケートの結果及び考察

ア 小学校（調査対象児童数 548 / 調査対象学級数 16）

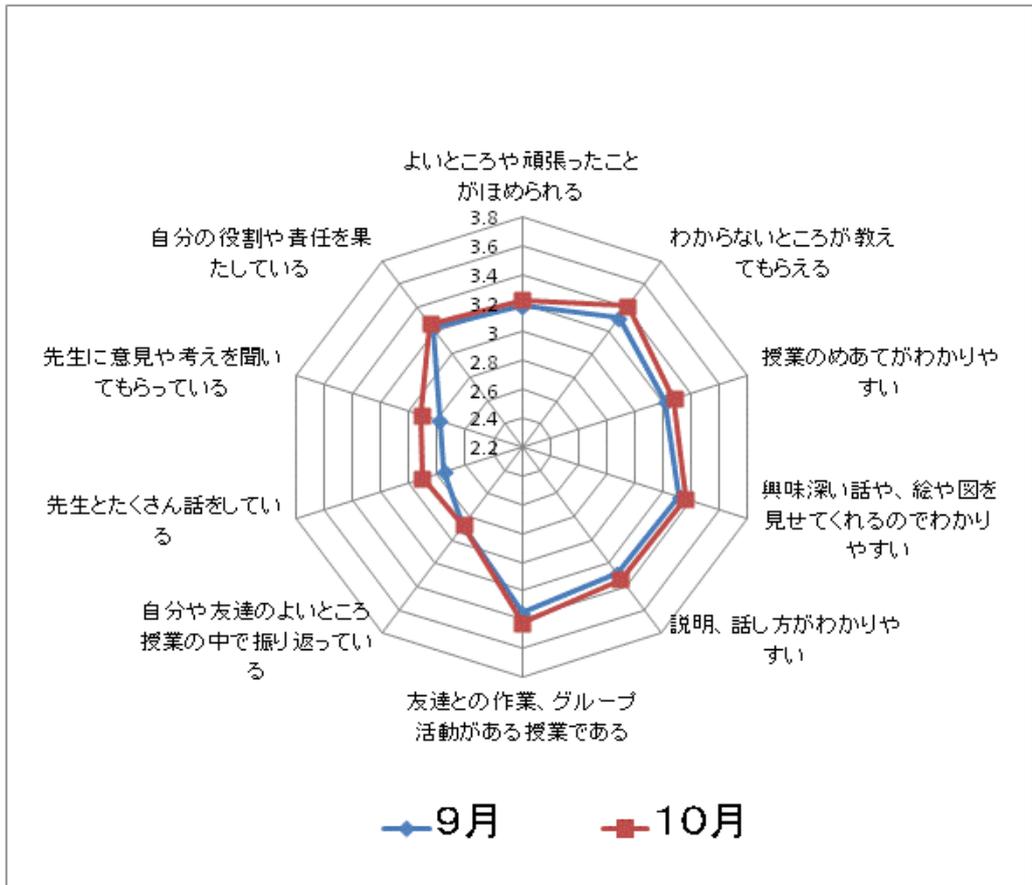
カテゴリー	No.	質問内容	回答 時期	回答者数				回答 平均値 (4点満点)
				そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	
児童生徒の基本的な学習態度の在り方	1	授業の始めと終わりの時間を守って行動している	9月	230	267	33	8	3.34
			10月	261	240	27	8	3.41
	2	教科書や学用品などのじゅんぴやつくえの上の整理ができています	9月	168	233	115	18	3.03
			10月	202	238	80	15	3.17
	3	授業中の言葉づかいはきちんとできている	9月	190	250	76	21	3.13
			10月	229	208	77	19	3.21
	4	自分から質問や発表をすることができる	9月	118	182	168	70	2.65
			10月	127	186	164	58	2.71
	5	勝手におしゃべりなどをしていない	9月	133	222	139	41	2.84
			10月	123	241	129	37	2.85
6	すわり方や手の上げ方などがきちんとできている	9月	158	244	110	24	3.00	
		10月	161	244	109	20	3.02	
7	授業中に先生から指示されたことがきちんとできている	9月	204	248	63	18	3.20	
		10月	223	224	75	12	3.23	
8	わすれものをしていない	9月	145	226	118	44	2.89	
		10月	176	224	89	45	2.99	
9	宿題はきちんとやっている	9月	371	123	32	11	3.59	
		10月	361	119	40	11	3.56	
10	教室をよごさないようにしたり、整理せいでんしたりしている	9月	229	214	76	19	3.21	
		10月	236	219	65	14	3.27	
教員による意欲を引き出す工夫・取組	11	よいところやがんばったことなどがほめられる	9月	207	239	71	20	3.18
			10月	226	221	69	19	3.22
	12	分からないところなどが教えてもらえる	9月	260	199	58	19	3.31
			10月	289	189	42	14	3.41
	13	授業のめあてがわかりやすい	9月	214	232	72	13	3.22
			10月	233	227	58	13	3.28
	14	きょうみ深い話をしてくれたり、絵や図を見せてくれたりするので、授業がわかりやすい	9月	260	207	54	18	3.32
			10月	273	195	51	15	3.36
	15	説明や話し方などがわかりやすい	9月	238	229	53	15	3.29
			10月	257	210	51	14	3.33
16	友だちといっしょに作業したり、グループで活動したりする授業である	9月	260	212	55	9	3.35	
		10月	289	189	45	9	3.42	
17	自分や友だちのよいところなどを、授業の中でふりかえっている	9月	111	269	133	23	2.87	
		10月	112	272	122	30	2.87	
18	先生とたくさん話している	9月	115	217	158	45	2.75	
		10月	155	204	135	35	2.91	
19	先生に自分の意見や考えなどをよく聞いてもらっている	9月	111	241	143	42	2.78	
		10月	158	211	122	41	2.91	
20	自分のやくわりやせきにんをはたしている	9月	217	242	60	19	3.22	
		10月	225	238	56	16	3.26	
全質問の合計			9月					61.81
			10月					63.09

※ 回答者数の合計は、調査対象児童数と異なる場合がある（無回答や欠損値等による）。

「児童生徒の基本的な学習態度の在り方（小学校）」
回答状況の変化のグラフ



「教員による意欲を引き出す工夫・取組（小学校）」
回答状況の変化のグラフ



＜自由記述欄：小学校第1回調査（平成24年9月）＞

授業や学級で、これからがんばりたいと思うことを書いてください。※（ ）内は所属学年

- 発表することが苦手だから、少しずつ発表するようにする。（4年生）
- 忘れ物をしない。先生の話をよく聞く。（4年生）
- 宿題をしっかりとやって、問題がわかるようにしたい。（4年生）
- あいさつをきちんとする。身の回りのゴミを拾う。（4年生）
- 係や掃除、給食当番を頑張りたい。（4年生）
- もっと先生話を聞いて、自信をもって手があげられるようになりたい。（5年生）
- 勝手にしゃべっていることがあるので、直していきたい。（5年生）
- 算数がとても苦手なのでできるようにしたい。（5年生）
- ノートをもう少しキレイに取りたい。先生とたくさん話をしたい。（5年生）
- 言葉づかいなどでいねいに話すことを頑張りたい。（5年生）
- 授業が始まる前には、次の授業の用意ができてるようにしたい。（6年生）
- もっと自分の役割や責任感などを考えて行動したい。（6年生）
- 授業でわからなくてもあきらめなくて、最後まで考えたい。（6年生）
- 学級でクラスみんなと話合う時、思いついても勇気が出なくて発表できないので、なるべく手を挙げてみる。（6年生）
- 最上級生らしく、低学年の見本となるように当たり前のことをしっかりとやる。（6年生）

＜自由記述欄：小学校第2回調査（平成24年10月）＞

授業や学級で、自分がよくなったと思うことを書いてください。※（ ）内は所属学年

- 整理整頓を頑張った。手を挙げる回数が増えた。（4年生）
- 筆算や計算が少し早くなった。（4年生）
- 自分が分からない時先生が教えてくれて、宿題が好きになった。（4年生）
- 授業中、となりの人とおしゃべりしなくなった。（4年生）
- 友だちとたくさんしゃべることができるようになった。（4年生）
- 大事だと思うところは、きちんと相手を見て聞ける。（5年生）
- ノートの取り方がきれいになった。社会に興味をもった。（5年生）
- 自主勉強をたくさんやった。嫌いな算数も好きになってきた。（5年生）
- 授業が始まる時間までには席についている。（5年生）
- 苦手な漢字テストで100点を取れるようになった。（5年生）
- 算数で分からない所は、家に帰って自分で復習するようになった。（6年生）
- ノートの書き方を工夫して、わかりやすくなった。（6年生）
- 係の仕事や委員会の仕事を自分から進んでやって、責任を果たしている。（6年生）
- 発表するときにみんなが聞こえるような声で話せるようになった。（6年生）
- 授業中おしゃべりをしていたが、先生に注意されて少し直せた。（6年生）

＜回答結果に関する考察＞

小学校では、4件法による質問のすべての項目の合計得点に関して、第1回（9月）アンケートの回答平均値よりも第2回（10月）アンケートの回答平均値の方が向上し、t検定の結果、有意差（有意水準 $p < 0.05$ 、以下同様）が見られた。

各質問項目の結果については、4件法による20の質問項目のうち、回答平均値が上がった項目数は18、下がった項目数は2であった。レーダーグラフ（P.56参照）が示すとおり、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関するカテゴリー及び「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関するカテゴリーともに、第2回アンケートの回答平均値が第1回アンケートの回答平均値よりも全体的に高くなっていることがわかる。回答平均値の変容度を測るためにt検定を用いた結果、平均値が上がった18項目のうち有意差が見られたのは下記の9項目であった。また、平均値が下がった2項目については、t検定の結果、有意差が見られなかった。

【回答平均値の向上に有意差が見られた項目（t検定による）】

- 質問 1 授業の始めと終わりの時間を守って行動している。
- 質問 2 教科書や学用品などのじゅんぴやつくえの上の整理ができています。
- 質問 3 授業中の言葉づかいはきちんとできています。
- 質問 8 わすれものをしていない。
- 質問 12 わからないところなどが教えてもらえる。
- 質問 13 授業のめあてがわかりやすい。
- 質問 16 友だちといっしょに作業したり、グループで活動したりする授業である。
- 質問 18 先生とたくさん話をしている。
- 質問 19 先生に自分の意見や考えなどをよく聞いてもらっている。

回答分布状況については、質問に対しての否定的な回答（2…あまりそう思わない、1…そう思わない）から、肯定的な回答（4…そう思う、3…まあまあそう思う）へと分布人数が変化している項目が多かった。回答分布状況の変容度について、 χ^2 二乗検定を用いて測定した結果、有意差が見られたのは下記の3項目であった。これらの3項目は、回答平均値の向上に関しても有意差が見られている項目であり、また、第1回アンケートと第2回アンケートとの平均値間の差が最も大きい項目でもある。

【回答分布状況の変容に有意差が見られた項目（ χ^2 二乗検定による）】

- 質問 2 教科書や学用品などのじゅんぴやつくえの上の整理ができています。
- 質問 18 先生とたくさん話をしている。
- 質問 19 先生に自分の意見や考えなどをよく聞いてもらっている。

上記の変容結果と教員が重点的に取り組んだ指導内容との間に関連があるかどうかを検証するため、アンケートを回答した児童の学級担任へ追跡調査を実施した。アンケートの質問項目に関して、指導の重点化を図ったと回答した学級担任の人数が最も多かった項目は、質問1、質問3、質問18で、それぞれ4人であった。これらの質問項目はすべて、回答平均値の向上に有意差が見られた項目である。次に、重点化を図った項目として回答数が多かったのは、質問5、質問16で、それぞれ3人であった。このよう

に、教員が重点的に取り組んだ指導内容の多くが、児童の変容に有意差が見られた項目と合致している。一方、質問2の内容である「教科書や学用品などの準備、机上整理」や、質問19の内容である「児童の意見や考えの傾聴」などの観点は、追跡調査の結果、特に重点化が図られたわけではなかったという結果であった。しかし、質問2に関しては、質問1の内容である「授業時間の厳守」を強化することで、質問19に関しては、質問18の内容である「児童とのコミュニケーションの充実」を強化することで、児童の意識が変化し、その結果が有意差となって表れたのではないかと考えられる。

また、追跡調査では、多くの学級担任が「児童への個別指導や声かけの充実」に重点的に取り組んだと回答した。集団指導と個別指導の両面のバランスの重要性は「生徒指導提要」にも言及されており（第1章第4節「集団指導・個別指導の方法原理」を参照）、このような取組も児童の回答平均値の向上に寄与しているものと思われる。

自由記述欄については、第1回アンケートでの質問「授業や学級で、これからがんばりたいと思うことを書いてください」に対して、児童548人中499人が、今後頑張りたいことについて具体的に回答していた。回答の中で多かった観点は、「自ら発表する、意見を言う」、「挙手をする」、「友達と仲良くする、協力する」、「おしゃべりをしない、静かにする」などであり、また、「国語をがんばりたい」などのように、具体的な教科名を記載する回答も多かった。これは、第1回アンケート実施時が、9月初旬であることから、2学期開始時の「めあて設定」の内容が影響しているものと思われる。

第2回アンケートでの質問「授業や学級で、自分がよくなったと思うことを書いてください」に対しては、473人が自己の頑張った点やよくなった点などを具体的に回答していた。回答の中で多かった内容は、「挙手をする」、「算数、計算」、「自ら発表する、意見を言う」、「座り方、挙手の仕方、姿勢」などであった。一方、頑張った点やよくなった点などについて「特になし、変わらない」という回答も少数あった。

上記から、第1回アンケート実施時と第2回アンケート実施時では、児童の心的状況や教員の取組に対する評価などに変化があったのではないかと考えられる。児童に変容が生じた原因として、①学校全体の取組として授業規律の確立に取り組んだ、②第1回アンケート結果から学級担任が自己の課題に気付いた、など様々な要素が考えられるが、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」に記載されている観点を踏まえて、教員が意識的に取り組んだことも要因であると考えられる。

児童生徒対象アンケート〈小学校〉 ～回答結果に関する考察・まとめ～

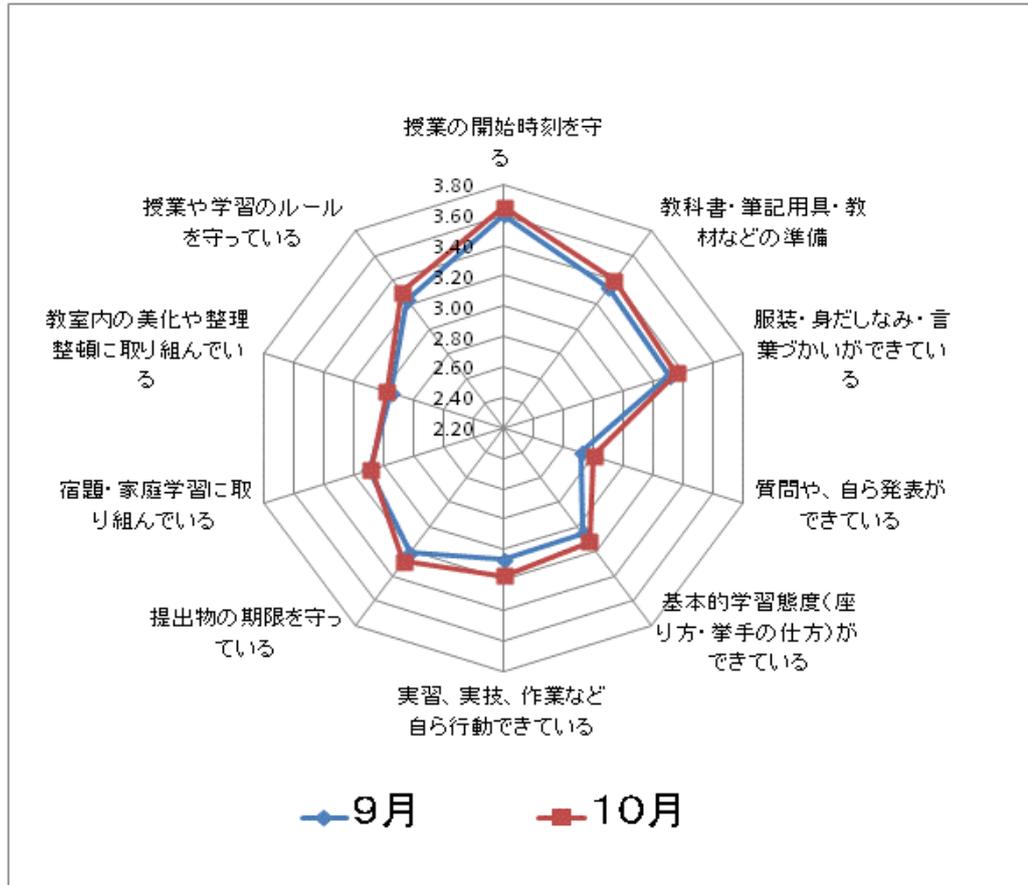
- 4件法による質問項目の多くで、第1回アンケートの回答平均値よりも、第2回アンケートの回答平均値の方が高く、平均値の向上に有意差が見られた項目も多数あった。したがって、児童の心的状況や教員の取組に対する評価などには大きな変化があったと言える。
- 平均値の向上に有意差が見られた項目の多くは、教員による指導の重点化が図られた項目と合致する。したがって、児童に変容した要因として、教員が意識的に自己の指導について強化や改善を図ったことが大きいと考えられる。
- 多くの学級担任が、「児童への個別指導や声かけ」に重点的に取り組んだことも、児童の変容（回答値の向上など）に大きく影響したものである。

イ 中学校（対象生徒数 731 / 調査対象学級数 22）

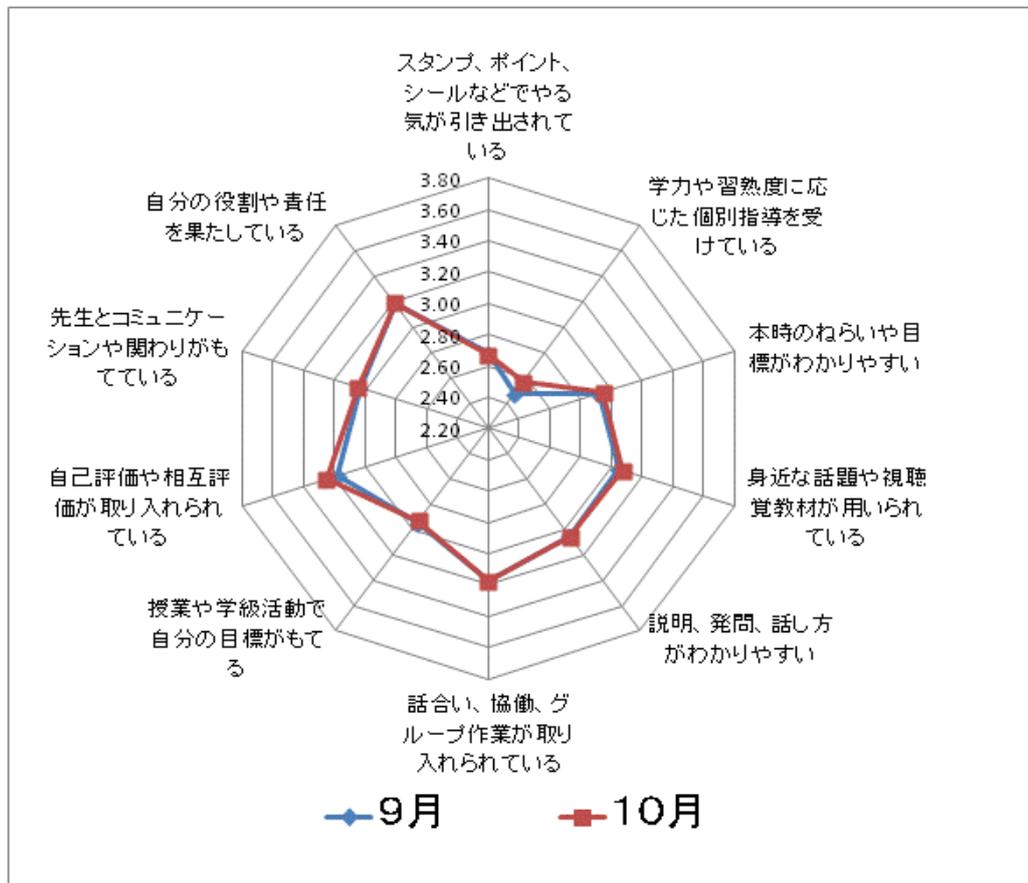
カテゴリ	No.	質問内容	回答 時期	回答者数				回答 平均値 (4点満点)
				そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	
児童生徒の基本的な学習態度の在り方	1	授業の開始時刻を守って行動している	9月	442	249	15	2	3.60
			10月	466	225	10	0	3.65
	2	教科書・筆記用具・教材などの準備や机の上の整理ができています	9月	328	296	72	11	3.33
			10月	363	261	70	8	3.39
	3	授業中の服装、身だしなみ、言葉づかいなどが適切にできています	9月	296	336	68	6	3.31
			10月	311	333	53	4	3.36
	4	先生や他の生徒への質問や、自ら発表することなどができています	9月	140	277	236	50	2.72
			10月	171	263	228	41	2.80
	5	基本的な学習態度(座り方、挙手の仕方など)が身に付いている	9月	202	365	116	23	3.06
			10月	216	370	102	12	3.13
6	実習、実技、作業などの際には、自ら行動できています	9月	183	402	109	13	3.07	
		10月	225	378	94	5	3.17	
7	提出物などは期限を守って提出している	9月	315	259	94	35	3.21	
		10月	347	238	79	35	3.28	
8	宿題や家庭学習に取り組んでいる	9月	268	272	133	32	3.10	
		10月	269	259	134	37	3.09	
9	教室内の美化や整理整頓に取り組んでいる	9月	173	348	160	24	2.95	
		10月	182	346	152	22	2.98	
10	授業や学習のルールを守る態度や姿勢が身に付いている	9月	244	398	56	9	3.24	
		10月	278	362	58	5	3.30	
教員による意欲を引き出す工夫・取組	11	スタンプ、ポイント、シールなどでやる気が引き出されている	9月	149	272	197	90	2.68
			10月	161	252	186	104	2.67
	12	自分の学力や習熟度に応じた個別指導を受けている	9月	70	294	243	99	2.47
			10月	98	281	239	82	2.56
	13	本時のねらいや目標などが明確でわかりやすい	9月	131	408	141	24	2.92
			10月	158	369	152	22	2.95
	14	身近な話題や視聴覚教材などが用いられて授業がわかりやすい	9月	189	387	103	27	3.05
			10月	190	392	98	21	3.07
	15	説明、発問、話し方などがわかりやすい	9月	166	426	101	14	3.05
			10月	172	409	106	13	3.06
16	話し合いや協働・グループ作業などが取り入れられた授業である	9月	247	345	101	10	3.18	
		10月	252	338	96	16	3.18	
17	授業や学級活動での自分自身の目標がもてる	9月	159	373	148	24	2.95	
		10月	160	358	157	26	2.93	
18	自己評価や相互評価などが取り入れられた授業である	9月	240	360	99	8	3.18	
		10月	258	368	67	7	3.25	
19	先生とコミュニケーションやかかわりをもっている	9月	201	352	132	22	3.04	
		10月	199	355	126	20	3.05	
20	自分の役割や責任を果たしている	9月	242	364	93	8	3.19	
		10月	225	398	65	14	3.19	
全質問の合計			9月					61.00
			10月					61.80

※ 回答者数の合計は、調査対象生徒数と異なる場合がある（無回答や欠損値等による）。

「児童生徒の基本的な学習態度の在り方（中学校）」
回答状況の変化のグラフ



「教員による意欲を引き出す工夫・取組（中学校）」
回答状況の変化のグラフ



＜自由記述欄：中学校第1回調査（平成24年9月）＞

授業や学級に対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいことなどを記入してください。 ※（ ）内は所属学年

- もう少し家庭学習の時間を増やし、成績を上げる。（1年生）
- 手を挙げる人が限られているので、みんなで授業をつくれるよう、少しずつ声かけをしたい。（1年生）
- クラスや自分で決めた目標やきまりを守れるようしっかり頑張りたい。（1年生）
- 集中して、先生の言葉を聞き漏らさないようにする。（1年生）
- もっと教室の中をきれいにすることに協力したい。（1年生）
- 毎日コツコツ学習する習慣を身に付けられるよう頑張りたい。（2年生）
- 前の日に遅い時間まで起きていて授業中に寝てしまうことがあるので、これからは気を付けたい。（2年生）
- 英語と数学が苦手なので、分からないところはしっかり先生に質問したい。（2年生）
- 姿勢をよくする。猫背だがまっすぐイスに座れるようにしたい。（2年生）
- もっとクラスと和んで充実した日々をしたい。みんなを支えられたらいい。（2年生）
- 提出物を期限までに提出することがあまりできていないので、出せるようにしたい。（3年生）
- 授業前には予習などして、無駄な授業を過ごさないようにしたい。（3年生）
- 休まず学校に行き、先生の話聞いて理解できるように毎日勉強する。（3年生）
- 夏休みが終わりダラダラしている部分があると思うので、気持ちをあらためて勉強したい。（3年生）
- 第一志望校に合格できるよう家庭学習をしっかり頑張りたい。（3年生）

＜自由記述欄：中学校第2回調査（平成24年10月）＞

授業や学級に対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったことなどを記入してください。[派生質問：良くなった理由や頑張れた理由はなんだと思いますか] ※（ ）内は所属学年

- 先生が言ったことをメモできるようになった。
[理由：テストなどに向けて大切なことを言ってくれるからやる気になる。]（1年生）
- 1学期よりも授業中の発言が増えた。
[理由：授業中発言する場面がたくさん設けられていた。クラスみんなが積極的になった気がする。]（1年生）
- 授業の開始時刻を前よりもよく守れている。
[理由：チャイム着席の重点的な活動期間があってから、それが終わった後でも習慣付いてできてきた。]（1年生）
- 自分の役割ややらなくてはいけないことがわかり、自ら行動するようになった。
[理由：頑張っている友だちや、しっかりやっている人を見たりしたから。]（1年生）
- このごろ英語の授業で手を挙げられるようになった。
[理由：ステッカーがもらえるからだと思う。]（1年生）
- 授業のノートのまとめを頑張った。
[理由：先生の「とてもキレイにまとめてあります」などのコメントが書いてあり、そのコメントをもらえるようにするため。]（2年生）
- 前よりわずかに忘れ物が減った。集中して勉強に取り組めた。
[理由：少しでも自分で「変えないと駄目だ」と思ったから。]（2年生）

- 授業が楽しくなってきたし、分かりやすい。姿勢を正して受けられる。
 [理由：先生の授業が面白い。写真や絵でわかりやすい。]（２年生）
- クラスがいい雰囲気なので挙手しやすい。
 [理由：学校行事を通してクラスがいい雰囲気になったから。]（２年生）
- 家でも勉強しようと思うようになった。
 [理由：周りの友だちの成績がどんどん上がっているのを見たから。]（２年生）
- 提出物にしっかりと取り組み、どの教科も期限を守って提出することができた。
 [理由：ちゃんとやれば、その分評価されるから。]（３年生）
- 勉強に集中できるようになった。
 [理由：クラスの全員が集中して静かに授業を受けているから。]（３年生）
- 勉強の習慣が付いた。
 [理由：受験生という意識が高まり、第一志望に絶対合格するという気持ちが強くなったからだと思う。]（３年生）
- 自分から発表するようになった。
 [理由：ほめられたとき嬉しかったから。]（３年生）
- 授業への取組や勉強に対して本気になれた。毎日勉強ができるようになった。
 [理由：行きたい高校に行けるようにしたいという理由と、家族や先生たちの頑張っしてほしいという思いが伝わったため。]（３年生）

<中学校第２回調査（平成２４年 １０月）自由記述欄 回答に関する観点のまとめ一覧>

良くなった理由・ 頑張れた理由 良くなったこと・ 頑張ったこと	自己の内的な要因		成績・受験等の要因		教員の指導・関わり方による要因			学級、友人等による要因			理由なし、その他	合計
	など 自覚の高まり、自己の努力	分らないと困る、このままではいけないという危機感	テストの得点や成績を上げたいなど	受験があるから、高校に行きたいという気持ちなど	勢など 教員の説諭、毅然とした姿勢など	設定など 教員の配慮、気遣い、場面	説明がわかりやすい、授業が楽しいなど	学級内の環境など	友人の関わり、影響など	塾・親・家族の関わりや声かけなど		
授業準備、時間を守ること、提出物、環境美化 など	15	1	5	8	5	5		1	6		6	52
ノート・メモの取り方 など	7		8	1	2	6	3		1		6	34
積極性、集中力、学習態度 など	51	13	10	32	9	8	27	20	16	5	21	212
自ら挙手、発言、質問 など	34	6	17	6	3	29	27	23	19		18	182
宿題、予習・復習、家庭学習、自学の姿勢 など	9		19	11	3	2	2	1	1	2	6	56
学力・成績の向上、進路意識の高揚 など	9	1	7	1		1	11	2	3	3	2	40
友人との協力、コミュニケーション、学級活動、 など	21	2	1	3	2	4	2	28	8		8	79
特になし、変わらない など											33	33
合計	146	23	67	62	24	55	72	75	54	10	100	688

※ 1人の生徒が複数の観点を回答している場合もある

＜回答結果に関する考察＞

中学校でも、小学校と同様、4件法による質問のすべての項目の合計得点に関して、第1回（9月）アンケートの回答平均値よりも第2回（10月）アンケートの回答平均値の方が向上し、t検定の結果、有意差（有意水準 $p < 0.05$ 、以下同様）が見られた。

各質問項目の結果については、4件法による20の質問項目のうち、回答平均値が上がった項目数は15、下がった項目数は5であった。特徴的なことは、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する質問で、回答平均値が向上した項目が多いことである。レーダーグラフ（P. 61参照）からも、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関するカテゴリでは第2回アンケートの回答平均値が第1回アンケートの回答平均値よりも全体的に高いのに対し、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関するカテゴリではグラフにあまり変化がないことがわかる。t検定を用いて回答平均値の変容度を測定した結果、平均値が上がった15項目のうち有意差が見られたのは下記の10項目であったが、その多くは、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する質問項目であった。平均値が下がった5項目については、t検定の結果、有意差が見られなかった。

【回答平均値の向上に有意差が見られた項目（t検定による）】

- 質問 1 授業の開始時刻を守って行動している。
- 質問 2 教科書・筆記用具・教材などの準備や机の上の整理ができています。
- 質問 3 授業中の服装、身だしなみ、言葉づかいなどが適切にできています。
- 質問 4 先生や他の生徒への質問や、自ら発表することなどができています。
- 質問 5 基本的な学習態度（座り方、挙手の仕方など）が身に付いている。
- 質問 6 実習、実技、作業などの際には、自ら行動できています。
- 質問 7 提出物などは期限を守って提出している。
- 質問 10 授業や学習のルールを守る態度や姿勢が身に付いている。
- 質問 12 自分の学力や習熟度に応じた個別指導を受けている。
- 質問 18 自己評価や相互評価などが取り入れられた授業である。

回答分布状況については、変化が大きい項目もあれば、あまり変化が見られない項目もあった。回答分布状況の変容度について、 χ^2 二乗検定を用いて測定した結果、有意差が見られたのは下記の2項目であった。質問6については、第1回アンケートと比べて第2回アンケートの方が「4…そう思う」と回答した人数が増加し、「2…あまりそう思わない」、「1…そう思わない」と回答した人数が大きく減少している。一方、質問20については、回答平均値の向上に有意差は見られなかったものの、「3…まあまあそう思う」、「1…そう思わない」と回答した人数が大きく増加し、「4…そう思う」と回答した人数が減少した結果、回答分布の変容状況に関して有意差が生じたものと思われる。

【回答分布状況の変容に有意差が見られた項目（ χ^2 二乗検定による）】

- 質問 6 実習、実技、作業などの際には、自ら行動できています。
- 質問 20 自分の役割や責任を果たしている。

上記の変容結果と教員が重点的に取り組んだ指導内容との間に関連があるかどうかを検証するため、アンケートを回答した生徒の学級担任へ追跡調査を実施した。アンケート

トの質問項目に関して、指導の重点化を図ったと回答した学級担任の人数が多かった項目は、質問1、質問3、質問4、質問5、質問7、質問9、質問10、質問14、質問18、質問19で、それぞれ10人以上の学級担任が指導に力を入れたと回答した。これらの10項目のうち、7つの項目では回答平均値の向上に有意差が認められている。このように、中学校のアンケート結果でも、小学校と同様、教員が重点的に取り組んだ指導内容の多くが、生徒の変容に有意差が見られた項目と合致している。

回答平均値や回答分布状況の変容度とともに、中学校のアンケート結果で注目すべき点は、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する10の質問項目のうち、第1回アンケート、第2回アンケートともに、8つの項目で回答平均値が3点以上であるのに対し、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する質問項目では、回答平均値が3点以上の項目数が、10項目中6項目にとどまっていることである。レーダーグラフからも、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関するカテゴリーと比べ、「教員による意欲を引き出す工夫」に関するカテゴリーの方が、レーダーの広がり小さい（平均値が低い）ことが見てとれる。研究Ⅰの報告でも、教員対象アンケート結果から、児童生徒の意欲を引き出す工夫に関する指導に関する課題について言及したが、児童生徒対象アンケートからも、同様の課題が浮き彫りになったのではないかと考える。上述の学級担任への追跡調査からも、指導の重点化を図った内容については、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する項目が多い。

一方、追跡調査の結果では、多くの学級担任が「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する指導にも力を入れていたと回答していた。特に、質問13、質問14、質問17、質問18、質問19、質問20については、それぞれ8人以上の学級担任が指導の重点化を図ったと回答していたが、生徒の回答平均値の向上に有意差が認められた項目は上述のとおり1項目（質問18）のみであった。このことから、児童生徒の意欲を引き出す工夫については、教員の努力が生徒の変容に結び付きにくい場合もあるのではないかと考えられる。しかし、だからこそ、これからの授業改善のためには、たとえ児童生徒の変容がなかなか表れなくても、児童生徒が意欲的に学習に取り組めるよう創意工夫ある学習指導に、これまで以上に根気強く取り組む必要があると思われる。

自由記述欄について、第1回アンケートでの質問「授業や学級に対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいことなどを記入してください」に対し、731人中641人の生徒が、今後頑張りたいことについて具体的に回答していた。回答の中で多かった観点は、「挙手をする」、「自ら発表する、意見を言う」、「予習復習、家庭学習」などであった。また、小学校では具体的な教科名や行動を記述する回答がほとんどであったのに対し、中学校では、「授業への集中」、「積極的、意欲的になる」などのように、自己の内面的なことについて記載する回答も多かった。これは、発達段階による心的成熟の度合いの差によるものと思われる。

第2回アンケートでの質問「授業や学級に対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったことなどを記入してください」に対し、588人の生徒が自己の良くなったことや頑張ったことなどを具体的に回答していた。また、派生質問として、「良くなった理由や頑張れた理由はなんだと思いますか」に対し、588人中548人の生徒が、具体的な理由を回答していた。P.63の表は、「良くなったことや頑張ったこ

と」の観点と、「良くなった理由、頑張れた理由」の観点をまとめた一覧である（1人の生徒が複数の観点を回答している場合があるため、表中の合計数は回答者の合計数と必ずしも一致しない）。

良くなったことや頑張ったことの観点として、回答の中で多かった内容は、「積極性、集中力、学習態度など」、「自ら挙手、発言、質問など」であった。この観点は、第1回アンケートで「頑張りたいこと」として回答が多かった内容と重なっており、多くの生徒が、第1回アンケートの時期に設定した自己の目標に向けて努力した結果ではないかと思われる。また、学級内での「友人との協力、コミュニケーション、学級活動など」の観点を回答した生徒も多かったが、これは、アンケート実施時期に体育祭や合唱コンクールなどの学校行事が行われたことにより、学級内の人間関係が深まったり、達成感や自己存在感を味わったりしたことなどが理由として考えられる。

良くなった理由や頑張れた理由の観点として、回答の中で最も多かった内容は、「自覚の高まり、自己の努力など」であった。生徒自身のやる気や意欲を喚起することは、学習の動機付けとして重要であることが表れたものと考えられる。また、「テストの得点や成績を上げたい」、「受験に合格したい」などの観点を回答した生徒も多いことから、パフォーマンス目標をもたせることも、意欲を引き出す上で重要な観点であると思われる。一方、教員による指導・関わり方や学級内の雰囲気・環境などによって「良くなった、頑張れた」という回答も多数あった。このことは、教員の姿勢や工夫、さらには学級経営を充実させることなどが、生徒のより良い変容に結びつくものであると、生徒自身が認識していることの表れではないかと思われる。

上記から、中学校のアンケート結果でも、生徒の心的状況や教員の取組に対する評価などに変化があったと考える。その要因として、①生徒が自己の目標達成に向けて努力した、自覚を高めた、②学級行事などを通して学級集団が望ましい学習集団として成長した、などのことが考えられるが、その背景には、学級担任をはじめとする教員の関わりや指導の工夫などもあったのではないかと考えられる。

児童生徒対象アンケート＜中学校＞ ～回答結果に関する考察・まとめ～

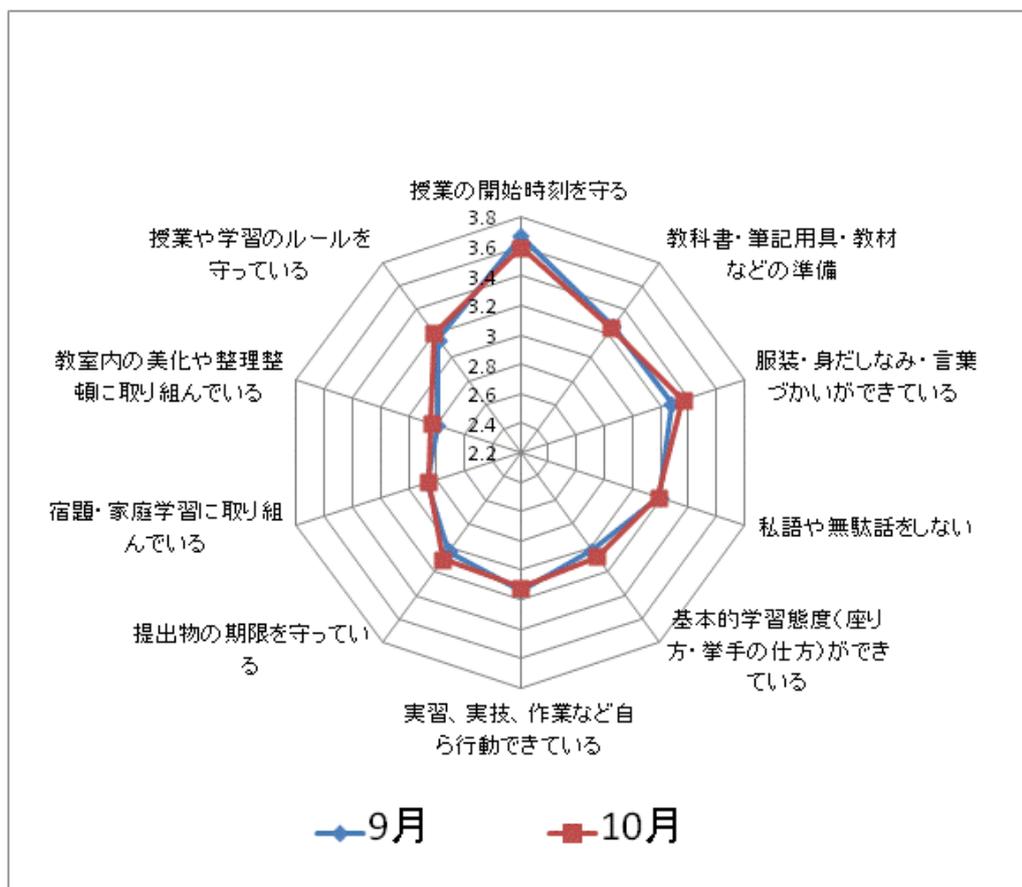
- 4件法による質問項目の多くで、第1回アンケートの回答平均値よりも、第2回アンケートの回答平均値の方が高く、平均値の向上に有意差が見られた項目も多数あった。したがって、小学校のアンケート結果と同様、生徒の心的状況や教員の取組に対する評価などには大きな変化があったと言える。
- 「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関して、全体的に回答平均値が高く、また、回答平均値の向上に有意差が見られた項目が多かった。一方、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関しては、教員の努力や工夫などの指導効果が表れにくい傾向があるのではないかと推測される。
- 自由記述による回答結果から、生徒の意欲を引き出すためには、生徒自身の自覚を高めるとともに、望ましい学級集団を育成することが重要であることがあらためて明らかになったと考える。教員による学習規律の確立や、生徒の意欲を引き出す創意工夫ある指導の必要性が、より一層増していると言える。

ウ 高等学校（対象生徒数 588 / 調査対象ホームルーム数 15）

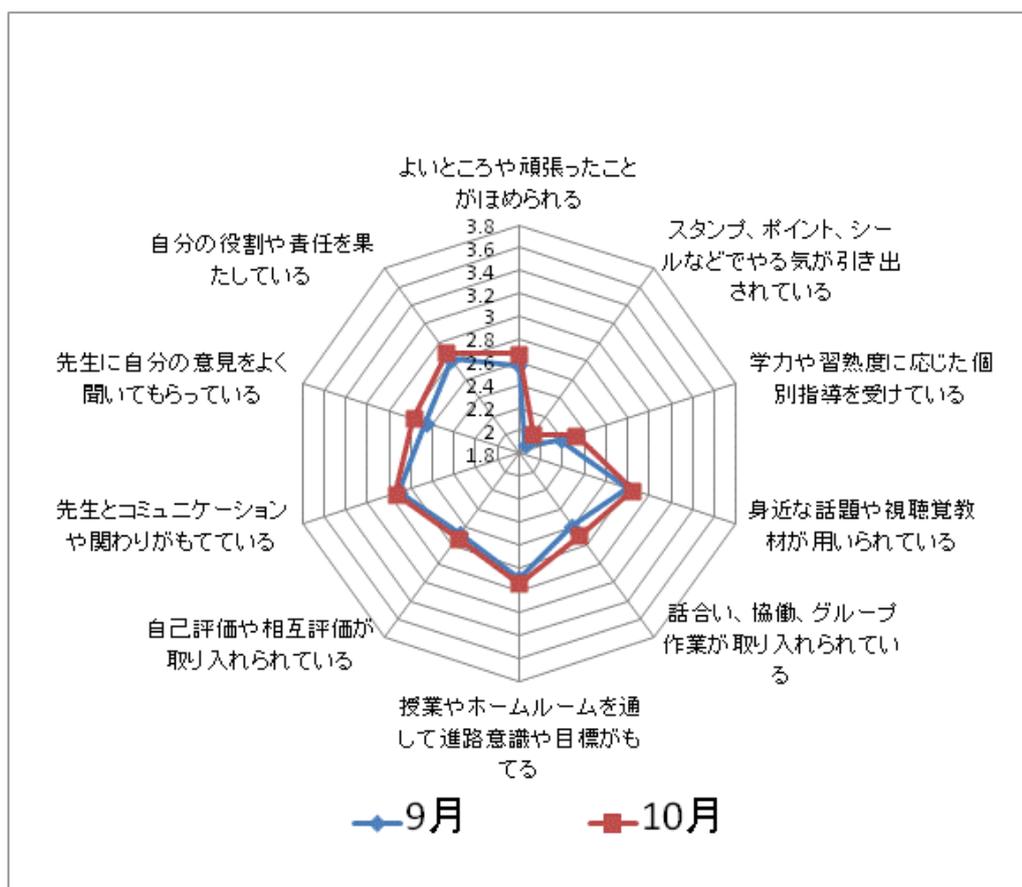
カテゴリ	No.	質問内容	回答 時期	回答者数				回答 平均値 (4点満点)
				そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	
児童生徒の基本的な学習態度の在り方	1	授業の開始時刻を守って行動している	9月	400	147	13	4	3.67
			10月	373	171	26	3	3.60
	2	教科書・筆記用具・教材などの準備や机の上の整理ができています	9月	255	220	73	17	3.26
			10月	252	231	72	19	3.25
	3	授業中の服装、身だしなみ、言葉づかいなどが適切にできています	9月	234	266	54	11	3.28
			10月	265	258	42	8	3.36
	4	私語や無駄話などをしないで授業に取り組んでいる	9月	211	264	78	12	3.19
			10月	219	256	84	15	3.18
	5	基本的な学習態度(座り方、挙手の仕方など)が身に付いている	9月	159	274	118	14	3.02
			10月	170	293	92	17	3.08
6	実習、実技、作業などの際には、自ら行動できています	9月	188	272	98	7	3.13	
		10月	184	283	94	12	3.12	
7	提出物などは期限を守って提出している	9月	211	204	104	46	3.03	
		10月	238	195	95	44	3.10	
8	宿題や家庭学習に取り組んでいる	9月	155	224	136	48	2.86	
		10月	177	192	147	56	2.86	
9	教室内の美化や整理整頓に取り組んでいる	9月	112	260	156	36	2.79	
		10月	127	261	153	33	2.84	
10	授業や学習のルールを守る態度や姿勢が身に付いている	9月	167	322	66	8	3.15	
		10月	198	301	62	11	3.20	
教員による意欲を引き出す工夫・取組	11	自分のよいところや頑張ったことなどがほめられる	9月	71	243	185	65	2.57
			10月	86	261	178	48	2.67
	12	スタンプ、ポイント、シールなどでやる気が引き出されている	9月	34	90	219	219	1.89
			10月	58	118	164	232	2.00
	13	自分の学力や習熟度に応じた個別指導を受けている	9月	35	160	240	129	2.18
			10月	53	186	224	110	2.32
	14	身近な話題や視聴覚教材などが用いられて授業がわかりやすい	9月	95	299	132	38	2.80
			10月	108	298	134	33	2.84
	15	話合いや協働・グループ作業などが取り入れられた授業である	9月	61	258	199	47	2.59
			10月	88	262	183	40	2.69
16	授業やホームルームを通して、進路意識や目標などがもてる	9月	137	261	135	32	2.89	
		10月	145	282	116	31	2.94	
17	自己評価や相互評価などが取り入れられた授業である	9月	76	271	175	42	2.68	
		10月	88	270	179	35	2.72	
18	先生とコミュニケーションやかかわりをもっている	9月	121	290	133	21	2.90	
		10月	130	301	123	20	2.94	
19	先生に自分の意見や考えをよく聞いてもらっている	9月	83	253	184	44	2.66	
		10月	112	259	164	39	2.77	
20	自分の役割や責任を果たしている	9月	89	306	143	25	2.82	
		10月	112	311	123	27	2.89	
全質問の合計			9月					57.30
			10月					58.26

※ 回答者数の合計は、調査対象生徒数と異なる場合がある（無回答や欠損値等による）。

「児童生徒の基本的な学習態度の在り方（高等学校）」
 回答状況の変化のグラフ



「教員による意欲を引き出す工夫・取組（高等学校）」
 回答状況の変化のグラフ



<自由記述欄：高等学校第1回調査（平成24年9月）>

授業やホームルームに対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいことなどを記入してください。 ※（ ）内は所属学年

- 提出物の期限を守り、予習・復習を頑張りたい。（1年生）
- 分からないことは質問し、できるだけ授業で理解できるようにする。（1年生）
- 寝てしまうことがあるのでしっかりと授業に集中したい。（1年生）
- 私語をしないで授業を受けられるようにしたい。（1年生）
- グループの作業で、自分の意見や考えを発表していきたいと思う。（1年生）
- 成績を上げる。（2年生）
- 身の回りの整理整頓をしっかりと行いたい。（2年生）
- 受け身の授業から抜け出したい。（2年生）
- 黒板に書いてあることだけでなく、先生が話した知識などもメモしたい。（2年生）
- 家庭学習の時間を増やしたい。（2年生）
- 授業ですべて覚えきるというつもりで積極的に取り組んでいきたい。（3年生）
- もっと授業を大切にしようと思う。そのために宿題、予習をしっかりとしようと思う。（3年生）
- 進路についてあまり先生などと話をしていないので、よく話し合いたいと思う。（3年生）
- 勉強するだけでなく、日々の態度から見直し、今後も頑張っていきたい。（3年生）
- 先生は練りに練った授業をしているので、その期待に応えたい。（3年生）

<自由記述欄：高等学校第2回調査（平成24年10月）>

授業やホームルームに対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったことなどを記入してください。[良くなった理由や頑張れた理由はなんだと思いますか] ※（ ）内は所属学年

- 予習をする習慣がついた。
[理由：周りのみんながやっている上、授業がわかりやすくなるから。]（1年生）
- 分からないことを友だちと考えるようになった。
[理由：授業が難しくなったから。]（1年生）
- 服装や時間に特に注意して授業に取り組んだ。私語をせずがんばった。
[理由：自分の学力低下に対する危機感から。]（1年生）
- 前もって授業の用意などをするようになった。チャイム着席。
[理由：2年生になるという自覚があるから。]（1年生）
- 集中して授業に取り組めた。
[理由：点数が良かった教科をもっと伸ばしていきたいから。苦手な教科を改善したいから。]（1年生）
- 進路に対して意識するようになった。
[理由：学校でそのような学習時間をとってくれるから。]（2年生）
- 授業も家庭学習も集中して取り組むようになった。
[理由：テストで良い点が取れるようになった。]（2年生）
- 授業中、メモをとることが多くなったと思う。
[理由：授業を聞いているだけだとしていけなくなると思ったから。]（2年生）

- 授業の内容に興味を持てるようになり、寝ないようになった。
 [理由：将来のためになると考えるようになったから。]（2年生）
- 1年生の時よりも勉強に意識が向いている。
 [理由：受験に対する気持ちが高まってきたから。]（2年生）
- ノートをきれいに書くように意識するようになった。
 [理由：ノートを見て復習する回数が増えたから。]（3年生）
- 授業の内容をただ聞くだけでなく、疑問を持ったり、理由付けしたりしながら授業を受けられるようになった。
 [理由：先生の教え方が良かった。苦手教科が楽しくなってきた。]（3年生）
- 最後まで気を抜かずに頑張った。
 [理由：3学年としての自覚をもっているから。]（3年生）
- 隣の友だちと良いコミュニケーションが取れるようになった。
 [理由：問題について互いに良く考えることが多くなり、親交が深まったから。]（3年生）
- 質問するようになった。
 [理由：問題の意図まで考えるようになり始めたから。]（3年生）

<高等学校第2回調査（平成24年 10月）自由記述欄 回答に関する観点のまとめ一覧>

良くなった理由・ 頑張れた理由 良くなったこと・ 頑張ったこと	自己の内的な要因			成績・受験等 の要因		教員の指導・ 関わり方による 要因		学級、友人等 による要因		理由なし、その他	合計
	自己の自覚の高まり、自己の努力など	分からないと困る、このままではいけないという危機感	生活リズムの改善、時間の有効活用など	テストの得点や成績を上げた 点など	受験があるから、進路意識の高揚など	教員の説諭、毅然とした姿勢など	説明がわかりやすい、授業が楽しいなど	学級内の雰囲気、環境など	友人の関わり、影響など		
授業準備、時間を守ること、提出物、環境美化 など	13	3	8	1		2		1		8	36
ノート・メモの取り方 など	8	3	1	7			2	1		7	29
積極性、集中力、学習態度 など	37	10	8	15	17	2	12	15	5	31	152
自ら挙手、発言、質問 など	4			1	1		1	4		1	12
宿題、予習・復習、家庭学習、自学の姿勢 など	10	3	6	10	10	2	1	2	13	8	65
学力・成績の向上、進路意識の高揚 など	5	4	5	1	1	2	2		2	5	27
友人との協力、コミュニケーション、学級活動、 など	4						3	9	3	2	21
特になし、変わらない など										41	41
合計	81	23	28	35	29	8	21	32	23	103	383

※ 1人の生徒が複数の観点を回答している場合もある

<回答結果に関する考察>

高等学校でも、小学校及び中学校と同様、4件法による質問のすべての項目の合計得点に関して、第1回(9月)アンケートの回答平均値よりも第2回(10月)アンケートの回答平均値の方が向上し、t検定の結果、有意差(有意水準 $p < 0.05$ 、以下同様)が見られた。

各質問項目の結果については、4件法による20の質問項目のうち、回答平均値が上がった項目数は17、下がった項目数は3であった。t検定を用いて回答平均値の変容度を測定した結果、平均値が上がった17項目のうち有意差が見られたのは下記の6項目であった。特徴的なことは、中学校の回答結果とは対照的に、回答平均値の向上に有意差が見られた6項目のうち5項目が、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する質問項目であった。また、平均値が下がった3項目のうち、質問1「授業の開始時刻を守って行動している」は、t検定の結果、回答平均値が有意に低下した。しかし、4点満点での3.67(第1回)から3.60(第2回)への低下であるため、回答平均値の数値自体は極めて高く、満点に近い良好な状況であると言える。

【回答平均値の向上に有意差が見られた項目(t検定による)】

- 質問 3 授業中の服装、身だしなみ、言葉づかいなどが適切にできている。
- 質問 11 自分のよいところや頑張ったことなどがほめられる。
- 質問 12 スタンプ、ポイント、シールなどでやる気が引き出されている。
- 質問 13 自分の学力や習熟度に応じた個別指導を受けている。
- 質問 15 話合いや協働・グループ作業などが取り入れられた授業である。
- 質問 19 先生に自分の意見や考えをよく聞いてもらっている。

回答分布状況の変容度については、 χ^2 二乗検定を用いて測定した結果、有意差が見られたのは下記の1項目のみであった。回答平均値の変化に有意差が見られた項目でも、その多くは回答分布状況に関して有意な変化が認められなかったと言える。

【回答分布状況の変容に有意差が見られた項目(χ^2 二乗検定による)】

- 質問 12 スタンプ、ポイント、シールなどでやる気が引き出されている。

上記の変容結果と教員が重点的に取り組んだ指導内容との間に関連があるかどうかを検証するため、アンケートを回答した生徒のホームルーム担任へ追跡調査を実施した。アンケートの質問項目に関して、指導の重点化を図ったと回答したホームルーム担任の人数が多かった項目は、質問1、質問9、質問14、質問18、質問19で、それぞれ7人以上のホームルーム担任が指導に力を入れたと回答した。これらの5項目のうち、回答平均値の向上に有意差が認められたのは1項目(質問19)のみであった。小学校及び中学校では、教員が重点的に取り組んだ指導内容の多くが児童生徒の変容に有意差が見られた項目と合致していたが、高等学校では同様の結果を得られなかったと言える。

高等学校のアンケート結果の特徴的な点は、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関するすべての質問項目で回答平均値が向上し、また、回答平均値の向上に有意差が見られた項目が多かったことである。しかし、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関する質問項目では、第1回アンケート、第2回アンケートともに、10項目のうち

8つの項目で回答平均値が3点以上であるのに対し、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する質問項目では、すべての項目で回答平均値が3点未満である。レーダーグラフでも、「児童生徒の基本的な学習態度の在り方」に関するカテゴリと比べて、「教員による意欲を引き出す工夫」に関するカテゴリではレーダーの広がり極めて小さい(平均値が低い)。中学校のアンケート結果でも同様の傾向が見られたが、高等学校では、さらにその傾向が顕著である。思春期中期から後期の心理的特性から、生徒が、大人である教員の指導や取組に対して冷静または批判的な目を向けている一面があり、そのことが回答数値に表れているのかもしれない。概して言えば、今回のアンケート結果で、教員による意欲を引き出す工夫や取組に対する生徒の評価に有意差が認められる向上が見られたという点は評価すべきことである。しかし、生徒の意欲を引き出す学習指導の実践に関しては依然として工夫・改善の余地があり、これまで以上に、生徒の意欲を引き出す授業改善に向けた取組を充実させることが課題であると考えられる。

自由記述欄について、第1回アンケートでの質問「授業やホームルームに対する自分自身の状況や姿勢について、これから頑張りたいことなどを記入してください」に対し、588人中384人の生徒が、今後頑張りたいことについて具体的に回答していた。回答の中で多かった観点は、「授業に集中する」、「積極的になる、意欲的になる」、「予習復習、家庭学習」などであり、自己の内面的なことを観点として回答する生徒が多かった。また、小学校及び中学校で多かった「自ら挙手、発言、質問など」を回答した生徒は極めて少数であったが、このことも高校生の心理的特性の一面であると考えられる。

第2回アンケートでの質問「授業やホームルームに対する自分自身の状況や姿勢について、良くなったことや頑張ったことなどを記入してください」に対し、337人の生徒が自己の良くなったことや頑張ったことなどを具体的に回答していた。また、派生質問として、「良くなった理由や頑張れた理由はなんだと思いますか」に対し、337人中295人の生徒が、具体的な理由を回答していた。P.63の表は、「良くなったことや頑張ったこと」の観点と、「良くなった理由、頑張れた理由」の観点をまとめた一覧である(1人の生徒が複数の観点を回答している場合があるため、表中の合計数は回答者数と必ずしも一致しない)。

良くなったことや頑張ったことの観点として、回答の中で多かった内容は、「積極性、集中力、学習態度など」、「宿題、予習・復習、家庭学習、自学の姿勢など」であった。自由記述欄への回答者数の割合が小学校及び中学校と比べて低いため一概には言えないが、高等学校では学習内容が難解になるため、授業への集中や家庭学習等に努力を向けた生徒が多かったものと思われる。また、第1回アンケートで、「頑張りたいこと」としてほとんど回答がなかった「自ら挙手、発言、質問など」も、第2回アンケートでは少数ではあるが回答が見られた。

良くなった理由や頑張れた理由の観点として、回答の中で最も多かった内容は、中学校での結果と同様に、「自覚の高まり、自己の努力など」であった。また、「テストの得点や成績を上げたい」、「受験で合格したい」などの観点を回答した生徒も、中学校と同様多くの回答があった。一方、中学校ではほとんど回答がなかった「生活リズムの改善、時間の有効活用など」の観点を回答した生徒も比較的多かった。これは、電車通学等による長い通学時間や部活動に費やす時間と学習時間との兼合いに、努力や工夫を払った

ことによるものと思われる。教員による指導・関わり方などによって「良くなった、頑張れた」という回答は多数ではなかったが、P. 69～70の回答例にもあるように、教員の工夫や取組などが生徒の意欲の喚起に結び付く事例は少なくないと思われる。高等学校においても、小学校及び中学校と同様、意欲を引き出す創意工夫ある学習指導は基本的な学習態度の育成とともに、学力向上の基盤であると言えるだろう。

上記から、高等学校のアンケート調査でも、生徒の心的状況や教員の取組に対する評価などについては、何らかの変化があったものとする。その要因として、①生徒が、自己の学習の姿勢に対して自覚を高めた、②教員が、意欲を引き出す授業の工夫や個に応じた指導の充実に取り組んだ、などのことがあげられるのではないかとと思われる。

児童生徒対象アンケート＜高等学校＞ ～回答結果に関する考察・まとめ～

- 4件法による質問項目の多くで、第1回アンケートの回答平均値よりも、第2回アンケートの回答平均値の方が高く、特に、「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関する質問で、平均値の向上に有意差が認められた項目がいくつか見られた。したがって、小学校及び中学校のアンケート結果と同様、生徒の心的状況や教員の取組に対する評価などには大きな変化があったと言える。
- 「教員による意欲を引き出す工夫・取組」に関しては、回答平均値の向上が見られたものの、数値自体は小学校及び中学校と比べて高い水準であるとは言えない。生徒の意欲を喚起させるための更なる工夫・改善が重要である。
- 自由記述での回答結果では、教員による指導・関わり方によって「良くなった、頑張れた」と直接回答した生徒は多くなかったが、生徒の自覚の高まりや進路意識の高揚に対して教員が与えた影響は、実際には、小さくないものとする。



児童生徒対象アンケート〈小学校・中学校・高等学校〉 ～回答結果に関する全体的考察・まとめ～

研究Ⅲでは、児童生徒対象アンケートを通して、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」に記載されている観点や指導法の実践が、児童生徒にどのような効果や心的変容をもたらすか、回答結果を分析・考察することにより検証した。

「手引き」の記載事項である、生徒指導の機能を生かす授業改善の観点や、学級・ホームルーム経営の工夫などについては、おそらく教育現場において、観念的、または経験的に「有効であろう」と捉えられている内容かと思われる。今回のアンケート結果の検証では、1,800人以上にも及ぶ児童生徒の回答標本から有意性検定を行うなど、できるだけ実証的・理論的な考察に努めた。その結果、教員の工夫や取組が児童生徒に与える影響が大きいこと、また、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」に記載されている観点や指導法の実践が授業改善及び学級・ホームルーム経営の改善に役立つものであることなどが、あらためて明らかになったのではないかと考える。

今回の児童生徒対象アンケートでは、幾つかの困難条件が生じていた（または生じた可能性があった）ことを付け加える。

- アンケート1回目と2回目の間の期間が、約2ヶ月弱と短かった。
- 「手引き」の改善・修正作業と同時進行での効果測定であった。
- 調査標本は、ランダム抽出でなく研究協力校からの抽出であったため、効果が過剰に出ていた可能性があった。
- 第1回アンケート結果で、元々回答平均値が高かった質問項目は、天井効果によりそれ以上の数値向上が出現しにくかった。
- 第1回アンケート結果から、教員が自己の課題をしっかりと踏まえ指導に生かすことによって、児童生徒の回答感度に変化が生じた可能性があった。

上記のことなどがあげられるが、このような困難条件を内包しつつも、本アンケートの回答結果から見えてきた教員の工夫や取組の効果に関する評価すべき積極的な面を、今後の学習指導に生かすことが重要であると思われる。

本研究では、研究1年目に教員対象のアンケート、そして、研究2年目に児童生徒対象のアンケートを実施し、特に、「生徒指導提要」が述べている学習指導における2つの側面のうち、「児童生徒一人一人の意欲を引き出す創意工夫ある指導」に関して、教員側が捉える自己の取組についての課題及び生徒側から見た教員の取組についての課題が浮き彫りになったと思われる。これからの学習指導における生徒指導は、児童生徒が主体的かつ意欲的に授業に取り組めるよう、一層創意工夫を図ることがこれまで以上に重要であろう。一方、児童生徒が意欲的に授業に取り組むための基盤には、「落ち着いて、安心して学ぶことができる授業づくり」が必要であることも、あわせて強調したい。よい授業とは、いわゆる「ぬるま湯」的な環境からつくられるのではなく、教員と児童生徒との間の立場の違いを踏まえ、学習規律や学習環境を整えながら目指すべきものである。「ていねいに」、「時には厳しく」、「できた時にはきちんとほめる（認める）」指導をすることが、児童生徒の学力向上及び成長につながるものと、本研究を通してあらためて実感する。

そのような観点から、本研究のまとめとして提言する「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」が、今後大いに活用されることを切に願う。また、本研究で実施した教員対象及び児童生徒対象アンケートでの質問内容が、教員にとって自己の課題を把握するための「授業改善チェックシート」として活用されることも期待する。

7 研究の成果と今後の課題

研究1年目である平成23年度は、授業に生かす生徒指導の在り方についての定義付けを踏まえ、学校での課題を明らかにするために実施した教員対象アンケートを実施するとともに、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」を作成した。また、研究2年目である本年度は、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の修正・改善作業を何度も重ねながら、同時に、児童生徒対象アンケートを実施し、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の記載内容の有効性について検証を深め、最終的に「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の完成へとつなげた。本研究を通して、教員対象及び児童生徒対象アンケートを実施したことにより、授業や学級・ホームルーム経営に関する様々な課題が、数値的データや「児童生徒の声」によって明らかになり、今後の学習指導の改善に向けたポイントの作成に役立ったのではないかと考える。また、課題解決及び授業改善に向けた具体的方策や手立てを、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」としてまとめ、学校に提案することができたことも大きな成果であると思われる。

今後の課題として、本研究の内容及び「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」を県内公立学校に広く周知し、教員の授業改善に資するよう積極的に働きかけることが最も重要な点であると考えます。また本研究は、生徒指導の機能を生かした工夫・取組による児童生徒の心的状況や、授業に対する姿勢・意欲の変容などについて一定の検証を行うことができたが、そのような児童生徒の変容が、どれだけ学力向上に結び付く結果をもたらすかということについて、まだ研究が不十分である点は否めない。したがって、「生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き」の記載事項が、更に学力向上に結び付く内容となるよう修正・改善を加えていくことも、今後の大きな課題であると捉えている。

8 参考・引用文献等

- 「生徒指導提要」
(平成22年3月 文部科学省)
- 「中学校における積極的な生徒指導の在り方に関する研究－日常の授業に生徒指導の機能を生かす手引きの作成をとおして－」
(平成16年度 岩手県立総合教育センター)
- 「よりよい生徒指導に向けて」
(平成23年3月改訂 山口県教育委員会)
- 「小学校保護者用リーフレット「家庭学習で学力アップ！」」
(平成22年7月 埼玉県教育委員会)
- 「平成22年度・平成23年度『教育に関する3つの達成目標』の取組に係る効果の検証結果報告書」
(平成23年7月・平成24年8月 埼玉県教育委員会)
- 「家庭学習のすすめ」
(平成23年3月 埼玉県教育委員会東部教育事務所)

9 研究協力委員等

<平成23年度>

	所 属	職 名	氏 名
スーパーバイザー	埼玉大学教育学部	教 授	馬場 久志
委員 長	深谷市立岡部中学校	校 長	大澤 誠一
副委員長	北本市立中丸東小学校	教 諭	内田 浩子
副委員長	県立桶川西高等学校	教 諭	高本 勲
委 員	深谷市立藤沢小学校	教 諭	福地 孝史
委 員	坂戸市立城山中学校	教 諭	荻野 智子
委 員	蓮田市立黒浜中学校	教 諭	栗倉 孝久
委 員	県立大宮高等学校	教 諭	石川 貴子
委 員	県教育局県立学校部生徒指導課	指導主事	宮尾 孝
協力者	深谷市立川本南小学校	教 諭 (生徒指導担当研修教員)	雨宮 大地
協力者	鴻巣市立鴻巣中学校	教 諭 (生徒指導担当研修教員)	大越 健司
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	家徳 丈夫
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	秋谷 美保
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	強瀬 雪乃
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	新井 恵
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	相模 幸之

<平成24年度>

	所 属	職 名	氏 名
スーパーバイザー	埼玉大学教育学部	教 授	馬場 久志
委員 長	深谷市立岡部中学校	校 長	大澤 誠一
副委員長	深谷市立藤沢小学校	教 諭	福地 孝史
副委員長	県立浦和高等学校	教 諭	杉崎 一彦
委 員	川口市立元郷小学校	教 諭	関口 美代
委 員	坂戸市立城山中学校	教 諭	荻野 智子
委 員	蓮田市立黒浜中学校	教 諭	栗倉 孝久
委 員	県立新座柳瀬高等学校	教 諭	小泉 篤史
委 員	県教育局県立学校部生徒指導課	指導主事	小林 学
協力者	川越市立武蔵野小学校	教 諭 (生徒指導担当研修教員)	菅原 元気
協力者	久喜市立久喜中学校	教 諭 (生徒指導担当研修教員)	渋澤 真人
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	強瀬 雪乃
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	上岡 勝
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	高井多美子
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	新井 恵
事務局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	相模 幸之



埼玉県のマスコット <コバトン>

基本理念

きすな

生きる力を育て絆を深める埼玉教育

— 埼玉県教育振興基本計画 —